新中央（文系）図書館計画のためのアンケート
調査結果報告書

調査期間：平成 23 年 11 月 9 日（水）～平成 23 年 12 月 26 日（月）

平成 24 年 3 月

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

目　次

はじめに・・1

調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

1. 調査主体
2. 調査目的
3. 調査対象
4. 調査期間
5. 調査方法
6. 回収方法
7. 回答数

おわりに・・6

記録・・7

参考資料

・新中央図書館基本計画第一次案
・アンケート用紙
・新中央（文系）図書館検討のためのアンケートへの協力のお願い

（別添資料）

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（学部生，大学院生対象）

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（教員，大学院生対象）

はじめに

今回新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ（以下,「新中央図書館」,「WG」）が実施したアンケートは，前年度に WG で検討を重ね，WG の上位組織である新中央（文系）図書館検討専門部会において承認された新中央図書館基本計画第 1 次案（以下,「基本計画案」）を受けて，新中央図書館に対するニーズ調査の一環として実施したものである。
WG での検討の結果，アンケートの対象者を学生と教員に分けて別個にアンケートを作成し，大学院生については両方のアンケートへの回答を依頼することとした。またアンケートの対象部局は，低年次学生についてはすべての学部，学部 3 年生以上の学生および教員については伊都キャンパスの文系地区を構成する学部，学府，研究院を主な対象とした。

今回のアンケートの主な目的は WG が基本計画案のなかで示した新中央図書館への機能の集中化という理念が教員や学生が新中央図書館に対して求めているものと合致しているかを把握することと，アンケートの結果を今後基本計画の施設・設備計画を策定していくうえでの検討材料とすることにあった。

アンケートの内容について，学生アンケートでは現在の図書館の利用状況と新中央図書館への期待度を調査する内容とした。いっぽう教員アンケートでは，自身の教育研究における学内資料の利用状況や，基本計画案の趣旨をふまえたうえで新中央図書館での資料の収蔵方法や図書館のあり方等についてどのような要望を持っているかを調査する内容とした。そのため教員アンケートには基本計画案のほか新中央図書館についての検討経緯等を説明した文書を添付し，回答にあたって一読していただくこととした。実際の質問項目については参考資料として実際のアンケート用紙をこの報告書に添付するのでそちらを参照いただきたい。

各アンケートの詳細な集計や分析は後に示すが，今回のアンケートの回答結果からは全体として基本計画案の理念が教員や学生が図書館に対して求めているものと合致していると認められた。
まず学生アンケート回答からは，基本計画案が学生の要望に充分応えうるものであり基本計画案を確実に実現することが伊都キャンパスにおける学生の学習・教育・研究環境の飛躍的な向上に必要であるこういうことが確認できた。
一方教員アンケート回答からも，WG が基本計画案で示した理念は教員の新中央図書館に対する要望をある程度反映できていると判断できる。なかでも移転後の図書館のあり方に関する設問への回答では，基本計画案が示した新中央図書館への資料や機能の集中化の方向に一定の理解が得られたものと考えている。ただし人文科学研究院と法学研究院では「機能分散型」「完全分離独立型」を求める回答が 4 割程度あり，必ずしもすべての部局で新中央図書館への資料や機能の集中化を求める回答が多数を占めたわけではない。
新中央図書館として各部局が考える望ましい図書館のあり方を実現していくためには，今後検討をすすめるなかで，さらなる各部局との調整が必要となるであろう。
また今回実施したふたつのアンケート調査を通じて，図書館の基本機能の充実，そして図書館の立地についての重要性が改めて確認された。いいかえれば教員・学生の両者からこのような当然の要望が強く出されたことは，現在の附属図書館が必ずしもこれらを充分には満たしていないという認識が示されているといえよう。

最後に今回のアンケート回答では，図書館が有するモニュメンタルな機能についても複数の

意見が寄せられた。この点についてはWG内でも度々議論されたところであるが，新中央図書館は単なる書庫＋閲覧室ではなく，九州大学のシンボルとして中核的な機能を担うことが求められると考えている。とくに，南から伊都キャンパスにアプローチする学園通りのほぼ正面に位置する斜面に建設予定される新中央図書館には，九州大学全体のイメージを象徴するランドマークとしてのデザインが求められるであろう。

調査の概要

1. 調査主体

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

2. 調査目的

新中央図書館の主な利用対象者と想定される部局の教員および学生を対象に、現在の図書館と図書の利用等についての実態把握と、施設設備を中心とした図書館に対するニーズを把握することを目的とし、調査結果にもとづき施設・設備計画の策定を進める。

3. 調査対象

教員　　・・・伊都キャンパスの文系地区を構成する研究院及び留学生センターの教員
大学院生　・・・伊都キャンパスの文系地区を構成する学府
学部生　　・・・全学部（1、2 年生）
　　伊都キャンパスの文系地区を構成する学部に所属する学部（3、4 年生）

4. 調査期間

平成 23 年 11 月 09 日（水）　～　平成 23 年 12 月 26 日（月）

5. 調査方法

アンケート用紙の配布および Web アンケートフォームによる調査

6. 回収方法

学部生　・・・授業内でのアンケート用紙配布と当日中の回収、Web 入力
大学院生・・・Web 入力（一部アンケート用紙での回答あり）
教員　　・・・Web 入力（一部アンケート用紙での回答あり）

7. 回答数

学部生　　・・・2,152 名
大学院生・・・ 55 名（学生向けアンケート）
　　37 名（教員向けアンケート）　研究員 2 名を含む
教員　　・・・109 名

詳細な回答者内訳、回答率等は各アンケート報告に記載

※大学院生については、学生向けと教員向けアンケート両方への回答を依頼した

・新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（学部生，大学院生対象）

・新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（教員，大学院生対象）

別添資料を参照のこと

おわりに

今回のアンケートの調査では，全学教育の英語の授業を担当されている先生方をはじめ多くの先生方に授業内でのアンケート実施にご協力いただいた。学生アンケートでは 2,000 人を超える学生から回答を得ることができ，実施にご協力いただいた先生方に深く感謝するとともに，忙しい教育・研究の合間に教員アンケートに回答いただいた各部局の先生方にも改めて御礼を申し上げる次第である。

WG では今回のアンケート結果や図書館の利用データ（入館/貸出/在席数調査等）などをあわせて分析することで，新中央図書館が果たすべき機能を空間的にどう実現していくかについて引き続き検討を続けていくこととする。また今回のアンケート結果を平成 24 年度に行われる伊都キャンパスの文系地区基本設計のための参考資料のひとつとして全学的に共有したいと考えている。

最後に今後の新中央図書館の検討にむけて，今回のアンケート調査を通じての WG の意見を述べることとしたい。

WG では，新中央図書館が大学図書館としての基本機能を果たすためには，現在とくに箱崎地区に見られるような，研究棟に主要な資料が所蔵されている状況を新中央図書館へ集中させていく方向に変えていくことが望ましいと考えている。今回のアンケートへの回答からは蔵書の充実が教員のみならず学生にとっても新中央図書館が果たすべき最重要の機能として考えられていることが確認できたが，全学の利用者や一般市民への公開までを含めた資料の共同利用という観点や，資料の管理・保存環境を考えると，適切な設備の整った新中央図書館に資料を多く収蔵することが望ましいといえるのではなかろうか。

これらのことを考慮すると，文系部局では資料に寄り添って研究をするという意味で，伊都キャンパスへの移転を機に教育棟・研究棟だけでなく新中央図書館も教育・研究の拠点とすることを検討していただく必要があるかもしれない。そのためには多くの資料が研究者の身近にあるという現在の箱崎地区のメリットを，新中央図書館として主にアクセスの面で実現していく必要があるだろう。

利用者として新中央図書館を学習・教育・研究の拠点として活用するためには，図書館にアクセスしやすいことが最も重要であることは，学生と教員両者へのアンケートにより確認できた。しかし新中央図書館の建設予定地と文系地区との間にはキャンパスの地形に起因する高低差が存在し，一方低年次学生が伊都キャンパスでの学習拠点である現在のセンターゾーンから新中央図書館にアクセスするためには，学園通りを渡り，さらに 200 メートル以上の距離を歩かねばならない。このことを考えると，学生と教員両者の要望をともに実現させることは決して容易なことではない。

現在九州大学では平成 23 年 10 月に基幹教育院を設置し，すぐれた研究，大学院教育，専門教育，を生み出すための基礎教育の充実に重点を置いており，新中央図書館はその基礎教育において低年次学生が自ら学ぶための場として機能することも重要な使命としている。前述したとおり平成 24 年度には文系地区基本設計が行なわれ，そこでは新中央図書館を含む文系地区の諸施設の配置について関係部局間で検討が行われる予定である。WG としては新中央図書館が九州大学の総合図書館として機能するためにも，関係部局の教育・研究のための利便性だけではなく、広く全学の学生の図書館利用の利便性についても考慮したうえでの議論が検討の場でなされることを期待したい。

（記録）

1. 実施体制

平成 23 年度　新中央（文系）図書館基本計画検討 WG

（座長）	堀　　賀貴	人間環境学研究院教授
	柴田　篤	人文科学研究院教授
	佐藤　廉也	比較社会文化研究院准教授
	木村　俊道	法学研究院教授
	関　源太郎	経済学研究院教授
	中里見　敬	言語文化研究院准教授
	小湊　卓夫	基幹教育院准教授
	井上　仁	情報基盤研究開発センター准教授
	大神　智春	留学生センター准教授
	三輪　宗弘	附属図書館付設記録資料館教授
	飯田　昇平	附属図書館図書館企画課長

2. WG 日程

2011.07.29	第 1 回 WG
2011.08.29	第 2 回 WG
2011.10.12	第 3 回 WG
2011.10.31	第 4 回 WG
2011.12.05	第 5 回 WG
2012.01.12	第 6 回 WG
2012.02.06	第 7 回 WG
2012.03.14	第 8 回 WG

3. 検討および実施経緯

2011.06.22　新中央（文系）図書館検討専門部会において平成23年度のWG設置を承認
2011.07.29　第1回WG　学生向けと教員向けのアンケートの実施を決定
2011.08.29　第2回WG　アンケート実施内容と方法について検討

・学部1、2年生への実施ついて、全学教育の英語の授業を活用を決定
・教員アンケートについて、参考資料の作成を決定

2011.10.06　全学教育課より1年生対象「英語ⅡB」「英語ⅢA」の各クラス情報を入手
2011.10.11　教員向けアンケートの参考資料について、施設部に内容を確認
2011.10.12　第3回WG　アンケート項目および参考資料について検討
2011.10.13　学部1年生対象のアンケート実施について、「英語ⅡB」内での実施を決定
2011.10.21　アンケートWeb回答フォーム作成（～2011.11.08）
2011.10.31　第4回WG　アンケート項目および参考資料について確定
2011.11.09　人文科学研究院教授会でアンケートについて説明、アンケート実施開始

※各部局の11月教授会においてWGメンバーより説明、アンケート実施
※各部局教員メーリングリストにアンケート案内のメールを送信

2011.11.10　学部2年生対象授業「英語Ⅳ」内でのアンケート実施を決定
2011.11.11　学部1年生対象授業「英語ⅡB」でのアンケート実施（～2011.11.17）
2011.11.15　回答（紙）データ入力作業（～2011.12.26）
2011.11.22　法学部2年生対象授業「行政法Ⅰ」内でアンケート実施
2011.11.28　「英語Ⅳ」授業内でアンケート実施（～2011.12.2）
2011.12.05　第5回WG　アンケート実施状況報告と今後の実施方法について確認
2011.12.06　各部局教員メーリングリストにアンケート協力のリマインダーメール送信
2011.12.09　法学部3、4年生対象「比較政治学」、「商法Ⅰ」でアンケート実施
2011.12.15　経済学部3、4年生対象「上級マクロ経済」でアンケート実施
2011.12.20　各部局教員メーリングリストへ最終のリマインダーメール送信
（～2011.12.21）
2011.12.22　経済学部3、4年生対象「貿易投資分析」でアンケート実施
工学部建築学科3年生対象講習会内でアンケート実施（※Web入力）
2011.12.26　アンケート入力終了
2011.01.04　回答集計開始
2012.01.12　第6回WG　アンケート回答結果、および集計の第一次報告
2012.01.31　アンケート集計・分析報告作成
2012.02.06　第7回WG アンケート報告書検討
2012.03.14　第8回WG アンケート報告書作成
2012.03.22　新中央（文系）図書館検討専門部会にアンケート報告書提出

参考資料

『新中央図書館基本計画』第一次案　（20110622 新中央（文系）図書館検討専門部会承認）
（20110627 附属図書館商議委員会承認）

九州大学附属図書館は学習・教育・研究活動を支える学術情報基盤として、大学の中核を成す施設であるとともに、西日本及びアジアにおける拠点となる大学図書館である。附属図書館は紙媒体電子媒体を問わず学術情報資源を体系的に収集・組織化・保存・継承し、これを利用要求に対し効果的に提供する役割を持つが、新中央図書館はこれらの基礎的役割を充分に果たした上で、さらに活動を育む新たな場として機能することをその使命とする。このことを表現する基本コンセプトとして４つのキーワードを新中央図書館の柱に据え，学習・教育・研究・国際・社会の主に５つの観点から図書館像および基本機能を示す。

1.　基本コンセプト

次の百年を担う図書館であること

~アジアのトップブランドとして~

✧　いざなう　—encourage　　[知の入口]

知の世界へ，知の深みへ

✧　つ な ぐ　—link　　[知の交流]

知と人を，人と人を，過去と未来を

✧　うみだす　—create　　[知の創造]

学生と，研究者と，市民と

✧　はぐくむ　—cultivate　　[知の涵養]

新たなる知を，ゆたかな人を

＜学習＞
主体的な学びを創出する図書館
＜教育＞
教育活動に最大限活用される図書館
＜研究＞
世界水準の学術研究をうみだす図書館
＜国際＞
世界への扉となる図書館
＜社会＞
大学の知を社会につなぐ，開かれた図書館

2.　基本機能

新中央図書館は，九州大学附属図書館全体を統括する総合図書館として，各種事業の企画・立案，各館

及び関連機関・部署との連絡・調整機能を果たすとともに，全学教育及び人文社会科学系教育・研究の拠点となる図書館として，以下の諸機能を果たす。

2.1　学習

学習者のニーズに応じた環境を整備し図書館の有する人的資源を活用して，主体的な学びを促進する。

◆　目的や学習形態，人数に応じ選択できる多様な学習スペースを提供する。
　--閲覧スペース，グループ学習室，個室等多様な学習スペース
　--個人利用，多人数での利用に対応したパソコンやネットワークが利用できる環境　など

◆　長時間滞在が可能となるよう，快適かつ安全で，アメニティ機能の充実した居心地のよい空間を提供する。
　--長時間の学習に耐えうる快適な学習スペース
　--飲食ができるスペース，仮眠もできる休息スペース
　--眺めのよいサロン的空間　　など

◆　学内関係部署と連携し，学生期に応じた人的なサポートを行う。
　--学生の要求に応じた丁寧な学習サポート
　--主体的な学びをうみだす学習の場のマネジメント
　--初年次ガイダンス，3-4 年次ガイダンス，修士対象ガイダンス
　--学習サポーターの配置　　など

◆　学生用図書を体系的に整備し，資料の特性に応じた配置および閲覧スペースを提供する。
　--授業関連図書，各分野の基本図書，参考図書等の効果的な整備・配置
　--資料を利用しやすい閲覧スペース　　など

◆　資料や空間の「視える化」により知的刺激を与える創造的空間を提供する。
　--膨大な図書資料を知の背景として一望できる空間　　など

2.2　教育

本学の教育活動と連携し，図書館資源を最大限に活かして，教育を積極的に支援する。

◆　教員との連携により，授業関連資料を効率的・効果的に整備・運用し，提供する。
　--シラバス掲載図書の効果的整備・配置，シラバスとの連携　など

◆　図書館の資源（設備・蔵書・人材）を有効に活用できる環境を提供する。
　--授業に利用できる部屋・設備，図書館資料を活用して定期的に演習ができるゼミ室
　--授業成果の展示・発表スペース
　--新しいスタイルの授業を行える実験的空間　　など

◆　教育活動と連携し，情報リテラシー教育の主導的な役割を担う。
　--図書館活用セミナー，各種データベース講習会，各授業と連携した講習会　　など

◆　教材開発の支援を行う。

2.3　研究

学術情報基盤の整備と研究活動の専門的支援により，学術の発展に寄与する。

◆　人文社会科学系の研究図書館として，選書・評価体制と資料保存環境の整備により，学術情報基盤を体系的・永続的に構築し，提供する。

--人文社会科学系のアーカイブとして，研究用図書・コレクション等，産業経済資料・歴史資料等，学術雑誌の集約と研究者に対する効率的な提供

--恒常的な財源確保と効果的な選書・評価体制による体系的な蔵書の構築と最適化

--できるだけ開架を多くし，すべての資料を迅速に提供できる資料配置

--資料の特性に応じた保存環境の整備　　など

◆　研究者が学術情報資源を最大限に活用できるよう，文献の検索から入手・管理，論文の執筆・公開までをトータルにサポートする。

--充実したデータベースや索引・目録類の提供

--学術情報資源を一元的に検索できる，ユーザビリティの高い検索サービスの提供

--快適かつ迅速な各種オンライン申し込みサービス，ILL/DDS サービスの提供

--文献管理ツールや学術情報リポジトリ（QIR）による論文執筆・公開の支援　　など

◆　学部・研究院等と連携し，専門的知識を有する職員による研究活動の支援を行う。

--高度なレファレンスサービス

--教員と職員が連携した選書体制　　など

◆　研究活動を快適かつ効果的に行える環境を提供する。

--研究に集中できる閲覧席，個室や研究活動に利用できるゼミ室など多様な研究用スペース

--参考資料，地図資料及びマイクロ資料などの資料の特性に応じた機能的な閲覧スペース

--国際学会にも対応可能なシンポジウムや講演会が行えるホール，研究会等が行えるスペース

など

2.4　国際

大学の国際競争力強化に資し，外国人留学生・研究者の学習・教育・研究支援を充実させるとともに，日本人学生が世界に目を向ける機会を提供する。

◆　外国人留学生・研究者の増加と多様化に対応し，日本人と同等のサービスを受けられるよう図書館利用支援を充実する。

--英語を中心とした言語によるサービス

--外国人留学生向けのガイダンス　　など

◆　外国人留学生・研究者に対して有益な資料や情報を提供する。

--教科書や研究書等の多言語資料

--日本語学習・日本文化理解のための教材

--母国情報・地域情報　　など

◆　学内関係部署と連携して，外国人留学生同士，および外国人留学生と日本人学生との交流を促進するとともに，日本人学生の国際化を支援する。

--ボーダレスな知的交流スペース，交流イベント

--留学関係資料の提供　　など

◆　図書館サービスの高度化のため，海外図書館とのネットワーク構築を推進する。

--図書館間交流協定の継続拡大

--海外図書館との相互利用　　など

2.5　社会

地域社会への開放，学内外のさまざまな機関との連携，情報の発信を積極的に行い，九州大学の持つ地域社会における知の拠点としての役割の中核を担う。

◆　地域の知の拠点として住民の生涯学習に資するため，図書館の資料・施設を地域社会へ広く開放する。

--来館・入館・図書の閲覧・貸出

--貴重資料等の展示公開

--展示コーナーの一般開放

--地域情報の収集・発信　　など

◆　公共図書館等の地域機関との物的・人的な連携強化により，サービスの充実を図る。

--図書の相互貸借

--研修等を通じた職員の交流　　など

◆　社会の学術・教育・産業の活性化に貢献するため，附属図書館が所蔵する資料や，学内で生産された教育・研究成果を電子化し，広く積極的に発信する。

--貴重資料等所蔵資料のデジタルコンテンツの製作・提供

--QIR（九州大学学術情報リポジトリ）による学内研究成果の発信　　など

◆　学内の博物館，文書館，その他部局と連携し，九州大学としての社会への情報発信の一翼を担う。

2.6　人材育成・研究開発

前項までに挙げた基本機能を高い水準で維持・発展させていくため，状況の変化に対応できる専門性の高い人材の育成，図書館サービス高度化のための研究開発を行う。

◆　体系的な研修制度や大学におけるリカレント教育等により，学習・教育・研究に積極的に関与できる専門的な人材を育成する。

--特定の主題分野の専門知識を有し,コレクション構築や研究活動の支援を行うライブラリアンの育成・配置

--学術情報流通の動向に精通し学術情報基盤を効果的に構築する人材の育成・配置　　など

◆　研究開発室を中心に多様な分野の教員との連携により，図書館の先端的分野における研究開発を行う。

--最先端の技術を活用した新しい利用者サービスの研究開発

--大学の学習・教育活動と連携した新たな教育支援サービスについての調査研究　　など

― 新中央図書館（仮称）計画のためのアンケートへのご協力のお願い ―

附属図書館では、貝塚文系地区の移転スケジュールにあわせ、伊都キャンパスに現在の伊都図書館とは別に、新たな図書館（新中央図書館：仮称）をH29年にオープンさせる予定です。

新中央図書館は、九州大学すべての構成員へサービスを展開する総合図書館であるとともに、九州大学の所蔵する人文社会系資料の大半を所蔵する図書館となります。また、学生の方々にとっては、自習・学習の場にとどまらない、キャンパス内での「居場所」でもあるべきだと考えています。

今回のアンケートは、新しい図書館の主なユーザー層となる、全学教育を受ける低年次学生の方々と、箱崎地区と伊都地区の人文社会系学部・学府の学生の方々に、現在の図書館の利用状況と、これから建設される図書館に求める施設・設備・機能についておうかがいして、新しい図書館づくりの計画に活かそうとするものです。

ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

質問1．あなたご自身についておたずねします

1）あなたは何年生ですか？あてはまるものをひとつ選んで回答欄に記入してください。

①学部1年　②学部2年　③学部3年　④学部4年
⑤修士１年　⑥修士2年　⑦博士1年　⑧博士2年　⑨博士3年
⑩その他（　　）

2）所属学部・学府をひとつ選んで回答欄に記入してください。

①文学部　②教育学部　③法学部　④経済学部　⑤理学部　⑥医学部
⑦歯学部　⑧薬学部　⑨工学部　⑩芸術工学部　⑪農学部
⑫21世紀プログラム　⑬人文科学府　⑭比較社会文化学府　⑮人間環境学府
⑯法学府　⑰法務学府　⑱経済学府　⑲その他（　　）

3）あなたのホームキャンパスを下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

①箱崎　②伊都　③馬出　④大橋　⑤筑紫

4）授業の合間の時間を主にどこですごしますか？下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

①図書館　②嚶鳴天空広場　③所属の研究室　④空き教室
⑤学内の食堂　⑥自宅や友人の家　⑦学外の飲食店
⑧その他（　　）

質問2. 現在の九州大学の図書館の利用についておたずねします

1）現在の図書館の利用頻度を下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

① ほぼ毎日　② 週に3～4回　③ 週に1～2回　④ 月に1～2回
⑤ 年に数回　⑥ ほとんど利用しない　⑦ 利用したことがない

※①～⑤を選んだ方は質問 2)から質問 5)に、⑥か⑦を選んだ方は質問 6)におこたえください。

2）一番よく利用する図書館・室を下記からひとつ選んで回答欄に番号を記入してください。

①中央図書館　②伊都図書館　③医学図書館　④芸術工学図書館
⑤筑紫図書館　⑥文系合同図書室

3）図書館を利用する目的を下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

①図書/雑誌の利用　②一人で自習　③グループで学習　④PCの利用
⑤コピー/印刷　⑥文献の取り寄せ　⑦調べ物　⑧情報交換・時間つぶし
⑨その他（　　）

4）図書館のどのスペースをよく使うか、下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

①静かな閲覧席　②情報サロン（PC席）　③個人で借りることのできる個室
④グループで借りることのできる個室　⑤会話OKの学習スペース
⑥軽雑誌・新聞閲覧スペース　⑦その他（　　）

※裏面につづきます

5) 質問 2)で選んだ図書館について、下記の項目について評価してください。（7段階の該当する数字を〇で囲んでください）

			不満			どちらともいえない			満足
施設・設備	1	図書館が身近で便利な場所にある	1	2	3	4	5	6	7
	2	座席が充分な数用意されている	1	2	3	4	5	6	7
	3	パソコンが充分な台数用意されている	1	2	3	4	5	6	7
	4	複写機/プリンタが充分な台数用意されている	1	2	3	4	5	6	7
	5	グループでの学習や会話ができるエリアがある	1	2	3	4	5	6	7
	6	1グループで占有して利用できる部屋の数が充分である	1	2	3	4	5	6	7
	7	1人で占有して利用できる個室の数が充分である	1	2	3	4	5	6	7
	8	ロッカーの数が充分である	1	2	3	4	5	6	7
資料	9	図書や雑誌が充実している	1	2	3	4	5	6	7
	10	図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	1	2	3	4	5	6	7
	11	辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	1	2	3	4	5	6	7
サービス	12	職員によるサポートが充分である	1	2	3	4	5	6	7
	13	開館時間が充分である	1	2	3	4	5	6	7
	14	開館日数が充分である	1	2	3	4	5	6	7

6）図書館を利用しない理由を下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

①どこにあるか知らない　②遠い　③行く必要がない　④自分に必要な本や雑誌がない
⑤その他（　　）

質問3.　新中央図書館についておたずねします

1）図書館に対してあなたの期待度が高い項目を、質問2の5）の14項目から5つ選んで回答欄に記入してください。

2）教室や研究室、食堂から図書館までの距離（時間）は、どれくらいまでなら許容できますか？
下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。
※キャンパス内の高低差は、エレベーターやエスカレーター等の移動手段が確保されていると仮定します。

① 80m（1分）まで　②240m（3分）まで　③400m（5分）まで
④800m（10分）まで　⑤800m以上（10分以上）でもよい

3）近年の大学図書館では、静かな閲覧スペースと、会話をすることのできる学習スペースという2つのタイプのスペースを用意することが主流となってきています。あなたのイメージする新中央図書館には、会話をすることのできる学習スペースが、利用者スペースのうち何割くらいあるとよいと思いますか？

①なくてもよい　② 1割　③2割　④3割　⑤4割　⑥5割　⑦それ以上

4）新中央図書館について、下にあげた設備や機能、サービスに対する期待度を選んで数字を〇で囲んでください

			なくてもよい			あれば使いたい			必要である
座席について	1	ノートや資料を広げながらPCを利用できる広い座席	1	2	3	4	5	6	7
	2	隣や前に座った人との間に仕切りのある座席	1	2	3	4	5	6	7
	3	1人で占有して利用できる個室	1	2	3	4	5	6	7
	4	声を出してeラーニング等を行える防音機能のある部屋	1	2	3	4	5	6	7
	5	図書館の資料を利用しない自習スペース	1	2	3	4	5	6	7
	6	本棚のあいだの読書用の椅子・机	1	2	3	4	5	6	7
	7	資料作成などの作業机・スペース	1	2	3	4	5	6	7
	8	長期間にわたり継続して占有できるブース	1	2	3	4	5	6	7
	9	特殊な形態の資料（大型資料、マイクロフィルムなど）を集中して利用できる場所	1	2	3	4	5	6	7
	10	テラスや屋上など、室外空間の座席	1	2	3	4	5	6	7
休憩場所について	11	食事をとることができる	1	2	3	4	5	6	7
	12	仮眠をとれる快適なソファ等	1	2	3	4	5	6	7
	13	景色のよさ	1	2	3	4	5	6	7
ロッカーについて	14	大型の荷物を入れることのできるロッカー	1	2	3	4	5	6	7
	15	長期間継続して利用可能なロッカー	1	2	3	4	5	6	7
その他サービス	16	各階に図書館スタッフが配置されている	1	2	3	4	5	6	7
	17	24時間開館している	1	2	3	4	5	6	7
	18	365日開館している	1	2	3	4	5	6	7

質問４．その他、現在の図書館やこれからの図書館への要望等がありましたらご記入ください

新中央（文系）図書館検討のためのアンケート（教員・大学院生向け）

1. 所属部局と職名についてあてはまるものを選んで回答欄に記入してください。

所属
①人文　②比文　③人環(文学系)　④人環（教育学系）　⑤人環（工学系）
⑥法　⑦経済　⑧言文　⑨その他

職名等
①教授　②准教授　③講師　④助教　⑤大学院（博士）　⑥大学院（修士）
⑦その他　（　　）

2. 学内の資料の利用状況について

1）ご自身の研究や教育を行うために、下記の資料を現在どれくらいの割合で利用していますか？
全体で100%となるように回答をお願いします。
※文系地区の資料について、詳細がわからない場合は②を選んでください。
※図書館で管理をしていない資料についてはすべて⑦に含めてください。

①図書館（中央図書館・伊都図書館等）所蔵の資料　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

②貝塚文系地区書庫（文系合同図書室）所蔵の資料　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

③学科図書室所蔵の資料　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

④講座等の研究室、共通室所蔵の資料　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

⑤個人研究室所蔵の資料　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

⑥電子ジャーナル、電子ブック等　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

⑦その他（個人所有の資料、学外の資料等）　①0%　②10%　③20%　④30%　⑤40%　⑥50%　⑦60%⑧70%　⑨80%　⑩90%　⑪100%

2）上記の②にある資料が移転後に新中央館に収蔵された場合、研究や教育に支障が生じますか？
①　はい　　②　新中央館までの距離による　　③　いいえ

3）上記の③にある資料が移転後に新中央館に収蔵された場合、研究や教育に支障が生じますか？
①　はい　　②　新中央館までの距離による　　③　いいえ

4）上記の④にある資料が移転後に新中央館に収蔵された場合、研究や教育に支障が生じますか？
①　はい　　②　新中央館までの距離による　　③　いいえ

5）上記2)、3)、4）の質問で「はい」と回答された方々へ
図書館が24時間開館していれば研究や教育に支障は生じませんか？
①　はい　　②　いいえ

3. 資料の分類法について

平成11年3月にまとめられた「図書資料分類法の統一に関する検討会議報告」のなかで、キャンパス移転後の新図書館における統一分類法として、日本十進分類法(NDC)を採用することが提案され、第1回新中央（文系）図書館検討専門部会（H14.8.26）、第180回附属図書館商議委員会（H15.2.26）において了承されています。
報告のなかでは、NDCを採用する利点として、蔵書数が多く、不特定多数の利用者が利用する大規模図書館では、全学問分野をカバーした、統一された簡明な規則のもとで分類されることが望ましいことなどがあげられています。

1） 図書の分類法と新中央館での資料の配架について、下記のどれが望ましいですか？
ひとつお選びください。

①移転後に新規に受入する資料は原則としてNDCで分類する。現在独自の分類をされているものについては、今後段階的にNDCに再分類して再配架をしていくべき

②移転後に新規に受入する資料は原則としてNDCで分類する。現在独自の分類をされているもについては、移転後も分類はそのままとし、移転終了後の新規受入資料とはエリアを分けて配架する。

③各部局独自の分類体系は移転後も維持することが望ましい

2） 独自分類を維持すべき資料について、また分類法全般についてご意見がありましたらご記入ください）

4. 新中央館へのアクセスについて

研究室から新中央館までの距離（所用時間）は、どれくらいまでであれば許容できますか？
※キャンパス内の高低差については、エレベータやエスカレーター等の移動手段が確保されているとします。

① 80m（1分）まで　②240m（3分）まで　③400m（5分）まで　④800m（10分）まで
⑤800m以上でも構わない　⑥その他

5. 新中央館における資料の収蔵方法について

新中央館の面積によっては、移転完了後に収蔵予定の資料を、すべて開架方式で配架することが困難となる場合があります。また、開架方式の資料を増やした場合、相対的に全体の収蔵可能冊数は低下します。上記のような場合、どのような対応が望ましいとお考えか下記からお選びください。

① 各部局の面積を拠出して図書館の予定面積を増床してでも開架方式の資料を増やすべきである
② 予定面積の範囲内で、できるだけ開架方式の資料を増やすべきである
③ 予定面積の範囲内で、開架方式と閉架方式の最適のバランスをとるべきである
④ 開架図書を増やすよりも、図書館としての収蔵能力の強化を優先すべきである
⑤ その他

6. 図書館の教育目的での活用について（教員の方のみご回答ください）

1） 図書館内に講義室、ゼミ室を設けた場合に利用しますか？

①利用する　②図書館までの距離による　③利用しない

2） ①, ②と回答された方へ　講義室、ゼミ室にもとめる設備について、ご意見をお願いします

＿＿＿＿名収容の講義室　＿＿＿＿室　希望する設備：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿名収容のゼミ室　＿＿＿＿室　希望する設備：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

7. 図書館の基本的な施設/設備以外に、新中央図書館に必要とお考えの施設/設備がありましたらお聞かせください。

8. 新中央館のあり方（形態）について

マスタープラン2001において、伊都キャンパスでの施設配置の方針として、理系図書館と新中央館の2館を整備することが示されています。新中央館WGではマスタープランのもとにおいてのもとにおいて、下記の選択肢のうち図書館集中型を念頭において基本計画を策定しています。新中央館と部局とのあり方については、図書館集中型のほか、以下にあげた形態が考えられますが、皆様はどのあり方が望ましいと考えておられますか？下記からお選びください。

①図書館集中型
現在、部局の研究棟（文系合同図書室等）にある資料は新中央館に配架し、図書に関する各種のサービス（購入図書の受け渡し等）も新中央館で行う。（面積効率は最も高い）：必要面積は、おおよそ20,000㎡以上。

②サービスポイント設置型
現在、部局の研究棟（文系合同図書室等）にある資料は新中央館に配架し、一部のサービス（資料の受取り等）を行うポイントのみ部局の研究棟に配置する：必要面積は図書館集中型よりやや少ない。

③ネットワーク型
新中央館のほか、部局の研究棟にも一部書庫や資料室、閲覧スペース等を設置し、新中央館は各図書室と連携する。：必要面積は機能の分担程度によって大きく異なり、15,000㎡～18,000㎡程度。

④機能分散型
研究に必要な資料は、新中央館ではなく主に部局の研究棟に所蔵する。新中央館は基本的な資料の提供や学習の場の提供等の機能を主に受け持つ。：必要面積は、おおよそ12,000㎡程度。

⑤分離独立型
研究に必要な資料は、新中央館ではなくすべて部局の研究棟に所蔵する。各部局ごとに図書の運用と管理を独自に行う、研究所型図書室を持ち、新中央館は基本的な資料や学習の場の提供の機能のみを持つ（面積の効率はもっとも低い）：必要面積は12,000㎡以下となる。

9. その他、新中央館や現在の図書館についてご意見がありましたらお聞かせください。

2011.11.1

新中央（文系）図書館検討のためのアンケートへの協力のお願い

新中央（文系）図書館基本計画検討 WG

附属図書館商議委員会の下の新中央（文系）図書館検討専門部会に設けられた新中央（文系）図書館基本計画検討 WG（以下、新中央館 WG）では、伊都キャンパスへの文系部局移転にあわせて平成 29 年に開館される予定の新中央（文系）図書館（仮称：以下、新中央館）について検討を行っています。新中央館 WG では、今後さらに検討をすすめていくにあたり、人文社会系部局の教員や大学院生の方々を対象にアンケートを実施し、現在のご自身の研究・教育と図書館（図書や雑誌）との関係や、新中央館についてご意見をおうかがいしたいと考えています。

まずは、今回のアンケートにご協力いただく前に、具体的に新中央館をイメージしていただくため、以下のような解説を付しました。アンケートのご参考になれば幸いです。

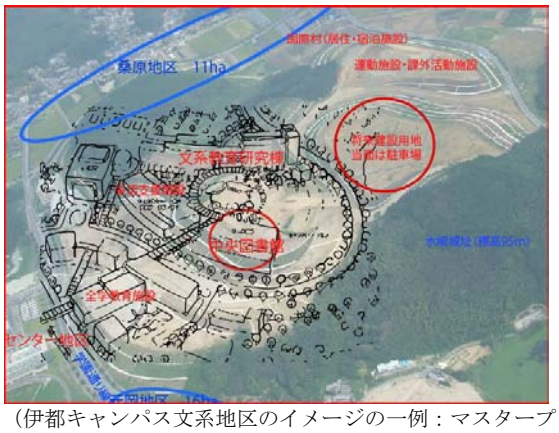
1．基本計画第一次案の概念と新中央館のイメージ

新中央館 WG の作成した「新中央図書館基本計画第一次案」では、「九州大学の次の百年を担う図書館」としての図書館のかたちを提示しました。

新中央館は、附属図書館全体を統括する総合図書館であるとともに、本学の人文社会系資料の大半を収蔵し、関係する構成員の研究と教育を支援する巨大な図書館となります。さらに学生にとって、学習・研究の場にとどまらず、伊都キャンパスでの主要な「居場所」となり、さらには大学の社会貢献、国際貢献の一翼をも担う、いわば「九州大学の顔」となる図書館を目指しています。

今後の検討では、基本計画第一次案の理念に基づき、より具体的な図書館像について、構想をとりまとめていく予定です。

2．大学の移転計画における新中央館と研究・教育施設との位置関係



（伊都キャンパス文系地区のイメージの一例：マスタープラン 2001 より）

九州大学が 2001 年に策定したマスタープラン 2001（キャンパス計画における基本的な方針）の中では、新中央館については「イースト・ゾーンの一般研究・教育施設との関係、および全学的利用に配慮」、また一般研究・教育施設について「中央図書館へのアクセスに配慮」

と記されていますが、詳細については、今後行われる「文系地区基本設計」のなかで検討されることになります。したがって、文系地区全体の計画と連携しながら、新中央館の具体的なイメージを創りあげたいと考えています。

3. 面積など、基本的な情報

〇伊都キャンパスの文系地区について・・・現在の貝塚地区よりも研究・教育施設と新中央館が近接して立地することになります。

〇新中央館の収容予定冊数・・・**350 万冊**　今後の増加分（年間 37,000 冊程度）を考慮

＊参考：文系地区移転完了時（平成 30 年予定）時の蔵書冊数：約 260 万冊

（「九州大学附属図書館移転計画 2007」第 196 回附属図書館商議委員会了承 より）

〇新中央館の予定面積　**12,000 ㎡（最小面積：*1）　～　31,000 ㎡（最大面積：*2）**

最小面積を越える部分については、今後文科省との協議により決定されることとなり、現時点で新中央館の予定面積を確定的な数字でお知らせすることはできません。

この条件のもとで、書架や閲覧席、その他利用者のための諸室に使用できる面積（予定面積から管理（事務）部門や、廊下、階段、トイレなどの必要面積を差し引いたもの）を算出すると、**4,200 ㎡　～　16,550 ㎡**となります。

最小面積での整備となった場合は、350 万冊（収容予定冊数）すべてを集密あるいは自動書架に収蔵する必要があり、最大面積での整備となった場合は、350 万冊をすべて通常書架（開架：書架で直接資料を手に取ることが可能）にすることも可能です。

したがって、最小面積の場合には、各部局に図書館のもつ機能の一部を分有していただく必要があるかもしれませんし、最大面積の場合には、基本的な図書館機能に加えて、研究、教育機能を従来よりさらに充実させることも可能です。

本アンケートでは、こうした背景をお知らせしつつ、みなさまの率直な意見をうかがうことを目的としてます。

*1：最小面積について　（現有面積として、移転事業の中で確保されている面積）

文系合同図書室書庫を含む、箱崎と旧六本松地区の図書館面積 （「国立大学法人等施設実態調査」で調査単位が「大学図書館」とされている施設面積）から伊都（理系）図書館分の面積等を引いた面積

*2：最大面積について

文部科学省の「大学図書館施設計画要綱」（1966）の面積算定基準[図書館の場合、学生数、蔵書冊数に基づく]により算出した場合の面積

参考：各館室の総延面積（「文部科学省学術情報基盤実態調査」、九州大学「図書館要覧」より）

伊都図書館：14,741 ㎡　中央図書館：13,668 ㎡　旧六本松図書館：5,115 ㎡

文系合同図書室：5,740 ㎡　記録資料館：3,428 ㎡

（ここにあげた面積は、学術情報基盤として図書館サービスを行っている施設全体の面積であり*1 でご説明した、施設管理上「大学図書館」とされる面積とは異なる基準によるものです）

****

図書資料の収納や閲覧席に必要とされる面積を以下にあげます。

※実際には、諸条件により数値はかわりますので、あくまで参考としてご覧ください

〇資料収納のための面積

通常書架・・・250 冊／㎡（開架：書架で直接資料を手に取ることが可能）

集密書架・・・500 冊／㎡（開架：資料を直接手に取れるが、同時利用人数が限られる）

自動書庫・・・800 冊／㎡（閉架：検索した資料を 1 冊ごとに PC から出庫要求して利用）

※通常書架、集密書架については、運用上職員の出納による利用（閉架形式）となる場合があります。

【収蔵方法の例】

・350 万冊をすべて通常の開架収蔵するとした場合・・・14,000 ㎡

・200 万冊を開架、150 万冊を集密書架とした場合・・・8,000+3,000=11,000 ㎡

・100 万冊を開架、250 万冊を集密書架とした場合・・4,000+5,000＝9,000 ㎡

・100 万冊を開架、150 万冊を集密書架、100 万冊を自動書庫とした場合

・・4,000+3,000+1,250=8,250 ㎡

・100 万冊を開架、100 万冊を集密書架、150 万冊を自動書庫とした場合

・・4,000+2,000+1,875=7,875 ㎡

〇閲覧席のための面積

1 人掛け 2.86 ㎡／人，2 人掛け 2.16 ㎡／人，6 人掛け 1.49 ㎡／人

→　2.4 ㎡／人【平均】

座席数については、文科省「大学図書館施設計画要綱」（1966）に算定基準がありますが、ここでは現在の九州大学の図書館の 2 館の座席数、伊都図書館（740 席）と現中央図書館（701 席）に基づき、新中央館での座席数を約 800 席と仮定します。

座席数 800 席×2.4＝1,920 ㎡

参考：九大図書館の開架率

図書館名	面積（㎡）	蔵書冊数（千冊）	うち開架図書冊数（千冊）	開架率
九州大学　中央図書館	13,668	938	800	85.3%
伊都図書館	11,133	921	390	42.3%
文系合同図書室	5,740	1,406	914	65.0%

（2010年3月31日現在）
「日本の図書館2010」 日本図書館協会編　より

参考例：収容可能冊数ベースでの開架率

早稲田大学
「大学図書館研究」38（1991.10）より

配架場所	冊数（千冊）	割合
開架閲覧室	201	7.9%
開架書庫	1,570	61.8%
閉架書庫	（一部あり冊数不明）	
自動書庫	500	19.7%
その他	271	10.7%
計	2,542	

國學院大學
「大学図書館研究」85(2009.3)より

配架場所	冊数（千冊）	割合
開架閲覧室	90	4.9%
開架書庫（一般書架）	200	11.0%
開架書庫（集密書架）	500	27.4%
自動書庫	1,000	54.8%
その他	35	1.9%
計	1,825	

九大伊都（理系）図書館
（移転完了時の収容冊数）

配架場所	冊数（千冊）	割合
開架閲覧室	370	26.8%
開架書庫（集密書架）	180	13.0%
閉架書庫	110	8.0%
自動書庫	800	58.0%
計	1,460	

アンケートについては下記URLのアンケートフォームからご回答ください。
（入力期限：12月26日）

大学院生の方々にも、アンケートに回答いただきますよう、周知についてご協力をお願いいたします。
※大学院生については、学生向けアンケートにもご協力いただければ幸いです。

【教員向けアンケートURL】

http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18672

【学生向けアンケートURL】

http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18518

附属図書館ウェブサイト　>　図書館について　>　新図書館計画　>　アンケート

【別添資料 1】

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート
調査結果
（学部生，大学院生対象）

平成 24 年 3 月

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

アンケート調査の概要

1.　調査目的

新中央図書館の主な利用者層となる、すべての学部に所属する低年次学生、および伊都キャンパスの文系地区を構成する部局に所属する学生の、現在の図書館の利用状況、ならびに新たに建設される図書館に対するニーズ調査を行い、調査結果を今後の新中央図書館基本計画策定の参考とすることを目的とする。

2.　実施期間

平成 23 年 11 月 11 日～平成 23 年 12 月 26 日

3.　実施方法

・調査対象

大学院生…　伊都キャンパスの文系地区を構成する学府

学部生　…　1～2 年生：全学部

3～4 年生：伊都キャンパスの文系地区を構成する学部に所属する学部

・調査方法

授業内でアンケート用紙の配布（当日中回収）および web アンケートフォームによる調査

4.　回収状況

学年	回答者数（人）	在籍者数（人）	回答率
学部 1 年	1,164	2,725	42.72%
学部 2 年	693	2,682	25.84%
学部 3 年	174	762	22.83%
学部 4 年	55	962	5.72%
修士・博士	55	―	―
不明	11	―	―
合計	2,152		

2,152 名から回答を得た。回答者の約半数は学部 1 年生である。学部 4 年および修士・博士は回答率が低いため分析には注意を要する。

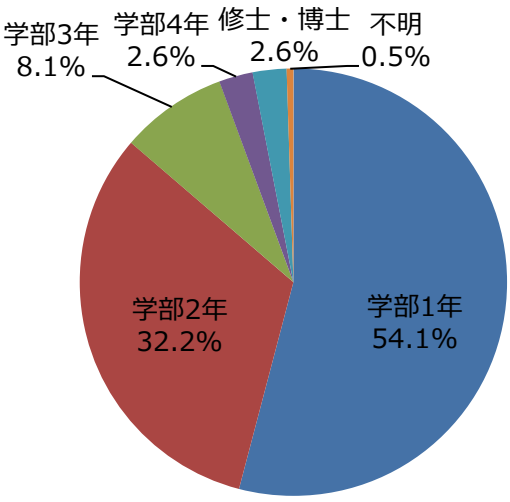
アンケート集計結果概要

＜回答者の属性について＞

質問 1．あなた自身についておたずねします。

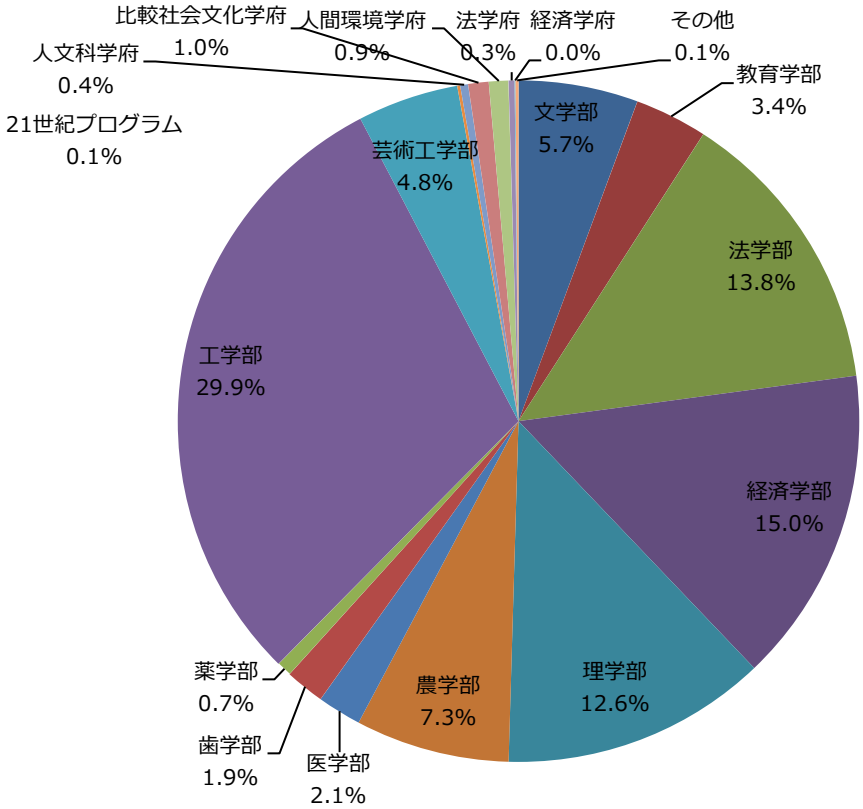
1-1）あなたは何年生ですか？あてはまるものをひとつ選んで回答欄に記入してください。

学年	回答者数（人）	割合
学部１年	1,164	54.1%
学部２年	693	32.2%
学部３年	174	8.1%
学部４年	55	2.6%
修士・博士	55	2.6%
不明	11	0.5%
合計	2,152	100.0%



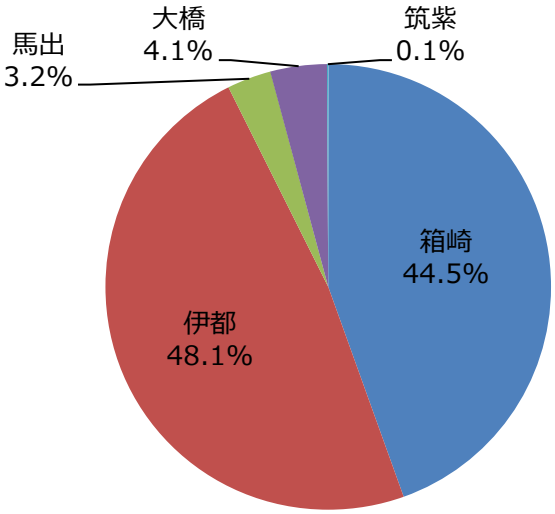
1-2) 所属学部・学府をひとつ選んで回答欄に記入してください。

所属	回答者数(人)	割合
文学部	122	5.7%
教育学部	74	3.4%
法学部	296	13.8%
経済学部	323	15.0%
理学部	271	12.6%
農学部	157	7.3%
医学部	45	2.1%
歯学部	40	1.9%
薬学部	15	0.7%
工学部	644	29.9%
芸術工学部	103	4.8%
21 世紀プログラム	3	0.1%
人文科学府	8	0.4%
比較社会文化学府	21	1.0%
人間環境学府	20	0.9%
法学府	6	0.3%
経済学府	1	0.0%
その他	3	0.1%
合計	2,152	100.0%



1-3）あなたのホームキャンパスを下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

キャンパス	回答数	割合
箱崎	958	44.5%
伊都	1,035	48.1%
馬出	69	3.2%
大橋	88	4.1%
筑紫	2	0.1%
合計	2,152	100.0%

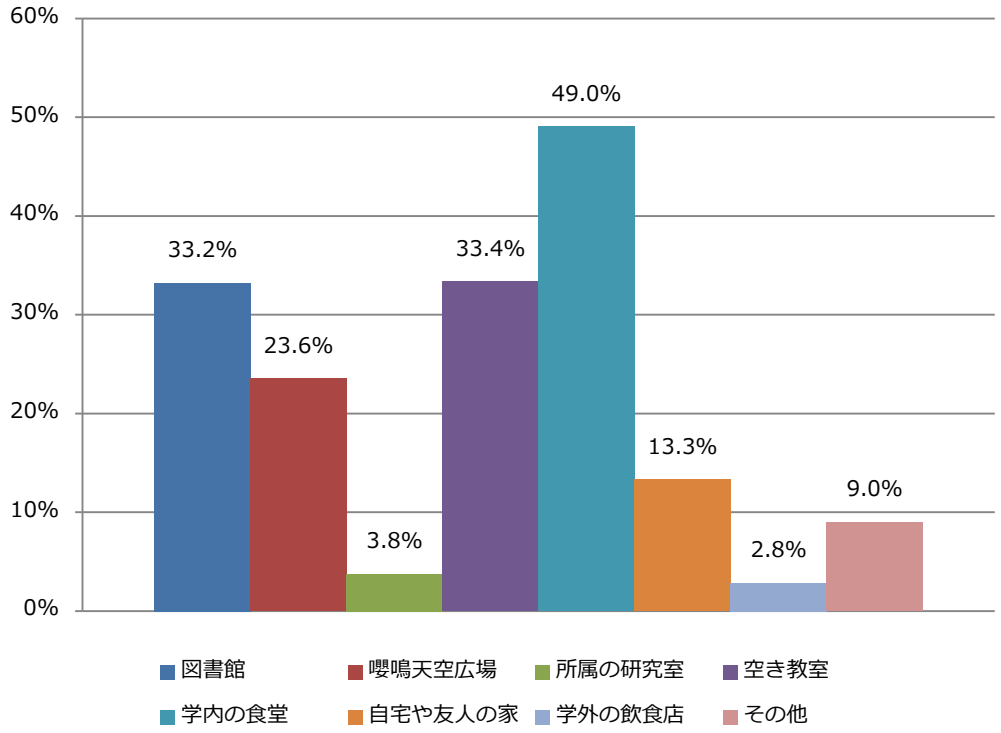


1-4）授業の合間の時間を主にどこですごしますか？下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

1-4）1.　全体

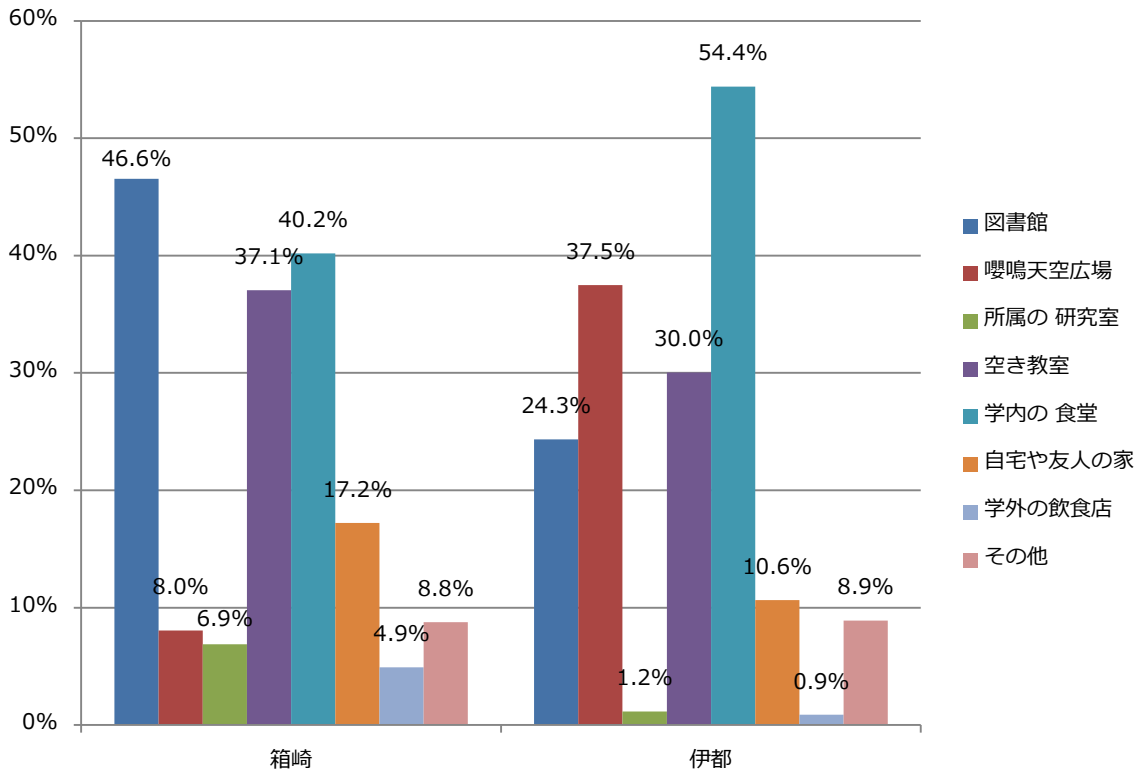
場所	回答数	割合
図書館	715	33.2%
嚶鳴天空広場	507	23.6%
所属の研究室	81	3.8%
空き教室	718	33.4%
学内の食堂	1,055	49.0%
自宅や友人の家	286	13.3%
学外の飲食店	61	2.8%
その他	194	9.0%
回答者数	2,152	

※割合は回答者数に占める得票数



1-4）2.　質問 1.の 3）ホームキャンパス別にみた「授業の合間に過ごす場所」

ホーム キャンパス	図書館	嚶鳴天空 広場	所属の 研究室	空き教室	学内の 食堂	自宅や友人 の家	学外の 飲食店	その他	回答者数
箱崎	446	77	66	355	385	165	47	84	958
伊都	252	388	12	311	563	110	9	92	1,035
馬出	8	20	0	25	46	3	1	8	69
大橋	9	22	1	27	61	8	4	10	88
筑紫	0	0	2	0	0	0	0	0	2
合計	715	507	81	718	1,055	286	61	194	2,152



上のグラフは、ホームキャンパス別に箱崎と伊都の「授業の合間に過ごす場所」の回答者数に占める割合を示したものである。

箱崎キャンパスでは授業の合間に過ごす場所として「図書館」が最も多く、次いで「学内の食堂」、「空き教室」の 2 カ所が多くなっている。一方、伊都キャンパスでは、「学内の食堂」が圧倒的に多い。「嚶鳴天空広場」、「空き教室」、「図書館」も比較的授業の合間によく過ごされる場所である。これは伊都図書館の場所がセンターゾーンから離れていることが要因のひとつとして考えられる。

「その他」の場所で 2 件以上の同じ意見があったものは以下のとおり。質問の選択肢以外では、部室で過ごすという学生が多い。

場所	意見数
部室	63
製図室	24
パソコン室	9
情報室	8
外	6
次の授業の教室	6
テニスコート	3
喫煙所	4
部活動場所	3
法学部サロン	3
グラウンド	2
運動場	2
経済学部サロン	2
自習室	2
芝生	2
体育館	2

1-4）3.　学年別にみた「授業の合間に過ごす場所」順位

学年	1 位			2 位			3 位		
学部 1 年	学内の食堂	668	72.7%	嚶鳴天空広場	487	53.0%	空き教室	335	36.5%
学部 2 年	学内の食堂	322	51.1%	空き教室	310	49.2%	図書館	305	48.4%
学部 3 年	図書館	89	55.3%	空き教室	56	34.8%	学内の食堂	46	28.6%
学部 4 年	図書館	26	48.1%	学内の食堂	14	25.9%	自宅や友人の家	14	25.9%
修士・博士	所属の研究室	42	80.8%	図書館	14	26.9%	空き教室	8	15.4%

	4 位			5 位			6 位		
学部 1 年	図書館	273	29.7%	自宅や友人の家	121	13.2%	その他	106	11.5%
学部 2 年	自宅や友人の家	106	16.8%	学外の飲食店	38	6.0%	その他	36	5.7%
学部 3 年	自宅や友人の家	37	23.0%	その他	36	22.4%	嚶鳴天空広場	7	4.3%
学部 4 年	所属の研究室	13	24.1%	空き教室	9	16.7%	その他	6	11.1%
修士・博士	その他	8	15.4%	自宅や友人の家	5	9.6%	学内の食堂	3	5.8%

	7 位			8 位			全体回答者数
学部 1 年	学外の飲食店	14	1.5%	所属の研究室	2	0.2%	919
学部 2 年	所属の研究室	19	3.0%	嚶鳴天空広場	13	2.1%	630
学部 3 年	所属の研究室	3	1.9%	学外の飲食店	3	1.9%	161
学部 4 年	学外の飲食店	4	7.4%	嚶鳴天空広場	0	0.0%	54
修士・博士	学外の飲食店	1	1.9%	嚶鳴天空広場	0	0.0%	52
							1,816

※割合は各学年の全体回答者数を 100%としたときの割合を示す

学部別に傾向を見ると、学部 1 年生では、「学内の食堂」、「嚶鳴天空広場」、「空き教室」に次いで 4 番目に「図書館」の人気がある。学部 2 年生では「学内の食堂」、「空き教室」に次いで 3 番目に人気があり、その差はトップ 2 とほとんど変わらない。3 年生、4 年生になると、「図書館」が最も人気のある場所である。修士・博士課程の大学院生は、「所属の研究室」という回答が最も多い。

学部 3 年生以上では、より勉強に取り組んでおり、そのため図書館や研究室で過ごすことが多く、低年次生では食堂等で友人と過ごしている様子がうかがえる。

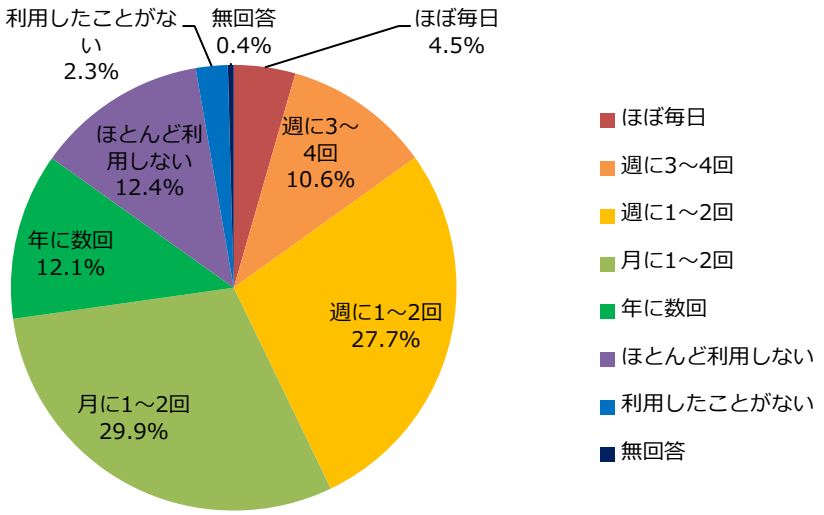
＜現在の図書館利用について＞

質問 2.　現在の九州大学の図書館の利用についておたずねします

2-1）現在の図書館の利用頻度を下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

2-1）1.　全体

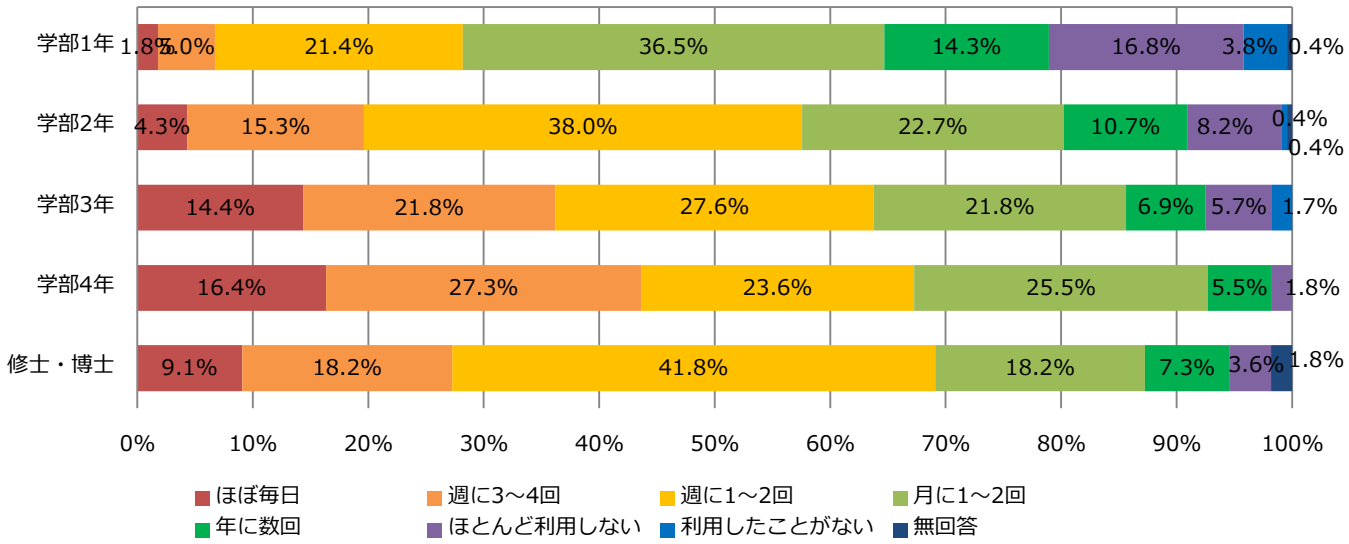
利用頻度	回答者数	割合
ほぼ毎日	96	4.5%
週に 3～4 回	229	10.6%
週に 1～2 回	597	27.7%
月に 1～2 回	644	29.9%
年に数回	260	12.1%
ほとんど利用しない	267	12.4%
利用したことがない	50	2.3%
無回答	9	0.4%
合計	2,152	100.0%



「月に 1～2 回」「週に 1～2 回」という回答が各々30%近く、両方合わせた中間利用層が 57%と半数を超える。低利用層（「年に数回」、「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」）の学生は約 26%になる。

2-1）2.　学年別にみた図書館利用頻度

学年	利用頻度								回答者数
	高利用		週に 1 ～2 回	月に 1 ～2 回	低利用			無回答	
	ほぼ毎日	週に 3 ～4 回			年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない		
学部 1 年	21	58	249	425	166	196	44	5	1,164
学部 2 年	30	106	263	157	74	57	3	3	693
学部 3 年	25	38	48	38	12	10	3	0	174
学部 4 年	9	15	13	14	3	1	0	0	55
修士・博士	5	10	23	10	4	2	0	1	55



学部 1 年生では、25%以上の学生が図書館を週 1 回以上利用している一方で、月 1 回以下しか図書館を利用しない学生も 30%以上いる。学部 2 年生は、50%以上の学生が図書館を週 1 回以上利用している。学部 3 年生では、60%以上の学生が図書館を週 1 回以上利用しており、ほぼ毎日利用する学生も 10%以上いる。学年が上がるにつれ、図書館の利用頻度が上がっており、低利用層の割合が減っていることが分かる。

2-2）一番よく利用する図書館・室を下記からひとつ選んで回答欄に番号を記入してください。

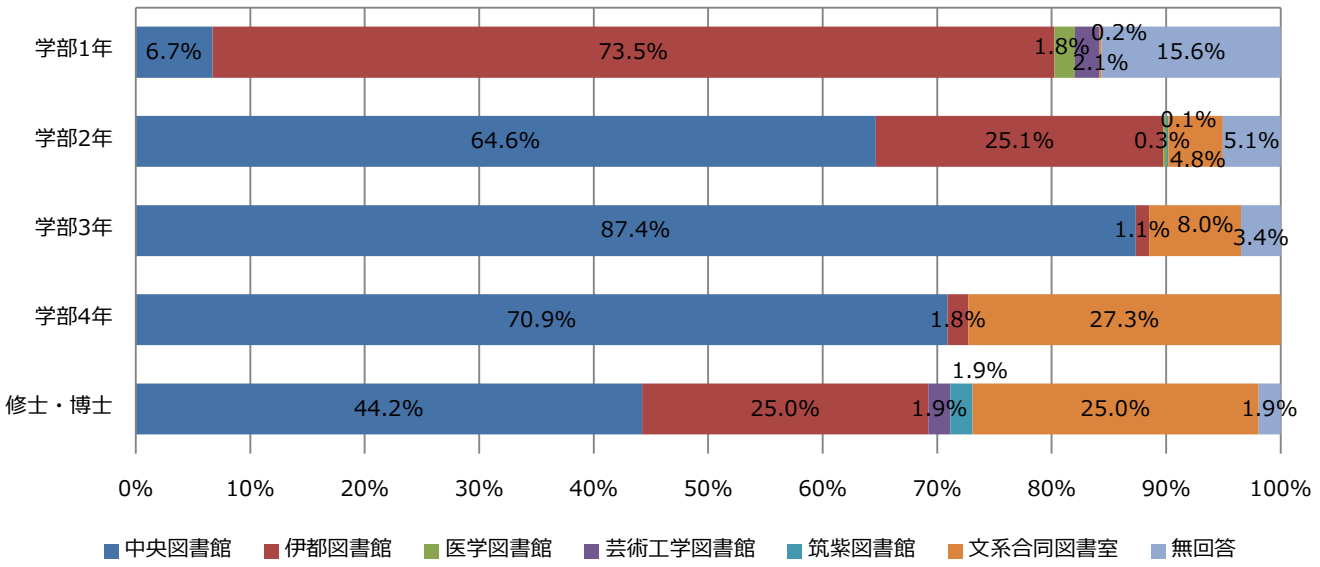
母数は「殆ど利用しない」「利用したことがない」を除く。以下、質問 5）まで同じ。

2-2）1.　全体

利用図書館	回答者数	割合
中央図書館	751	34.9%
伊都図書館	1,047	48.7%
医学図書館	23	1.1%
芸術工学図書館	26	1.2%
筑紫図書館	3	0.1%
文系合同図書室	78	3.6%
無回答	224	10.4%
合計	2,152	100.0%

2-2）2.　学年別にみた利用図書館

	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	無回答	回答者数
学部１年	78	856	21	25	0	2	182	1,164
学部２年	448	174	2	0	1	33	35	693
学部３年	152	2	0	0	0	14	6	174
学部４年	39	1	0	0	0	15	0	55
修士・博士	23	13	0	1	1	13	1	52
	740	1,046	23	26	2	77	224	2,138

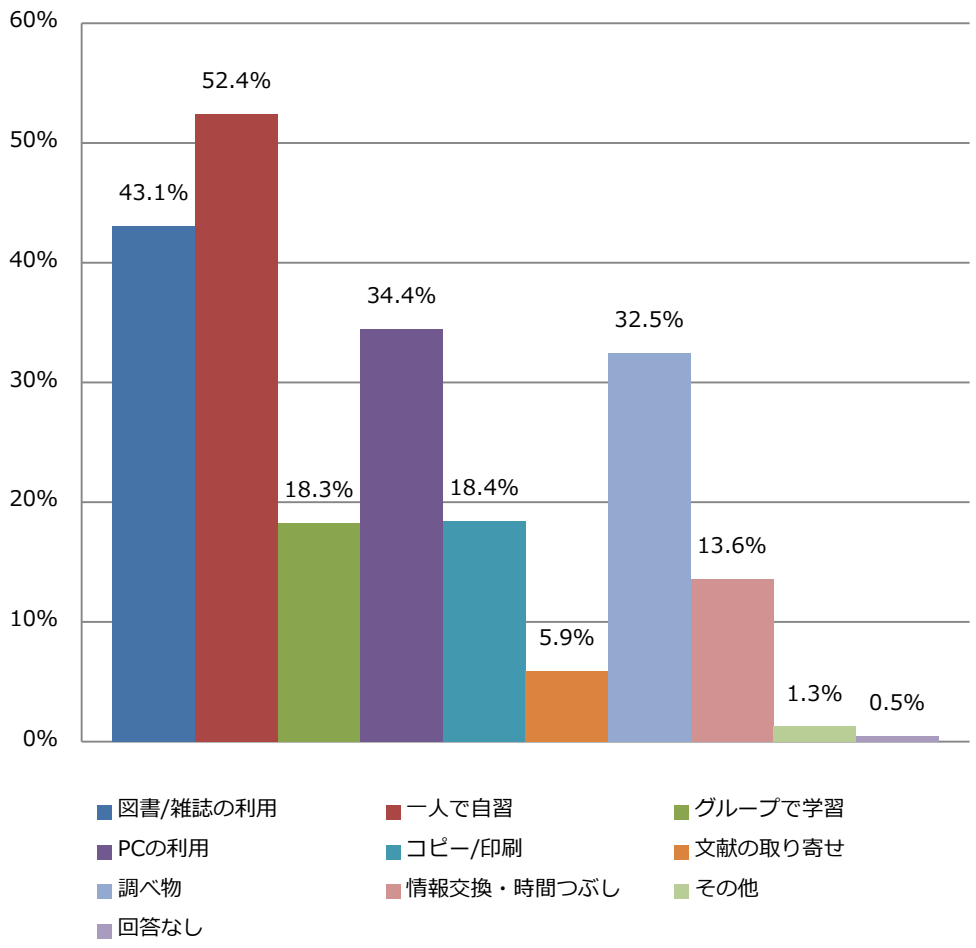


2-3）図書館を利用する目的を下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

2-3）1.　全体

利用目的	回答数	割合
図書/雑誌の利用	927	43.1%
一人で自習	1,127	52.4%
グループで学習	393	18.3%
PC の利用	741	34.4%
コピー/印刷	396	18.4%
文献の取り寄せ	126	5.9%
調べ物	699	32.5%
情報交換・時間つぶし	292	13.6%
その他	27	1.3%
回答なし	10	0.5%
回答者数	2,152	

※割合は回答者数に占める得票数



「その他」の利用目的

利用目的	意見数
新聞	6
ミーティング	4
サークル	3
午睡(昼寝)	1
レポート作成	1
趣味	1
部活	1

全体の傾向としては、「一人で自習」が 52.4%と最も多い。ついで「図書/雑誌の利用」、「PC の利用」と続く。グループでの学習の割合は 18.3%。

2-3）2.　学年別にみた「図書館利用目的」順位

学年	得票数にもとづく順位								
	1 位			2 位			3 位		
学部 1 年	一人で自習	541	58.9%	図書/雑誌の利用	470	51.1%	PC の利用	370	40.3%
学部 2 年	一人で自習	432	68.6%	PC の利用	279	44.3%	図書/雑誌の利用	266	42.2%
学部 3 年	図書/雑誌の利用	98	60.9%	一人で自習	97	60.2%	PC の利用	63	39.1%
学部 4 年	図書/雑誌の利用	41	75.9%	一人で自習	30	55.6%	PC の利用	16	29.6%
修士・博士	図書/雑誌の利用	46	88.5%	文献の取り寄せ	23	44.2%	調べ物	20	38.5%

	4 位			5 位			6 位		
学部 1 年	調べ物	353	38.4%	グループで学習	184	20.0%	情報交換・時間つぶし	157	17.1%
学部 2 年	調べ物	248	39.4%	コピー/印刷	191	30.3%	グループで学習	167	26.5%
学部 3 年	調べ物	60	37.3%	コピー/印刷	48	29.8%	グループで学習	27	16.8%
学部 4 年	調べ物	15	27.8%	コピー/印刷	14	25.9%	グループで学習	9	16.7%
修士・博士	一人で自習	19	36.5%	コピー/印刷	11	21.2%	PC の利用	10	19.2%

	7 位			8 位			回答者数
学部 1 年	コピー/印刷	131	14.3%	文献の取り寄せ	47	5.1%	919
学部 2 年	情報交換・時間つぶし	104	16.5%	文献の取り寄せ	36	5.7%	630
学部 3 年	情報交換・時間つぶし	21	13.0%	文献の取り寄せ	13	8.1%	161
学部 4 年	情報交換・時間つぶし	6	11.1%	文献の取り寄せ	5	9.3%	54
修士・博士	グループで学習	4	7.7%	情報交換・時間つぶし	2	3.8%	52

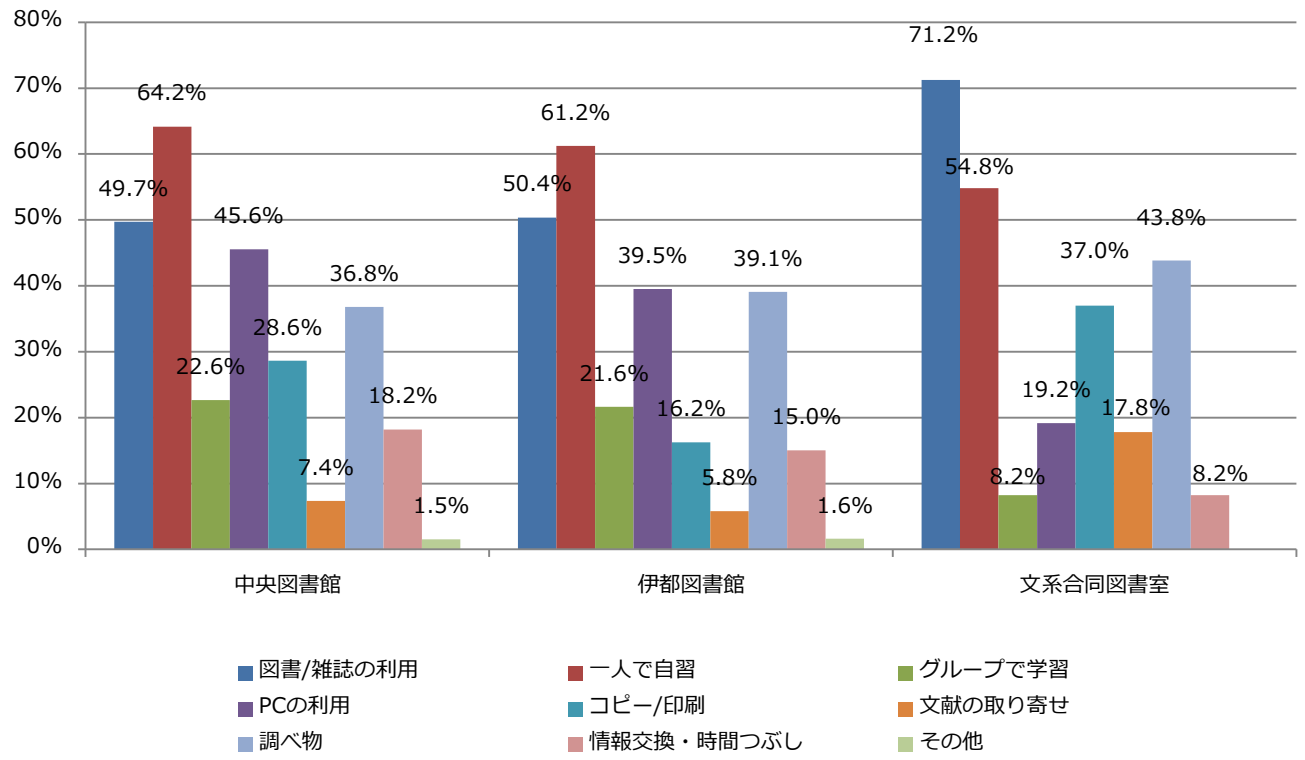
※割合は各学年の全体回答者数を 100%としたときの割合を示す

学年別では、低年次生で「一人で自習」が最も多く、学年が上がると図書館資料を目的とした利用が 1 位となっている。修士・博士課程の大学院生では「一人で自習」の利用は 4 位まで下がる。これは、研究室で自席があるためと考えられる。

また、学部生で館内パソコンの利用がいずれも 3 位以内に入っているのに対し、修士・博士課程では 6 位となっており、こちらも所属の研究室でパソコンを利用できるためであろう。

2-3）3.　利用図書館別にみた図書館利用目的

利用図書館	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
中央図書館	358	462	163	328	206	53	265	131	11	720
伊都図書館	496	603	213	389	160	57	385	148	16	985
医学図書館	4	13	5	7	2	0	7	1	0	17
芸術工学図書館	13	5	5	1	0	2	8	5	0	19
筑紫図書館	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
文系合同図書室	52	40	6	14	27	13	32	6	0	73
回答無し	3	3	1	2	1	1	2	1	0	10
合計	927	1,127	393	741	396	126	699	292	27	1,826



上のグラフは中央図書館、伊都図書館、文系合同図書室の利用目的について、利用図書館別の回答者数に占める得票数の割合を図示したもの。

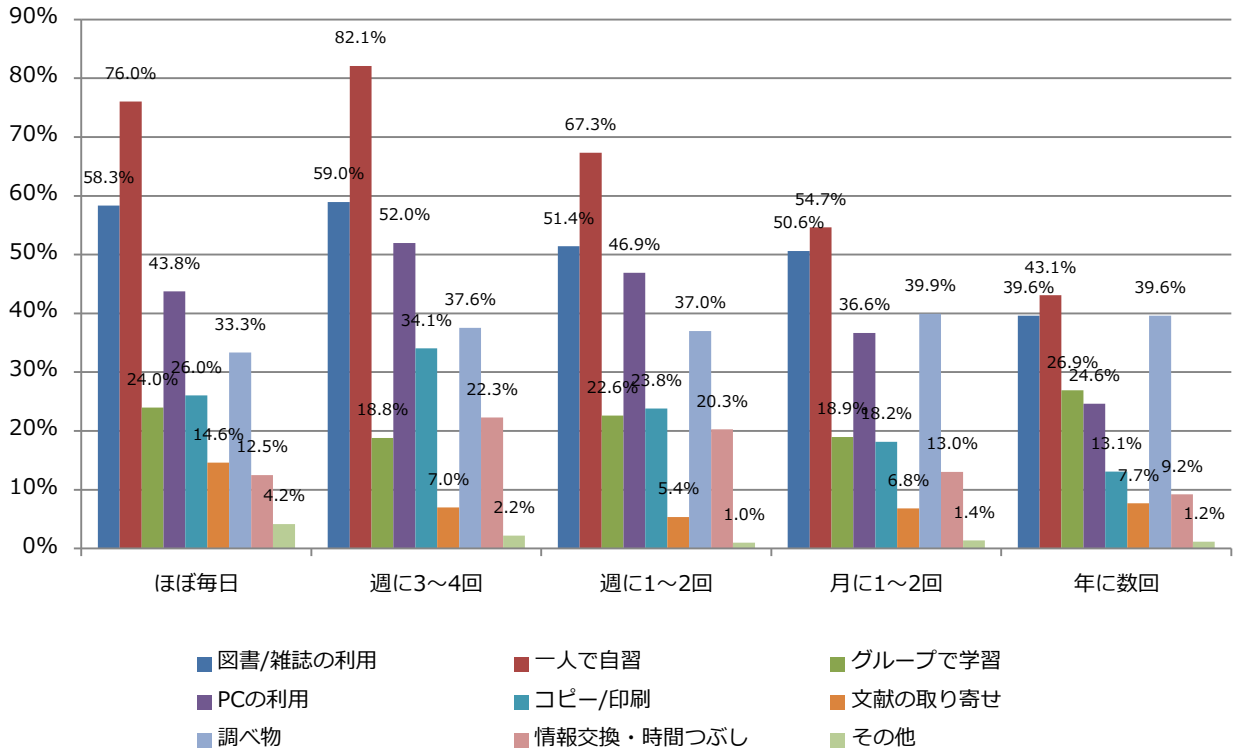
中央図書館、伊都図書館は「一人で自習」が最も多く、2 館の利用目的の傾向はほぼ同様である。文系合同図書室では、「図書/雑誌の利用」が 1 位となっており、これは大学院生を含めて高年次生の利用が多いためであると考えられる。

中央図書館でも伊都図書館でも、「グループ学習」を目的に挙げている割合が 20%を超える。図書館がグループ学習のできる場として定着していることが伺える。

また、「情報交換・時間つぶし」も 15%を超える。勉強のついでに「情報交換・時間つぶし」というだけでなく、それ自体を目的に来館している利用者も相当数いるものと思われる。

2-3）4.　利用頻度別

利用頻度	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
ほぼ毎日	56	73	23	42	25	14	32	12	4	96
週に 3～4 回	135	188	43	119	78	16	86	51	5	229
週に 1～2 回	307	402	135	280	142	32	221	121	6	597
月に 1～2 回	326	352	122	236	117	44	257	84	9	644
年に数回	103	112	70	64	34	20	103	24	3	260
合計	927	1,127	393	741	396	126	699	292	27	1,826



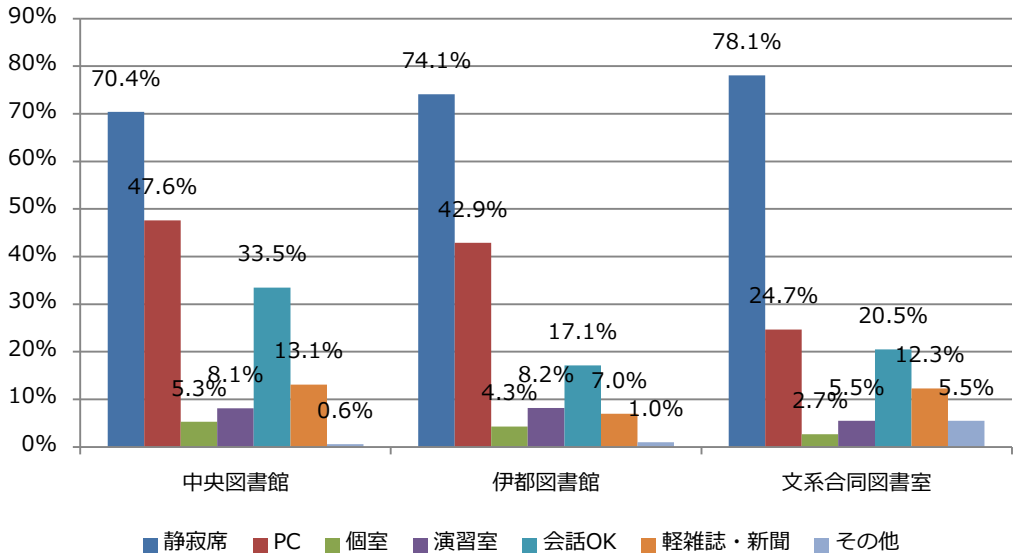
「グループで学習」「調べ物」は利用頻度による差はほとんど見られない。一方、「一人で自習」は利用頻度による差が大きいことがわかる。

2-4）図書館のどのスペースをよく使うか、下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

全体

列見出し	質問項目
静寂席	静かな閲覧席
PC	情報サロン（PC 席）
個室	個人で借りることのできる個室
演習室	グループで借りることのできる個室
会話 OK	会話 OK の学習スペース
軽雑誌・新聞	軽雑誌・新聞閲覧スペース
その他	その他

利用図書館	静寂席	PC	個室	演習室	会話 OK	軽雑誌・新聞	その他	回答者数
中央図書館	507	343	38	58	241	94	4	720
伊都図書館	730	423	42	81	168	69	10	985
医学図書館	10	13	1	0	4	0	0	17
芸術工学図書館	14	3	0	3	3	5	1	19
筑紫図書館	2	0	0	0	0	0	0	2
文系合同図書室	57	18	2	4	15	9	4	73
回答無し	2	2	1	0	2	0	0	10
合計	1,322	802	84	146	433	177	19	1,826



「その他」の利用スペース

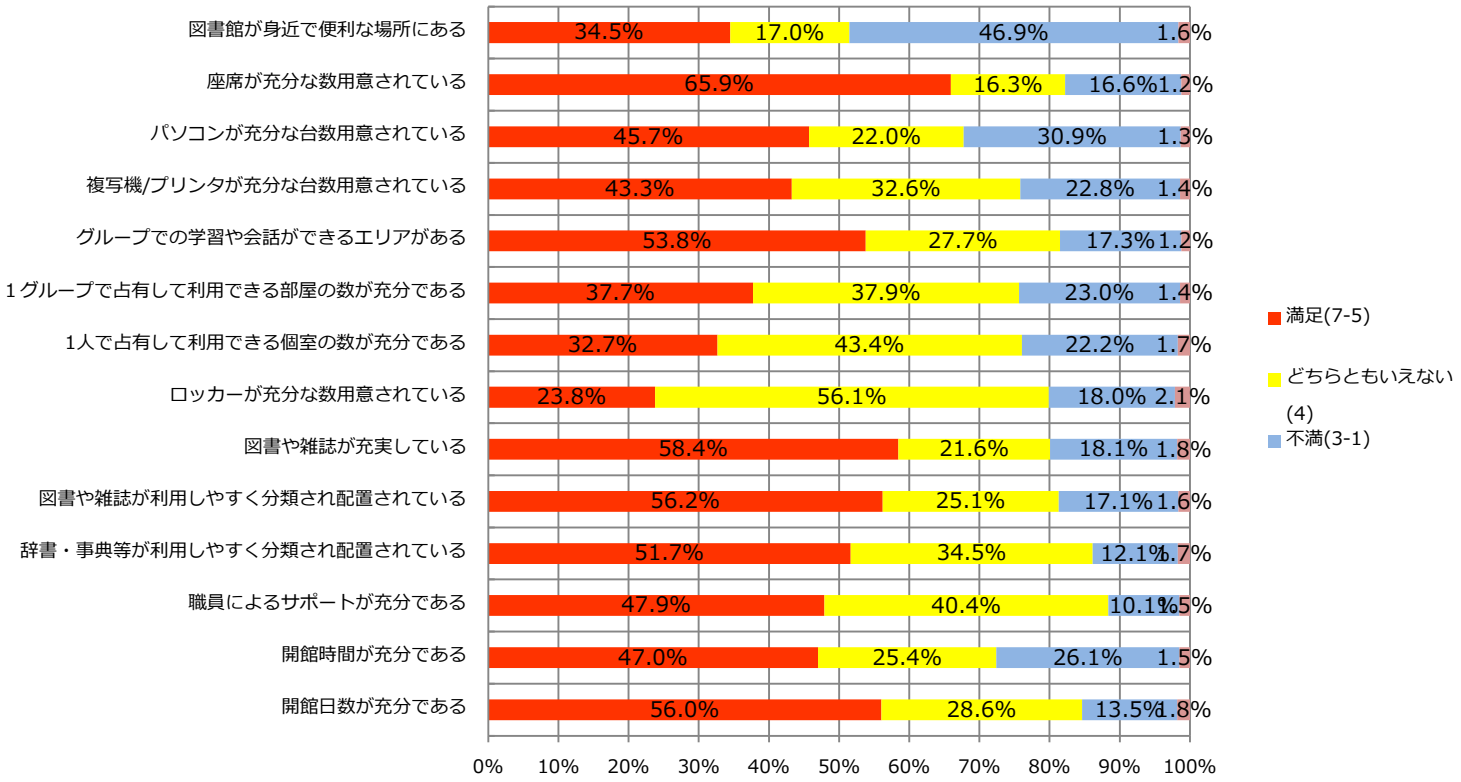
利用スペース	同意見数
リフレッシュルーム	3
書庫	3
図書の貸出、返却のみ	2

※上の選択肢と同様のものは除く

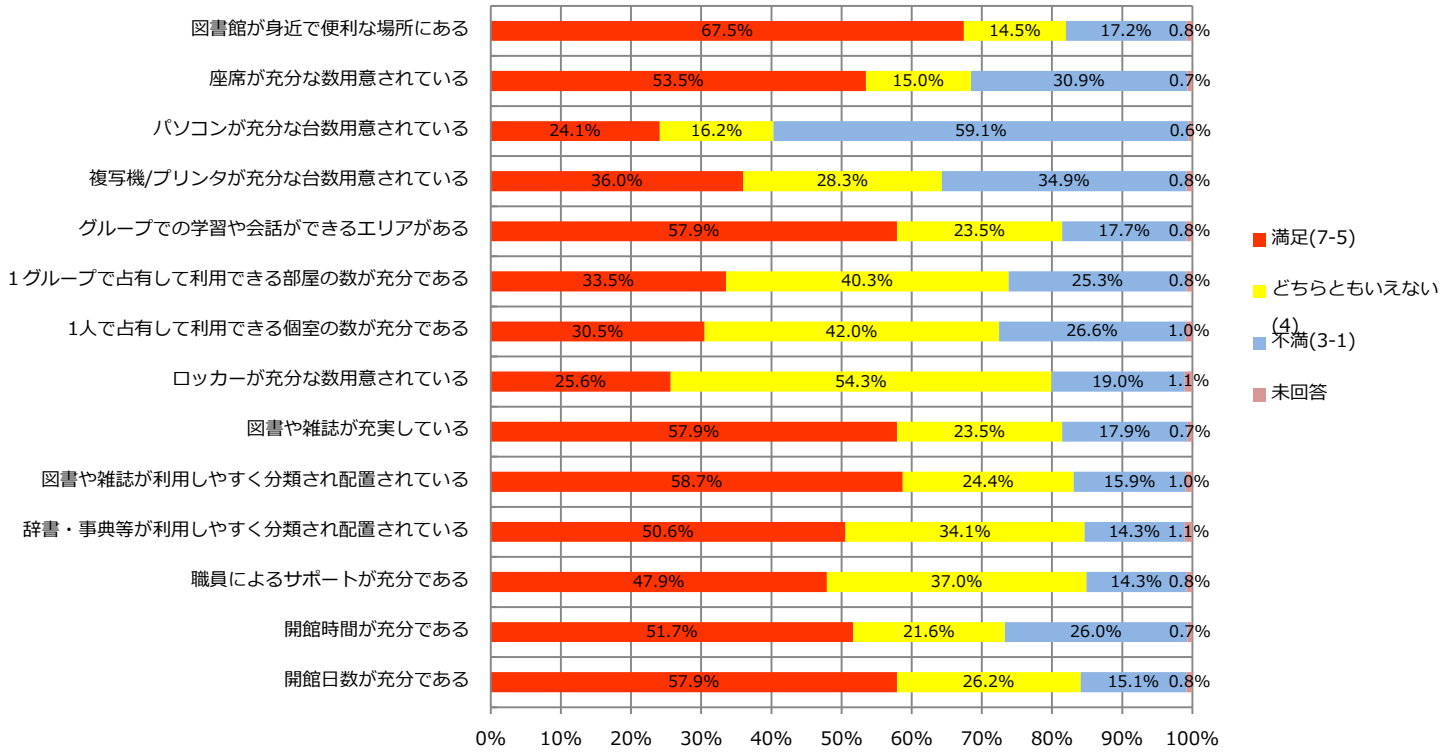
中央図書館と伊都図書館では、分布がほぼ同じ傾向を示しているが、「会話 OK の学習スペース」のみ、中央図書館の割合が格段に高くなっている。きゅうとコモンズの利用が多いことが反映されていると思われる。

2-5）質問 2）で選んだ図書館について、下記の項目について評価してください。（7 段階の該当する数字を○で囲んでください）

2-5）1.　伊都図書館の評価



2-5）　2.　中央図書館の評価



伊都図書館と中央図書館のグラフを提示しているが、両館の顕著な違いとして、「図書館が身近で便利な場所にある」「パソコンが充分な台数用意されている」が挙げられる。

「図書館が身近で便利な場所にある」は、伊都図書館の不満度が非常に高い。

中央図書館では「パソコンが充分な台数用意されている」ついで「複写機/プリンタが充分な台数用意されている」が不満度が極めて高い。実際に満席及び順番待ちになっていることが多く、台数を増やしてほしいという欲求が大きいことが分かる。

2-6）図書館を利用しない理由を下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

ホームキャンパス	どこにあるか知らない	遠い	行く必要がない	自分に必要な本や雑誌がない	その他	回答者数
箱崎	6	23	44	8	5	77
伊都	3	80	119	17	5	179
馬出	2	11	17	2	2	25
大橋	2	18	22	1	0	35
筑紫	0	0	0	1	0	1
合計	13	132	202	29	12	317

「その他」の図書館を利用しない理由

利用しない理由	同意見数
他の図書館に行っている	3
必要な図書は自分で買うから	1
時間帯が合わない	1
本を読む気になれない	1
貸出期間が短い	1
静か過ぎて逆に集中できない。	1
雰囲気があまり好きではない	1

※上の選択肢と同様のものは除く

「図書館を利用しない」としているのは伊都をホームキャンパスとしている学生が一番多いが、その理由は「遠い」と「いく必要がない」が多い。

＜新中央図書館について＞

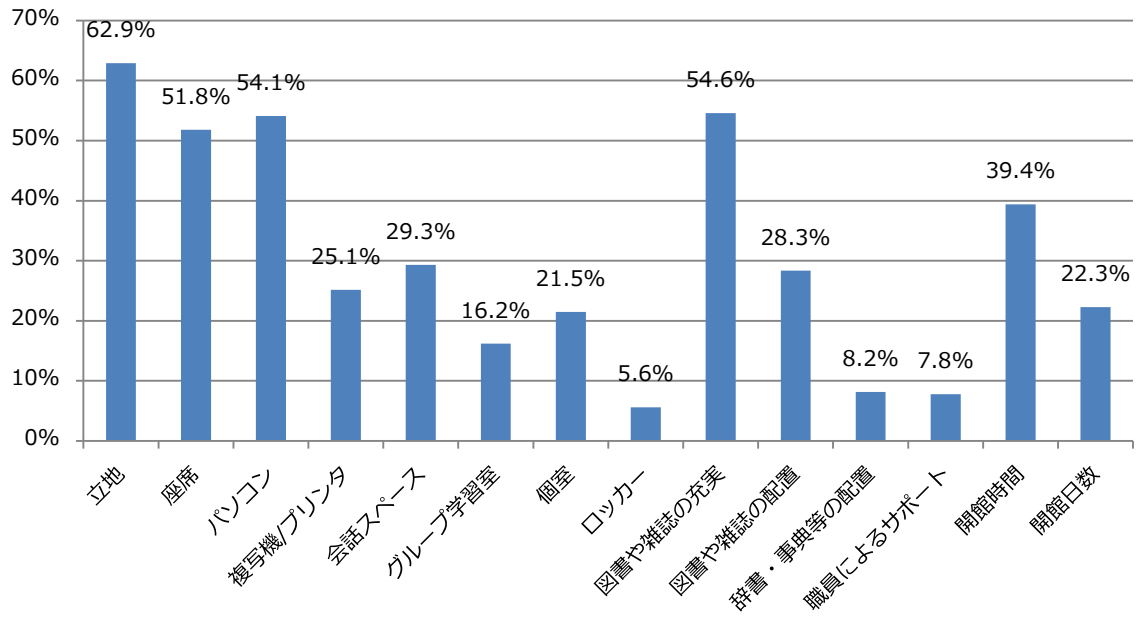
質問 3.　新中央図書館についておたずねします

3-1）図書館に対してあなたの期待度が高い項目を、質問 2.の 5）の 14 項目から 5 つ選んで回答欄に記入してください。

3-1）1.　全体

選択肢	グラフ表示名	回答数	割合
図書館が身近で便利な場所にある	立地	1,354	62.9%
座席が充分な数用意されている	座席	1,115	51.8%
パソコンが充分な台数用意されている	パソコン	1,164	54.1%
複写機/プリンタが充分な台数用意されている	複写機/プリンタ	541	25.1%
グループでの学習や会話ができるエリアがある	会話スペース	631	29.3%
1 グループで貸切で利用できる部屋の数が充分である	グループ学習室	349	16.2%
1 人で利用できる個室の数が充分である	個室	462	21.5%
ロッカーの数が充分である	ロッカー	121	5.6%
図書や雑誌が充実している	図書や雑誌の充実	1,174	54.6%
図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	図書や雑誌の配置	610	28.3%
辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	辞書・事典等の配置	176	8.2%
職員によるサポートが充分である	職員によるサポート	168	7.8%
開館時間が充分である	開館時間	848	39.4%
開館日数が充分である	開館日数	480	22.3%

※割合は回答者数に占める各項目の割合



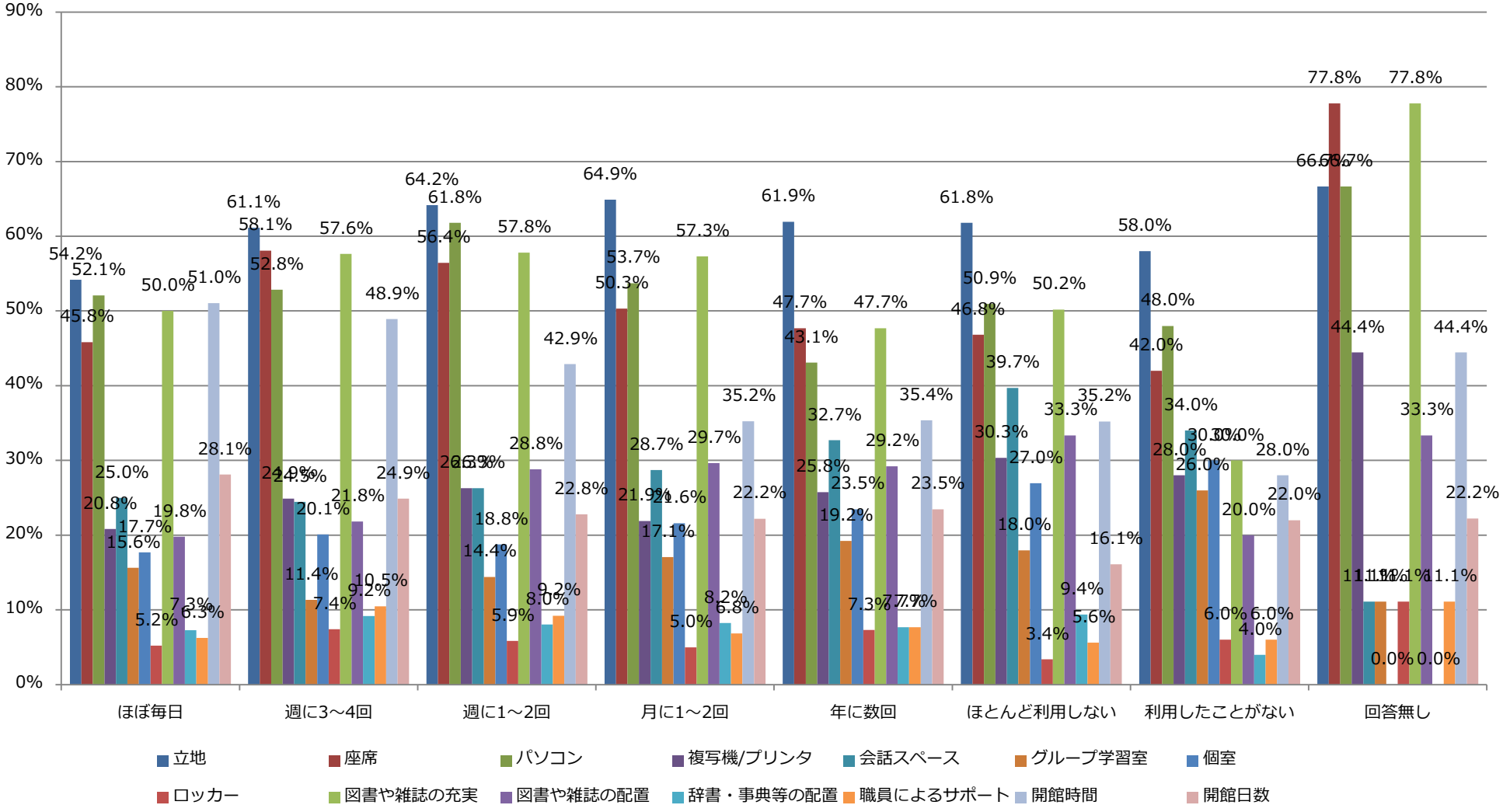
「図書館が身近で便利な場所にある」への期待度が最も高く、特に学部 1 年の数値が突出して高い。これは、伊都図書館がセンターゾーンから遠いことへの不満の裏返しであろう。

次いで、「座席が充分な数用意されている」や「図書や雑誌が充実している」と、「パソコンが充分な台数用意されている」がほぼ同数になっていることから、パソコンが図書館の本来的な機能と同様にとらえられていると考えられる。

3-1）2.　利用頻度別にみた新中央図書館期待度

利用頻度	図書館が身近で便利な場所にある	座席が充分な数用意されている	パソコンが充分な台数用意されている	複写機/プリンタが充分な台数用意されている	グループでの学習や会話ができるエリアがある	1グループで貸切で利用できる部屋の数が充分である	1人で利用できる個室の数が充分である	ロッカーの数が充分である	図書や雑誌が充実している	図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	職員によるサポートが充分である	開館時間が充分である	開館日数が充分である	回答者数
ほぼ毎日	52	44	50	20	24	15	17	5	48	19	7	6	49	27	96
週に 3～4 回	140	133	121	57	56	26	46	17	132	50	21	24	112	57	229
週に 1～2 回	383	337	369	157	157	86	112	35	345	172	48	55	256	136	597
月に 1～2 回	418	324	346	141	185	110	139	32	369	191	53	44	227	143	644
年に数回	161	124	112	67	85	50	61	19	124	76	20	20	92	61	260
ほとんど利用しない	165	125	136	81	106	48	72	9	134	89	25	15	94	43	267
利用したことがない	29	21	24	14	17	13	15	3	15	10	2	3	14	11	50
回答無し	6	7	6	4	1	1	0	1	7	3	0	1	4	2	9
	1,354	1,115	1,164	541	631	349	462	121	1174	610	176	168	848	480	2,152

「開館時間が充分である」は、高利用層ほど期待度が高い。それ以外は、利用頻度の違いによる期待度の差異は特に見られない。

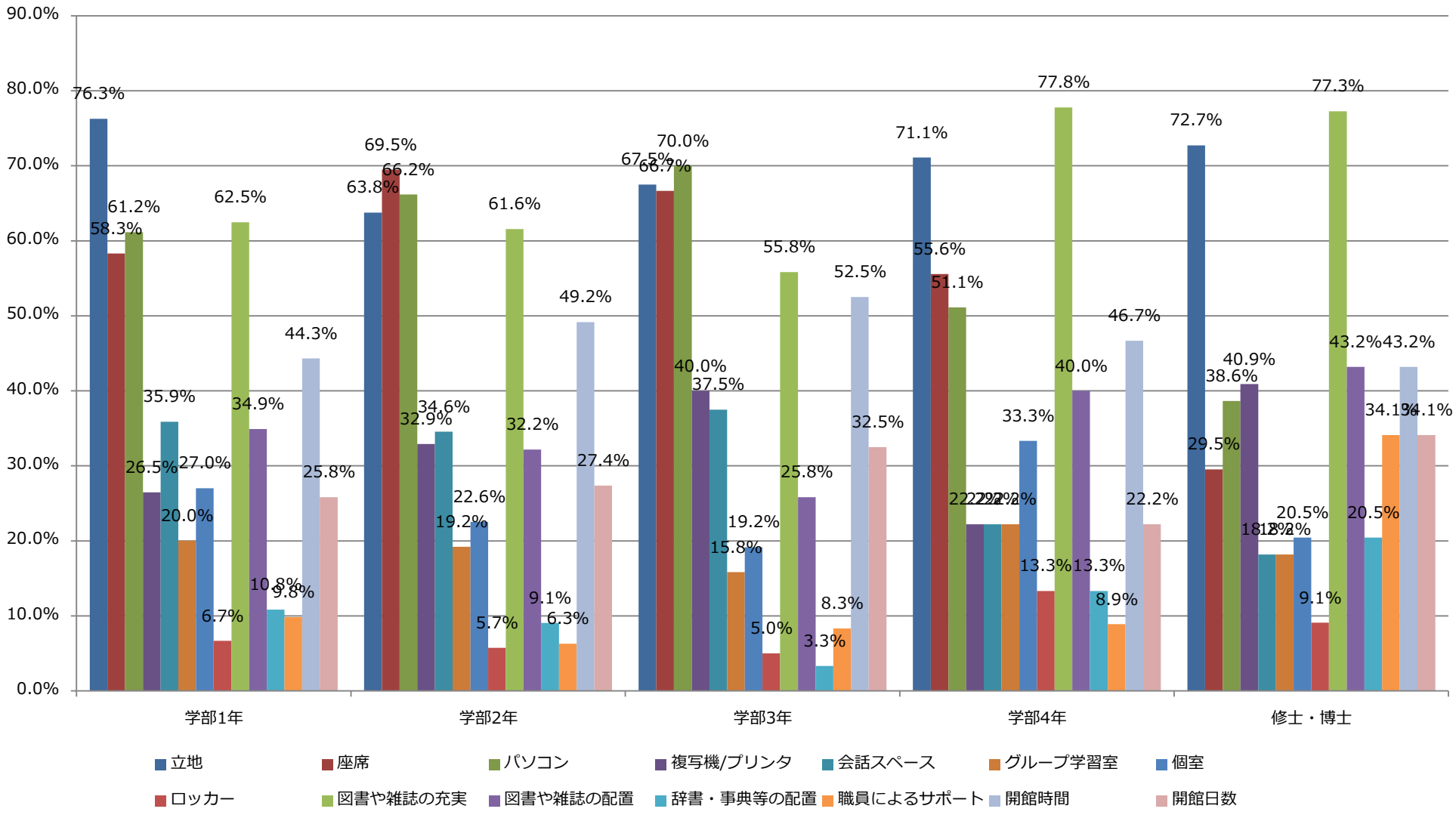

90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
ほぼ毎日
週に3～4回
週に1～2回
月に1～2回
年に数回
ほとんど利用しない
利用したことがない
回答無し
立地
座席
パソコン
複写機/プリンタ
会話スペース
グループ学習室
個室
ロッカー
図書や雑誌の充実
図書や雑誌の配置
辞書・事典等の配置
職員によるサポート
開館時間
開館日数

3-1）3.　学年別にみた新中央図書館期待度

学年	図書館が身近で便利な場所にある	座席が充分な数用意されている	パソコンが充分な台数用意されている	複写機/プリンタが充分な台数用意されている	グループでの学習や会話ができるエリアがある	1グループで貸切で利用できる部屋の数が充分である	1人で利用できる個室の数が充分である	ロッカーの数が充分である	図書や雑誌が充実している	図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	職員によるサポートが充分である	開館時間が充分である	開館日数が充分である	回答者数
学部 1 年	697	533	559	242	328	183	247	61	571	319	99	90	405	236	914
学部 2 年	345	376	358	178	187	104	122	31	333	174	49	34	266	148	541
学部 3 年	81	80	84	48	45	19	23	6	67	31	4	10	63	39	120
学部 4 年	32	25	23	10	10	10	15	6	35	18	6	4	21	10	45
修士・博士	32	13	17	18	8	8	9	4	34	19	9	15	19	15	44

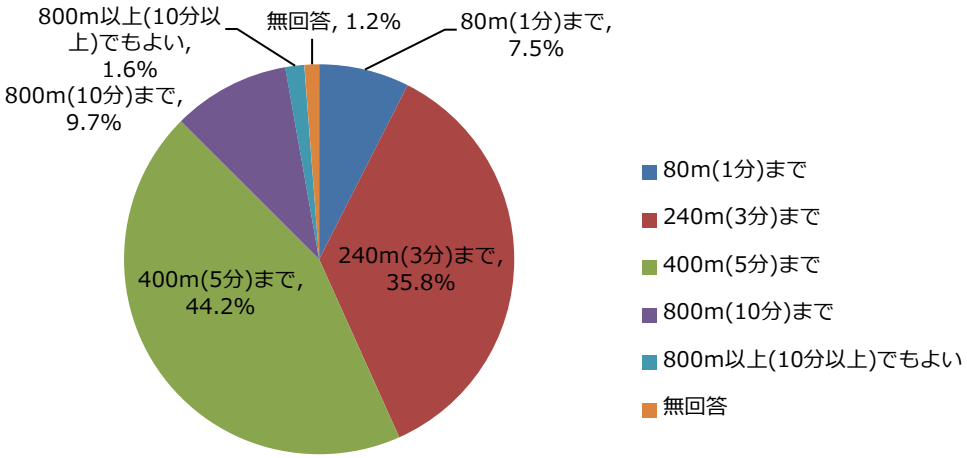
「図書館が身近で便利な場所にある」はどの学年でも期待度が極めて高いが、それ以外の項目は、学部 1-3 年と学部 4 年・院生との間で、異なる傾向が見られる。

「座席が充分な数用意されている」「パソコンが充分な台数用意されている」「グループでの学習や会話ができるエリアがある」は学部 1-3 年の期待度が高く、「図書や雑誌が充実している」「図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている」は、学部 4 年・院生の期待度がぐんと高くなっている。


90.0%
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
学部1年
学部2年
学部3年
学部4年
修士・博士
立地
座席
パソコン
複写機/プリンタ
会話スペース
グループ学習室
個室
ロッカー
図書や雑誌の充実
図書や雑誌の配置
辞書・事典等の配置
職員によるサポート
開館時間
開館日数

2）教室や研究室、食堂から図書館までの距離（時間）は、どれくらいまでなら許容できますか？下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。
※キャンパス内の高低差は、エレベーターやエスカレーター等の移動手段が確保されていると仮定します。

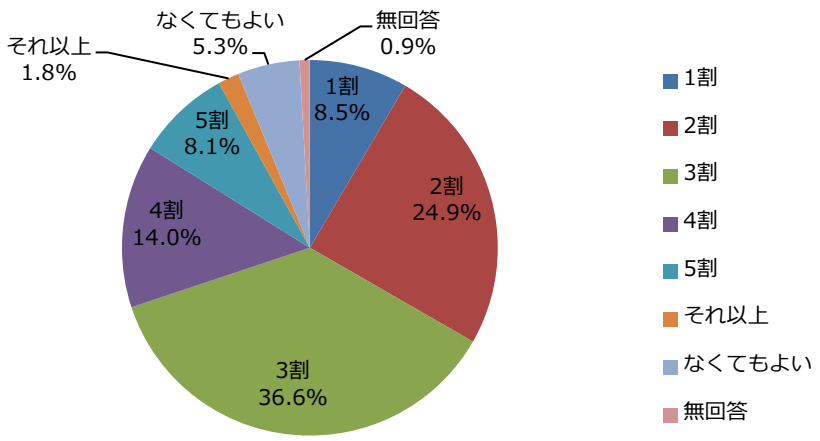
距離	回答者数	割合
80m（1 分）まで	161	7.5%
240m（3 分）まで	770	35.8%
400m（5 分）まで	952	44.2%
800m（10 分）まで	209	9.7%
800m以上（10 分以上）でもよい	34	1.6%
無回答	26	1.2%
合計	2,152	



240m（3 分）までであれば約 9 割の学生が許容できるが、400m（5 分）までとなると 51%の学生しか許容できない。

3）近年の大学図書館では、静かな閲覧スペースと、会話をすることのできる学習スペースという 2 つのタイプのスペースを用意することが主流となってきています。あなたのイメージする新中央図書館には、会話をすることのできる学習スペースが、利用者スペースのうち何割くらいあるとよいと思いますか？

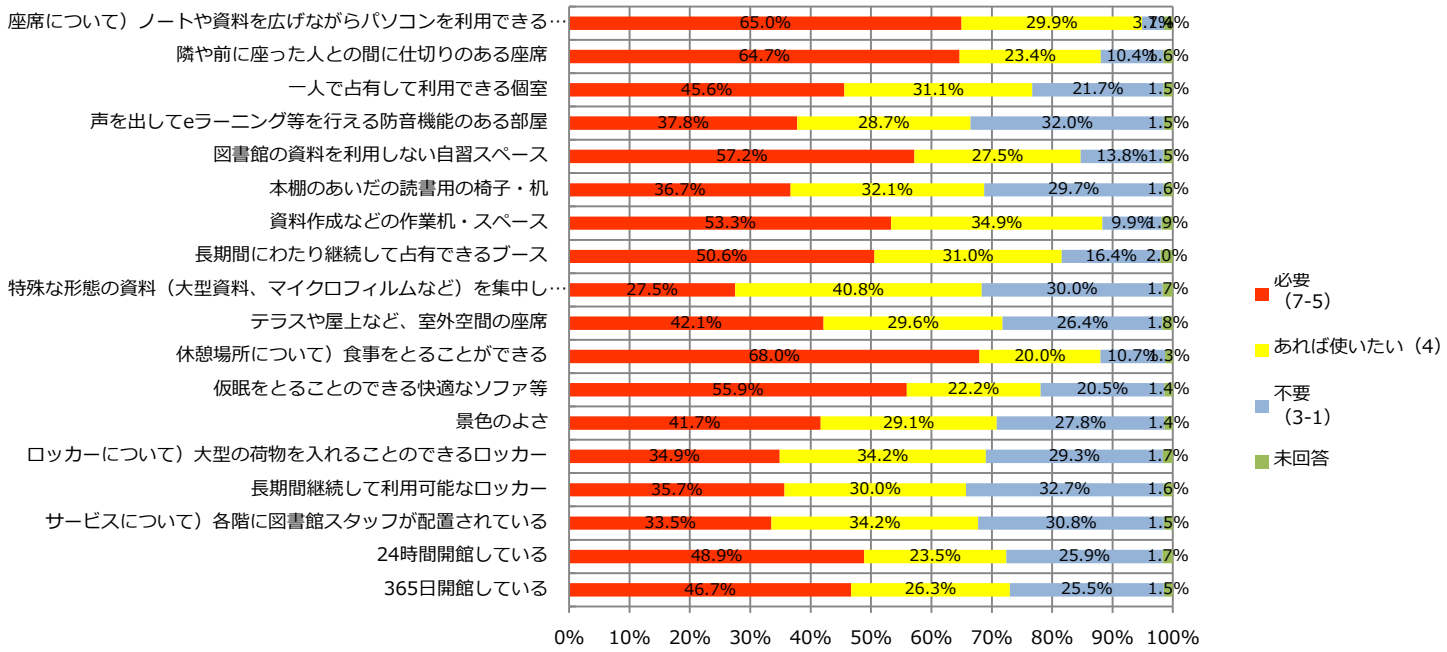
割合	回答者数	割合
1 割	182	8.5%
2 割	535	24.9%
3 割	787	36.6%
4 割	301	14.0%
5 割	174	8.1%
それ以上	39	1.8%
なくてもよい	115	5.3%
無回答	19	0.9%
合計	2,152	100.0%



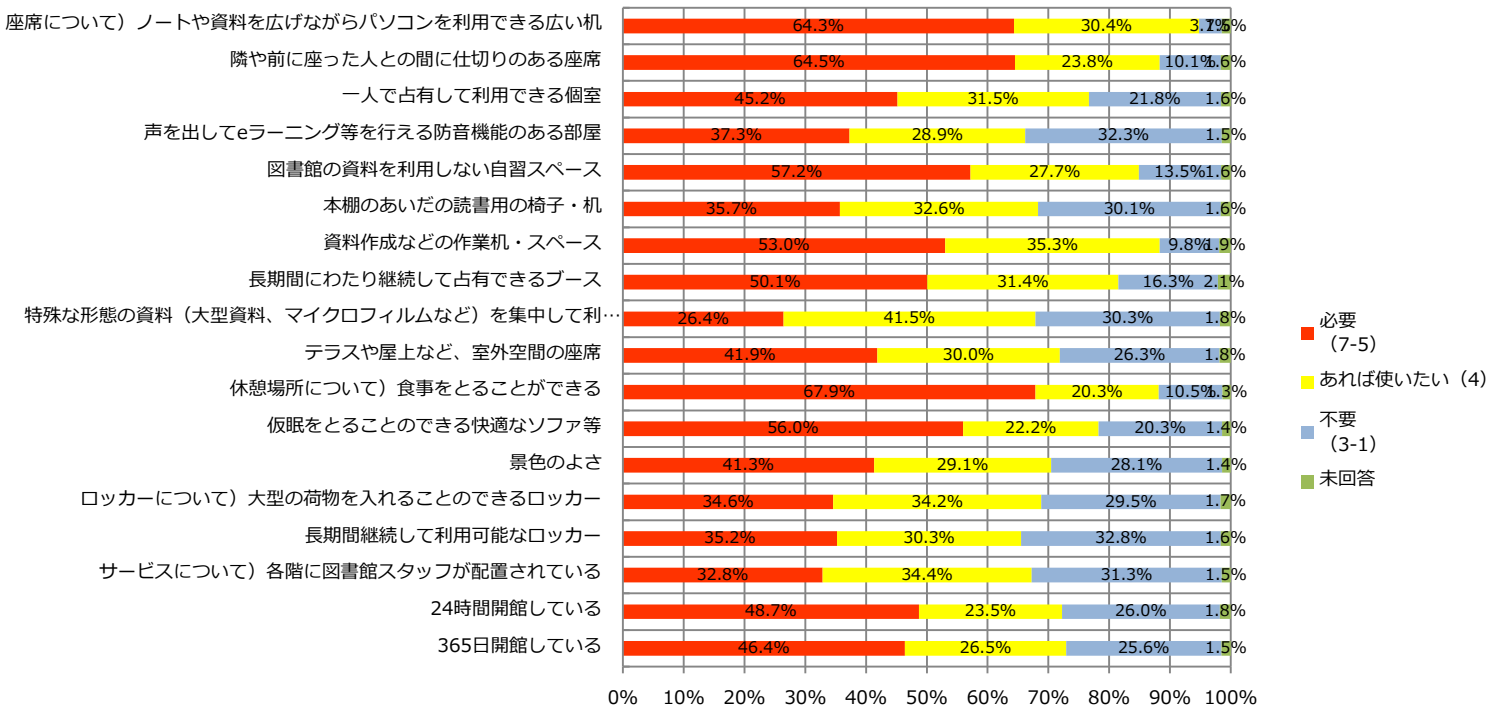
2 割・3 割と回答した学生で半数を超えている。ただし、現図書館の座席数の総数及び会話可能席数の情報を提示していないため、現図書館との比較ではなく、なんとなくの感覚で回答している人が多いのではないかと推察される。

4）新中央図書館について、下にあげた設備や機能、サービスに対する期待度を選んで数字を○で囲んでください。

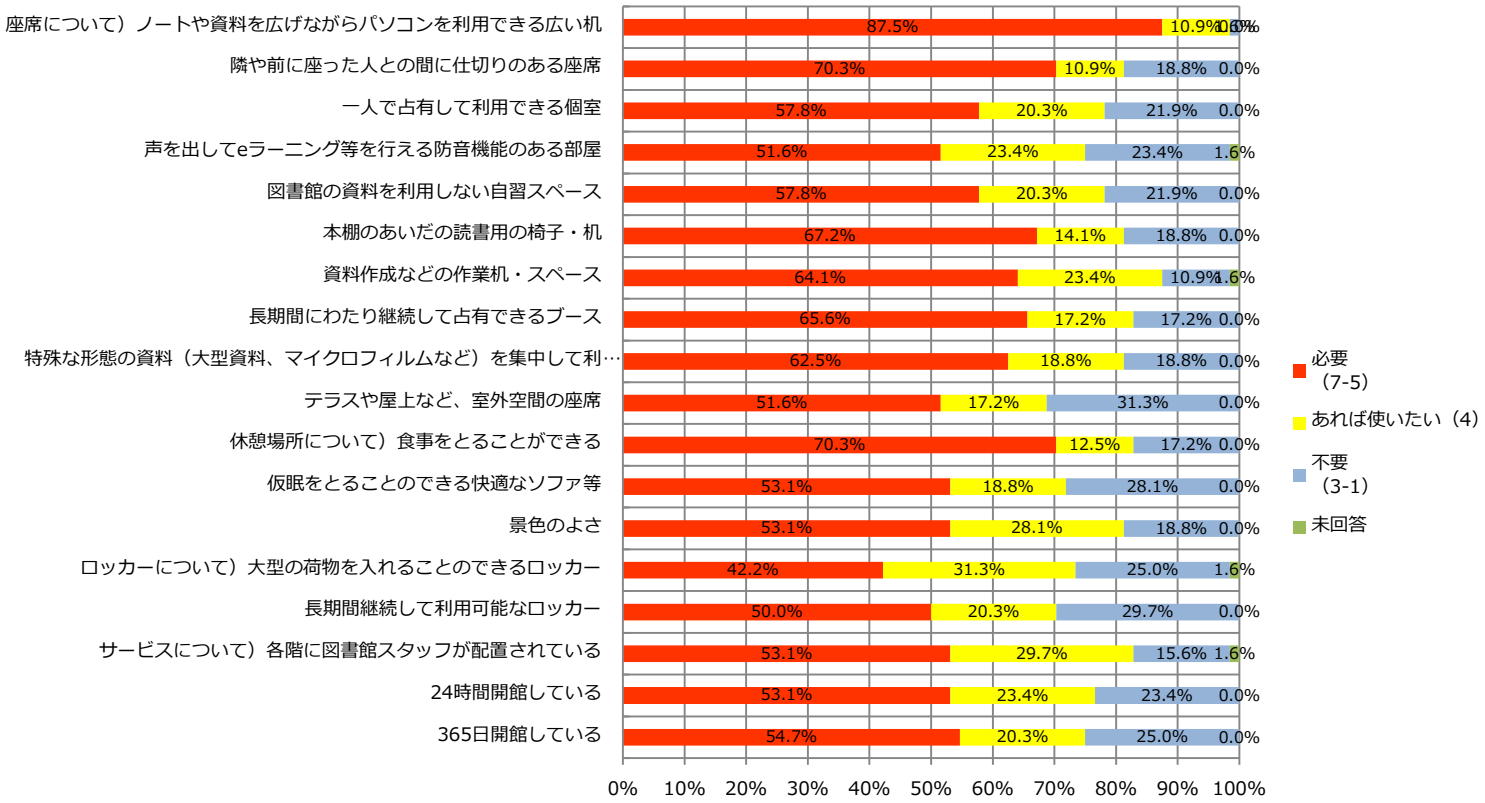
3-4）1.　新中央図書館の期待度



3-4）2.　新中央図書館の期待度（学部生）



3-4）3.　新中央図書館の期待度（大学院生）



総体として「食事をとることができる」への期待度が最も高い。

「快適なソファ」や「景色のよさ」なども期待度が高く、長時間滞在のための快適な空間作りが強く求められているといえる。

回答数は少ないが、院生は「ノートや資料を広げながらパソコンを利用できる広い机」がトップにきている。院生は学部生と比べてほぼすべての項目について期待度が高くなっており、特に、「特殊形態資料の利用できるスペース」「ロッカー」「各階へのスタッフの配置」などにおいて、学部生との差が大きかった。

＜その他要望について＞

質問 4.　その他、現在の図書館やこれからの図書館への要望等がありましたらご記入ください。

多数意見が寄せられたもの、アンケートで想定していなかった意見を以下に挙げる。

○距離・立地等

伊都図書館がセンターゾーンから遠すぎる、新しい図書館は「とにかく近くに」と言う意見が多い。

- 図書館を、いつでも気軽に通える距離においてもらいたいです。
- 図書館を平地に作ってほしい。入り口も 1 階にしてバリアフリーにしてほしい。入り口にたどり着くまでに坂道や階段とかあるのはめてほしい。行く気がしなくなる。

○開館時間延長・24 時間開館

特定の図書館によらず、土日祝日の開館時間の延長や 24 時間開館を望む声が多い。

○空調

特に夏場の空調について、現在の図書館に対する不満の声がある。

○施設設備

アンケート質問 3. 4)で挙げられているものの他に、以下の意見があった。他には座席増設、特に PC の増設を望む声が多い。

- 教授も加われるようなカフェみたいな創造の場がほしい。
- 自習席にできるだけ電源をつけてほしい
- さわげる空間と集中できる空間の調和
- 文系学部が不便でないつくりにして欲しいです。
- 図書館の前に駐輪場
- 図書館にできるだけ近く駐車場を広げてください。
- 喫煙所の確保

○会話スペース

会話可能なスペースと静寂な空間を明確に分けてほしいという意見がある。

○スタッフ

人員の増加、PC のサポーター設置について 1 件ずつ意見があった。

○配架

どこに本があるのか分かりにくいという意見が多い。

○蔵書

専門書だけでなく、小説を望む声が多い。

○サービス

以下の意見があった。

- 貸出期間を長くしてほしい
- カバーがボロイ本借りるときにその本用のカバーを貸してくれるとうれしい。返すときにボロすぎて自分がやってしまったのか？と思ってしまうから
- 研究室（？）が長期間文献を借りているのは止めてほしい
- どうか、ぜひ他館の雑誌も取り寄せられるようにしてください。製本されたものならいいのではないでしょうか。・・・

○検索

検索システムのユーザビリティ向上を望む声がある。

- パソコン検索で本のある位置の地図が出ると分かりやすいです。
- パソコンで本を探すときにもっとみつけやすいような工夫をしていただきたい。

まとめ

--総論--

学部 3 年までと学部 4 年以上で利用目的・期待度ともに傾向が明らかに異なっている。また、学年が進むにつれ、空き時間に図書館で過ごしている割合や利用頻度が高くなり、利用目的も「図書/雑誌の利用」がトップを占めるなど、図書館資料の必要度が高くなっていることがわかる。これらのことより、学年進行による要求の違いを区別した図書館のゾーニング及び諸室計画を考える必要があるといえる。

また、利用頻度や満足度・期待度などどの項目からみても、図書館の立地が図書館の利用に与える影響が大きいことが分かる。これはどの学年でも共通であり、かつ教員向けのアンケートでも同様の結果がでており、最重要の課題である。

--各論--

・図書館の利用頻度は、中間利用層（週に 1-2 回、月に 1-2 回）が 6 割近くである。低利用層（年に数回以下）は約 25%で、特に低年次学生の利用頻度が低く、図書館が遠いことと必要性を感じていないことが要因になっている。これら低利用層の図書館利用を促進するためには、図書館が近くにあること、低年次教育における図書館との連携がポイントとなるであろう。

・中央及び伊都図書館の利用目的を見ると、グループ学習が 20%、情報交換・時間つぶしも 15%を超える。学部 3 年までの期待度でも、会話 OK スペース及びグループ学習室への期待度が高いと答えている率がそれぞれ 30～40%、15～20%を占め、一定数の学生が、会話しながらグループ学習や情報交換ができる場を図書館機能に期待していることがわかる。

・パソコンの充実が、従来の図書館の基本機能（座席や図書雑誌の利用など）とほぼ同様に期待度が高い。学生にとっては、パソコンが図書館の基本的な機能ととらえられていると同時に、図書館資料と併用しての利用など、他の場所でなく図書館でパソコンを利用したいという要求が高い。

・図書館の基本機能以外の項目への期待度を見ると、「食事ができること」の期待度が極めて高く、まら「快適なソファ」「景色のよさ」などの期待度からも、長時間滞在のための快適な空間作りが強く求められていることが分かる。

--今後に向けて--

・今回のアンケートで、学部 1-2 年については多数の回答が得られたため、学習スペースとしての設計に十分反映できるニーズがつかめたといえる。逆に、学部 4 年以上の卒論執筆～研究に至る場面でどのようなニーズがあるかは、回答数が少ないため、さらにニーズを調査していく必要があり、かつ分野ごとに資料の使い方などが異なってくるため、一斉アンケートよりもヒアリング調査などを行っていく必要がある。

アンケート集計結果

質問 1.　あなたご自身についておたずねします

1）回答者の学年別の所属内訳

（注）学年と所属について、その組み合わせが不正もしくはその他が含まれる場合は不明扱いとする。
学生数は H23.11 の在籍学生数。ただし学部 3～4 年の工学部の学生数は H23.5.1 建築学科の入学定員とした。

学部 1 年

所属	回答者数	学生数	回答率
文学部	55	170	32.35%
教育学部	46	53	86.79%
法学部	71	200	35.50%
経済学部	127	256	49.61%
理学部	149	292	51.03%
農学部	108	245	44.08%
医学部	45	262	17.18%
歯学部	39	58	67.24%
薬学部	15	85	17.65%
工学部	406	868	46.77%
芸術工学部	103	211	48.82%
21 世紀プログラム	0	25	0.00%
	1164	2725	42.72%

学部 2 年

所属	回答者数	学生数	回答率
文学部	60	164	36.59%
教育学部	24	57	42.11%
法学部	126	199	63.32%
経済学部	130	246	52.85%
理学部	122	288	42.36%
農学部	49	244	20.08%
医学部	0	276	0.00%
歯学部	1	62	1.61%
薬学部	0	90	0.00%
工学部	181	828	21.86%
芸術工学部	0	200	0.00%
21 世紀プログラム	0	28	0.00%
	693	2682	25.84%

学部 3 年

所属	回答者数	学生数	回答率
文学部	0	159	0.00%
教育学部	3	50	6.00%
法学部	68	206	33.01%
経済学部	51	259	19.69%
工学部	50	60	83.33%
21 世紀プログラム	2	28	7.14%
	174	762	22.83%

学部 4 年

所属	回答者数	学生数	回答率
文学部	7	220	3.18%
教育学部	1	53	1.89%
法学部	27	259	10.42%
経済学部	13	330	3.94%
工学部	6	60	10.00%
21 世紀プログラム	1	40	2.50%
	55	962	5.72%

修士・博士

学年	所属	回答者数	学生数	回答率
修士１年	人文科学府	3	49	6.12%
修士１年	比較社会文化学府	6	67	8.96%
修士１年	人間環境学府	10	106	9.43%
修士１年	法学府	2	65	3.08%
修士２年	人文科学府	4	49	8.16%
修士２年	比較社会文化学府	5	62	8.06%
修士２年	人間環境学府	7	118	5.93%
修士２年	法学府	3	43	6.98%
博士１年	比較社会文化学府	4	35	11.43%
博士１年	人間環境学府	2	39	5.13%
博士２年	人文科学府	1	26	3.85%
博士２年	比較社会文化学府	1	37	2.70%
博士２年	法学府	1	9	11.11%
博士３年	比較社会文化学府	5	78	6.41%

不明

学年	所属	回答者数
修士１年	その他	1
修士２年	工学部	1
博士１年	法学部	1
その他	法学部	3
その他	経済学部	2
その他	経済学府	1
その他	その他	2
		11

博士３年	人間環境学府	1	84	1.19%
		55		

学年		所属	
修士１年		その他	工学府
その他		その他	
その他	非常勤講師	その他	
その他	研究生	法学部	
その他	研究生	法学部	
その他	研究生	法学部	
その他	研究生	経済学府	
その他	研究生	経済学部	
その他	研究生	経済学部	

2）ホームキャンパスおよび授業の合間の時間を過ごす場所

ホーム キャンパス	図書館	嚶鳴天空 広場	所属の 研究室	空き教室	学内の 食堂	自宅や友人 の家	学外の 飲食店	その他	回答者数
箱崎	446	77	66	355	385	165	47	84	958
伊都	252	388	12	311	563	110	9	92	1035
馬出	8	20	0	25	46	3	1	8	69
大橋	9	22	1	27	61	8	4	10	88
筑紫	0	0	2	0	0	0	0	0	2
		715	507	81	718	1055	286	61	194

学年・所属学部・学府と授業の合間の時間を過ごす場所とのクロス集計

学部１年

所属	図書館	嚶鳴天空 広場	所属の 研究室	空き教室	学内の 食堂	自宅や 友人の家	学外の 飲食店	その他	回答者数
文学部	22	15	0	18	40	9	2	14	55
教育学部	13	15	0	5	41	3	0	5	46
法学部	42	26	0	8	34	8	0	4	71
経済学部	27	43	0	33	83	16	1	8	127
理学部	33	100	1	27	50	24	2	19	149
農学部	33	42	0	37	70	6	0	6	108
医学部	7	12	0	14	34	3	0	2	45
歯学部	4	10	0	14	22	2	1	4	39
薬学部	3	2	0	6	9	2	1	3	15
工学部	76	191	0	141	213	40	4	32	406
芸術工学部	13	31	1	32	72	8	3	9	103
	273	487	2	335	668	121	14	106	1164

学部２年

所属	図書館	嚶鳴天空 広場	所属の 研究室	空き教室	学内の 食堂	自宅や 友人の家	学外の 飲食店	その他	回答者数
文学部	39	1	17	29	29	5	4	4	60
教育学部	12	0	0	10	18	4	2	1	24
法学部	65	1	0	62	55	19	9	8	126
経済学部	63	1	1	37	68	23	15	6	130
理学部	48	0	0	82	30	30	6	3	122

農学部	27	1	0	14	18	11	1	3	49
歯学部	0	0	0	0	1	0	0	0	1
工学部	51	9	1	76	103	14	1	11	181
	305	13	19	310	322	106	38	36	693

学部 3 年

所属	図書館	嚶鳴天空広場	所属の研究室	空き教室	学内の食堂	自宅や友人の家	学外の飲食店	その他	回答者数
教育学部	2	0	0	0	0	1	0	0	3
法学部	56	5	2	23	21	20	2	6	68
経済学部	30	1	1	12	20	12	1	5	51
工学部	0	1	0	21	4	4	0	24	50
21 世紀プログラム	1	0	0	0	1	0	0	1	2
	89	7	3	56	46	37	3	36	174

学部 4 年

所属	図書館	嚶鳴天空広場	所属の研究室	空き教室	学内の食堂	自宅や友人の家	学外の飲食店	その他	回答者数
文学部	1	0	7	1	2	1	0	0	7
教育学部	0	0	1	0	1	1	0	0	1
法学部	15	0	1	4	6	8	2	4	27
経済学部	9	0	0	4	4	3	2	1	13
工学部	1	0	4	0	1	1	0	0	6
21 世紀プログラム	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	26	0	13	9	14	14	4	6	55

修士・博士

所属	図書館	嚶鳴天空広場	所属の研究室	空き教室	学内の食堂	自宅や友人の家	学外の飲食店	その他	回答者数
人文科学府	1	0	2	0	1	1	0	0	3
比較社会文化学府	2	0	2	2	0	2	0	2	6
人間環境学府	1	0	10	0	0	0	0	0	10
法学府	0	0	2	0	0	0	0	0	2
人文科学府	1	0	4	0	1	0	1	0	4
比較社会文化学府	1	0	4	3	0	1	0	1	5
人間環境学府	2	0	7	0	0	0	0	1	7
法学府	0	0	2	0	0	0	0	1	3
比較社会文化学府	3	0	2	1	0	0	0	1	4
人間環境学府	0	0	2	0	0	0	0	0	2
人文科学府	1	0	1	0	0	0	0	0	1
比較社会文化学府	0	0	0	0	0	1	0	0	1
法学府	0	0	1	0	0	0	0	0	1
比較社会文化学府	2	0	2	2	1	0	0	2	5
人間環境学府	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	14	0	42	8	3	5	1	8	55

不明

所属	図書館	嚶鳴天空広場	所属の研究室	空き教室	学内の食堂	自宅や友人の家	学外の飲食店	その他	回答者数
その他	1	0	0	0	1	0	0	0	1
工学部	0	0	1	0	0	0	0	0	1
法学部	1	0	1	0	0	0	0	0	1
法学部	3	0	0	0	0	3	0	0	3

経済学部	2	0	0	0	0	0	0	0	2
経済学府	1	0	0	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	2	2
	8	0	2	0	2	3	1	2	11

授業の合間に過ごす場所「その他」意見（上の選択肢で「その他」を選んでいるが無記入のものは除く）

学部	所属	ホームキャンパス	
学部 1 年	教育学部	箱崎	1 号館 1F のパソコン室
学部 4 年	21 世紀プログラム	箱崎	21cp 学生控え室
学部 3 年	21 世紀プログラム	箱崎	21 世紀交流プラザ
学部 1 年	芸術工学部	大橋	キャンパス内の屋外
学部 1 年	理学部	箱崎	グラウンド
学部 1 年	理学部	伊都	グラウンド
学部 2 年	理学部	箱崎	ゲーセン
学部 1 年	文学部	箱崎	コンビニ
学部 2 年	法学部	箱崎	サークル
学部 1 年	法学部	伊都	サークルの部室
学部 1 年	理学部	伊都	サークルの部室
学部 1 年	工学部	伊都	サークルの部室
学部 2 年	経済学部	箱崎	サークルの部室
学部 2 年	農学部	箱崎	サークルの部室(箱崎)
学部 1 年	工学部	伊都	サークル室
学部 1 年	工学部	伊都	サークル室、次の授業の教室
学部 1 年	文学部	伊都	サークル棟
学部 1 年	農学部	伊都	サークル棟
学部 2 年	法学部	箱崎	サークル棟
学部 2 年	法学部	箱崎	サークル棟
学部 2 年	法学部	箱崎	サークル棟
学部 1 年	法学部	箱崎	サークル部室
学部 1 年	芸術工学部	大橋	サークル部室
学部 4 年	法学部	箱崎	サロン
学部 1 年	工学部	伊都	センター1 号館の一階のパソコン室
学部 1 年	文学部	伊都	センターゾーン 1F の PC 室
学部 1 年	教育学部	箱崎	その授業があった教室
学部 1 年	歯学部	馬出	タバコ
学部 1 年	工学部	伊都	テニスコート
学部 1 年	工学部	伊都	テニスコート
学部 1 年	理学部	箱崎	テニスコート、グラウンド、体育館
学部 1 年	理学部	伊都	のんびり歩く
学部 1 年	文学部	箱崎	パソコンルーム
学部 1 年	芸術工学部	大橋	パソコンルーム
学部 1 年	理学部	伊都	パソコン室
学部 1 年	農学部	伊都	パソコン室
学部 1 年	工学部	伊都	パソコン室
学部 1 年	芸術工学部	大橋	パソコン室
学部 2 年	経済学部	箱崎	バッティングセンター
学部 2 年	経済学部	箱崎	ほぼ合間はないので帰宅
学部 1 年	理学部	伊都	ろう下
博士 3 年	比較社会文化学府	伊都	以前の所属研究室
学部 1 年	工学部	伊都	移動や次の授業教室
修士 1 年	比較社会文化学府	伊都	院生控室

学部１年	理学部	伊都	運動
学部１年	経済学部	伊都	運動場
学部１年	理学部	伊都	運動場
学部１年	経済学部	伊都	課外活動施設
学部１年	教育学部	伊都	外
学部１年	理学部	伊都	外
学部１年	理学部	伊都	外
学部２年	経済学部	箱崎	外
学部３年	工学部	箱崎	外
学部３年	工学部	伊都	外
学部２年	法学部	箱崎	外のベンチ、法学部サロン
学部１年	芸術工学部	大橋	外の芝生
学部３年	経済学部	箱崎	学部サロン
学部２年	経済学部	箱崎	喫煙室
学部２年	工学部	伊都	喫煙所
学部３年	法学部	箱崎	喫煙所
学部１年	芸術工学部	大橋	空いていない
学部１年	経済学部	伊都	空き地、運動場
学部３年	経済学部	箱崎	経済学部サロン
学部２年	工学部	伊都	次の授業が行われる場所
学部１年	経済学部	伊都	次の授業のある教室
学部１年	芸術工学部	大橋	次の授業の教室
学部２年	教育学部	箱崎	次の授業の教室
学部２年	工学部	伊都	次の授業の教室
学部１年	工学部	伊都	次の授業の教室、部室
学部２年	工学部	伊都	自習室
修士２年	法学府	箱崎	自習室
学部１年	理学部	伊都	芝生
学部３年	経済学部	箱崎	出かける
学部２年	理学部	伊都	所属学科の共有スペース
学部１年	工学部	伊都	情報学習室
学部１年	工学部	伊都	情報教室
学部１年	理学部	伊都	情報室
学部１年	芸術工学部	大橋	情報室
修士１年	比較社会文化学府	伊都	情報室
修士２年	比較社会文化学府	伊都	情報室
博士１年	比較社会文化学府	伊都	情報調査室
博士３年	比較社会文化学府	伊都	情報調査室
学部１年	工学部	伊都	生協書店
学部４年	法学部	箱崎	生協文系書籍の生徒控室
学部２年	工学部	箱崎	製図室
学部２年	工学部	箱崎	製図室
学部２年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室

学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部３年	工学部	箱崎	製図室
学部２年	農学部	箱崎	静かな場所
学部１年	文学部	伊都	体育館
学部１年	経済学部	箱崎	体育館
学部１年	工学部	伊都	農学部エリアを散歩
学部１年	薬学部	伊都	部活の自主練（トレーニング室、競技場）
学部２年	経済学部	箱崎	部活の練習
学部１年	工学部	伊都	部活動場所
学部１年	文学部	箱崎	部室
学部１年	文学部	箱崎	部室
学部１年	文学部	伊都	部室
学部１年	文学部	伊都	部室
学部１年	文学部	伊都	部室
学部１年	文学部	伊都	部室
学部１年	文学部	伊都	部室
学部１年	文学部	伊都	部室
学部１年	教育学部	箱崎	部室
学部１年	法学部	箱崎	部室
学部１年	法学部	伊都	部室
学部１年	経済学部	伊都	部室
学部１年	経済学部	伊都	部室
学部１年	理学部	伊都	部室
学部１年	理学部	伊都	部室
学部１年	理学部	伊都	部室
学部１年	理学部	伊都	部室
学部１年	農学部	伊都	部室
学部１年	医学部	馬出	部室
学部１年	医学部	馬出	部室
学部１年	歯学部	馬出	部室
学部１年	薬学部	馬出	部室
学部１年	工学部	箱崎	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室

学部１年	工学部	伊都	部室
学部１年	工学部	伊都	部室
学部２年	文学部	箱崎	部室
学部２年	文学部	箱崎	部室
学部２年	文学部	伊都	部室
学部２年	法学部	箱崎	部室
学部２年	法学部	箱崎	部室
学部２年	工学部	伊都	部室
学部２年	工学部	伊都	部室
学部３年	法学部	箱崎	部室
学部３年	法学部	箱崎	部室
学部３年	法学部	箱崎	部室
学部２年	工学部	伊都	部室（課外活動施設）
学部１年	芸術工学部	大橋	部室など
学部１年	農学部	伊都	部室棟
学部２年	法学部	箱崎	法学部サロン
学部３年	法学部	箱崎	法学部サロン
学部４年	経済学部	箱崎	本屋

質問 2.　現在の 九州大学の図書館の利用についておたずねします。

1）現在の図書館の利用頻度について

学部１年

所属	ほぼ毎日	週に1～2 回	週に3～4 回	月に1～2 回	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答	回答者数
文学部	0	13	3	21	7	10	1	0	55
教育学部	1	15	0	20	4	6	0	0	46
法学部	5	23	16	19	1	6	0	1	71
経済学部	2	25	4	39	25	24	8	0	127
理学部	2	33	8	63	19	18	5	1	149
農学部	1	34	8	39	15	8	2	1	108
医学部	1	3	2	6	11	18	4	0	45
歯学部	2	2	0	18	6	9	2	0	39
薬学部	0	2	0	8	3	2	0	0	15
工学部	4	94	15	160	55	62	15	1	406
芸術工学部	3	5	2	32	20	33	7	1	103
	21	249	58	425	166	196	44	5	1164

学部２年

所属	ほぼ毎日	週に1～2 回	週に3～4 回	月に1～2 回	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答	回答者数
文学部	3	26	8	13	6	2	0	2	60
教育学部	0	10	3	5	3	3	0	0	24
法学部	10	47	27	24	8	10	0	0	126
経済学部	4	59	20	25	8	11	3	0	130
理学部	6	43	19	27	17	10	0	0	122
農学部	5	19	13	6	4	2	0	0	49
歯学部	0	0	0	0	1	0	0	0	1
工学部	2	59	16	57	27	19	0	1	181
	30	263	106	157	74	57	3	3	693

学部３年

所属	ほぼ毎日	週に 1～2 回	週に 3～4 回	月に 1～2 回	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答	回答者数
教育学部	0	2	1	0	0	0	0	0	3
法学部	19	17	23	7	2	0	0	0	68
経済学部	6	16	14	9	0	3	3	0	51
工学部	0	11	0	22	10	7	0	0	50
21 世紀プログラム	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	25	48	38	38	12	10	3	0	174

学部４年

所属	ほぼ毎日	週に 1～2 回	週に 3～4 回	月に 1～2 回	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答	回答者数
文学部	1	2	2	2	0	0	0	0	7
教育学部	0	0	0	1	0	0	0	0	1
法学部	3	8	10	5	1	0	0	0	27
経済学部	5	2	1	3	1	1	0	0	13
工学部	0	1	2	3	0	0	0	0	6
21 世紀プログラム	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	9	13	15	14	3	1	0	0	55

修士・博士

所属	ほぼ毎日	週に 1～2 回	週に 3～4 回	月に 1～2 回	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答	回答者数
人文科学府	1	2	2	3	0	0	0	0	8
比較社会文化学府	3	9	6	2	1	0	0	0	21
人間環境学府	0	9	0	5	3	2	0	1	20
法学府	1	3	2	0	0	0	0	0	6
	5	23	10	10	4	2	0	1	55

不明

所属	ほぼ毎日	週に 1～2 回	週に 3～4 回	月に 1～2 回	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答	回答者数
工学部	0	0	0	0	0	1	0	0	1
法学部	2	1	1	0	0	0	0	0	4
経済学部	2	0	0	0	0	0	0	0	2
経済学府	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	0	1	0	1	0	0	0	3
	6	1	2	0	1	1	0	0	11

2）一番よく利用する図書館・室について

（注）質問 2．1)で 無回答および「ほとんど利用しない」「利用したことがない」を選択した回答者を除く

学部１年

所属	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	回答無し	回答者数
文学部	7	35	0	0	0	0	2	44
教育学部	5	35	0	0	0	0	0	40
法学部	2	62	0	0	0	0	0	64

経済学部	20	74	0	0	0	1	0	95
理学部	23	101	0	0	0	0	1	125
農学部	7	90	0	0	0	0	0	97
医学部	0	17	6	0	0	0	0	23
歯学部	0	20	8	0	0	0	0	28
薬学部	0	11	2	0	0	0	0	13
工学部	2	324	0	0	0	0	2	328
芸術工学部	2	41	0	18	0	0	1	62
	68	810	16	18	0	1	6	919

学部２年

所属	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	回答無し	回答者数
文学部	52	2	0	0	0	2	0	56
教育学部	21	0	0	0	0	0	0	21
法学部	96	1	0	0	0	19	0	116
経済学部	107	0	0	0	0	9	0	116
理学部	105	6	0	0	0	0	1	112
農学部	45	0	0	0	1	0	1	47
歯学部	0	0	1	0	0	0	0	1
工学部	10	151	0	0	0	0	0	161
	436	160	1	0	1	30	2	630

学部３年

所属	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	回答無し	回答者数
教育学部	3	0	0	0	0	0	0	3
法学部	56	0	0	0	0	12	0	68
経済学部	42	0	0	0	0	2	1	45
工学部	43	0	0	0	0	0	0	43
21 世紀プログラム	2	0	0	0	0	0	0	2
	146	0	0	0	0	14	1	161

学部４年

所属	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	回答無し	回答者数
文学部	1	0	0	0	0	6	0	7
教育学部	0	0	0	0	0	1	0	1
法学部	19	1	0	0	0	7	0	27
経済学部	12	0	0	0	0	0	0	12
工学部	6	0	0	0	0	0	0	6
21 世紀プログラム	1	0	0	0	0	0	0	1
	39	1	0	0	0	14	0	54

修士・博士

所属	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	回答無し	回答者数
人文科学府	1	0	0	0	0	6	1	8
比較社会文化学府	7	13	0	0	0	1	0	21
人間環境学府	14	0	0	1	1	1	0	17
法学府	1	0	0	0	0	5	0	6
	23	13	0	1	1	13	1	52

不明

所属	中央図書館	伊都図書館	医学図書館	芸術工学図書館	筑紫図書館	文系合同図書室	回答無し	回答者数
法学部	4	0	0	0	0	0	0	4
経済学部	2	0	0	0	0	0	0	2
経済学府	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	1	0	0	0	1	0	3
	8	1	0	0	0	1	0	10

3）図書館を利用する目的

（注）質問 2．1)で 無回答および「ほとんど利用しない」「利用したことがない」を選択した回答者を除く

図書館別

利用図書館	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
中央図書館	358	462	163	328	206	53	265	131	11	720
伊都図書館	496	603	213	389	160	57	385	148	16	985
医学図書館	4	13	5	7	2	0	7	1	0	17
芸術工学図書館	13	5	5	1	0	2	8	5	0	19
筑紫図書館	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
文系合同図書室	52	40	6	14	27	13	32	6	0	73
回答無し	3	3	1	2	1	1	2	1	0	10
合計	927	1127	393	741	396	126	699	292	27	1826

利用頻度別

利用頻度	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
ほぼ毎日	56	73	23	42	25	14	32	12	4	96
週に 1～2 回	307	402	135	280	142	32	221	121	6	597
週に 3～4 回	135	188	43	119	78	16	86	51	5	229
月に 1～2 回	326	352	122	236	117	44	257	84	9	644
年に数回	103	112	70	64	34	20	103	24	3	260
合計	927	1127	393	741	396	126	699	292	27	1826

学部 1 年

所属	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
文学部	22	26	3	22	8	3	23	6	5	44
教育学部	25	22	3	13	5	6	25	7	0	40
法学部	34	45	7	30	9	1	23	12	0	64

経済学部	47	51	17	50	18	6	18	27	2	95
理学部	62	76	23	41	13	10	47	21	1	125
農学部	58	61	21	45	18	1	36	13	0	97
医学部	11	14	3	6	2	1	10	2	0	23
歯学部	7	19	3	8	2	1	15	2	0	28
薬学部	7	9	1	7	0	0	2	1	0	13
工学部	156	194	88	132	51	14	126	55	6	328
芸術工学部	41	24	15	16	5	4	28	11	1	62
	470	541	184	370	131	47	353	157	15	919

学部 2 年

所属	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
文学部	37	33	4	39	20	3	35	15	0	56
教育学部	11	13	5	12	8	2	10	5	0	21
法学部	65	96	31	28	34	11	43	18	0	116
経済学部	31	86	32	61	27	5	31	24	1	116
理学部	46	65	39	47	40	4	46	24	1	112
農学部	11	28	12	31	13	2	15	5	2	47
歯学部	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
工学部	65	110	43	61	49	9	68	13	3	161
	266	432	167	279	191	36	248	104	7	630

学部 3 年

所属	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
教育学部	1	2	0	3	1	0	0	1	0	3
法学部	48	54	15	31	21	7	29	7	0	68
経済学部	18	27	9	25	13	2	12	13	2	45
工学部	29	13	3	3	13	4	18	0	0	43
21 世紀プログラム	2	1	0	1	0	0	1	0	0	2
	98	97	27	63	48	13	60	21	2	161

学部４年

所属	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
文学部	6	1	0	1	0	2	2	1	0	7
教育学部	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
法学部	22	16	6	6	9	1	7	3	1	27
経済学部	6	10	2	7	4	1	5	1	0	12
工学部	5	2	1	2	1	1	1	1	0	6
21 世紀プログラム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	41	30	9	16	14	5	15	6	1	54

修士・博士

所属	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
人文科学府	2	0	0	0	0	1	2	0	0	3
比較社会文化学府	6	3	0	2	1	4	1	0	0	6
人間環境学府	7	1	0	2	0	0	3	0	0	8
法学府	2	0	0	0	2	2	1	0	0	2
人文科学府	4	3	0	1	2	0	1	0	0	4
比較社会文化学府	4	3	1	1	0	1	1	1	0	5
人間環境学府	5	2	0	0	0	3	3	0	0	7
法学府	2	0	1	0	2	2	1	0	0	3
比較社会文化学府	4	2	2	0	1	4	3	0	0	4
人間環境学府	2	1	0	1	0	0	0	0	0	2
人文科学府	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1
比較社会文化学府	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
法学府	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1
比較社会文化学府	5	3	0	2	1	3	2	1	0	5
	46	19	4	10	11	23	20	2	0	52

不明

所属	図書/雑誌の利用	一人で自習	グループで学習	PC の利用	コピー/印刷	文献の取り寄せ	調べ物	情報交換・時間つぶし	その他	回答者数
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1

法学部	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
法学部	3	3	1	2	1	1	2	1	1	3
経済学部	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2
経済学府	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1
その他	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2
	6	8	2	3	1	2	3	2	2	10

「その他」の利用目的（上の選択肢で「その他」を選んでいるが無記入のものは除く）

学年	所属	利用目的
学部１年	工学部	オープンセミナー室で話し合い
学部１年	工学部	サークル
学部１年	工学部	サークルの話し合い
学部１年	経済学部	サークル活動
学部２年	理学部	ミーティング
学部１年	芸術工学部	ミーティングなどの課外活動のため
学部１年	工学部	レポート作成
学部２年	工学部	会議
学部２年	農学部	午睡(昼寝)
学部１年	文学部	趣味
学部２年	農学部	新聞
学部３年	経済学部	新聞
学部３年	経済学部	新聞
学部２年	経済学部	新聞の閲覧
学部２年	工学部	新聞の閲覧
学部２年	工学部	新聞を読む
学部１年	理学部	部活

4）図書館でよく利用するスペース

（注）質問 2．1)で 無回答および「ほとんど利用しない」「利用したことがない」を選択した回答者を除く

図書館別

利用図書館	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
中央図書館	507	343	38	58	241	94	4	720
伊都図書館	730	423	42	81	168	69	10	985
医学図書館	10	13	1	0	4	0	0	17
芸術工学図書館	14	3	0	3	3	5	1	19
筑紫図書館	2	0	0	0	0	0	0	2
文系合同図書室	57	18	2	4	15	9	4	73
回答無し	2	2	1	0	2	0	0	10
合計	1322	802	84	146	433	177	19	1826

中央図書館・所属別

所属	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
文学部	50	38	0	0	23	12	1	60
教育学部	23	17	2	3	13	5	0	29
法学部	143	65	8	29	47	29	0	177
経済学部	116	95	11	9	66	25	0	183
理学部	75	66	4	7	58	10	0	128
農学部	29	35	3	4	17	5	1	52
工学部	49	15	5	3	11	4	0	61
芸術工学部	2	1	0	0	1	0	1	2
21 世紀プログラム	2	1	0	0	1	1	0	3
人文科学府	1	0	1	0	0	0	0	1
比較社会文化学府	5	5	2	1	1	2	0	7
人間環境学府	10	3	2	1	2	0	1	14
法学府	1	0	0	1	0	0	0	1
経済学府	1	1	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	0	1	1	0	1
	507	343	38	58	241	94	4	720

伊都図書館・所属別

所属	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
文学部	31	16	0	0	7	4	0	37
教育学部	33	14	0	0	2	0	1	35
法学部	50	32	1	1	12	9	1	64
経済学部	50	36	4	3	11	1	0	74
理学部	86	32	6	8	27	6	0	107
農学部	65	39	3	3	22	6	2	90
医学部	14	6	0	0	1	1	0	17
歯学部	18	3	0	0	4	0	0	20
薬学部	7	6	1	0	0	0	1	11
工学部	336	220	24	58	75	36	4	475
芸術工学部	30	14	2	7	7	2	0	41
比較社会文化学府	10	4	1	1	0	4	0	13
その他	0	1	0	0	0	0	1	1
	730	423	42	81	168	69	10	985

医学図書館・所属別

所属	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
医学部	4	5	0	0	1	0	0	6
歯学部	5	6	1	0	3	0	0	9
薬学部	1	2	0	0	0	0	0	2
	10	13	1	0	4	0	0	17

芸術工学図書館・所属別

所属	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
芸術工学部	14	3	0	3	2	5	1	18
人間環境学府	0	0	0	0	1	0	0	1

	14	3	0	3	3	5	1	19

筑紫図書館・所属別

所属	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
農学部	1	0	0	0	0	0	0	1
人間環境学府	1	0	0	0	0	0	0	1
	2	0	0	0	0	0	0	2

文系合同図書室・所属別

所属	静かな閲覧席	情報サロン（PC 席）	個人で借りることのできる個室	グループで借りることのできる個室	会話 OK の学習スペース	軽雑誌・新聞閲覧スペース	その他	回答者数
文学部	5	2	0	0	0	1	1	8
教育学部	1	0	0	0	0	0	0	1
法学部	36	10	0	4	8	4	0	38
経済学部	6	5	0	0	6	1	0	12
人文科学府	5	0	0	0	1	1	1	6
比較社会文化学府	1	0	0	0	0	0	0	1
人間環境学府	0	1	0	0	0	0	0	1
法学府	2	0	2	0	0	2	2	5
その他	1	0	0	0	0	0	0	1
	57	18	2	4	15	9	4	73

「その他」の利用スペース（上の選択肢で「その他」を選んでいるが無記入のものは除く）

学年	所属	
学部 2 年	農学部	PC
学部 1 年	教育学部	リフレッシュルーム
学部 1 年	法学部	リフレッシュルーム
学部 1 年	薬学部	机
学部 1 年	工学部	机がたくさんあるところ
学部 2 年	工学部	自習する所
学部 1 年	芸術工学部	借りたらさっさと帰ります

学部４年	文学部	書庫
修士２年	法学府	書庫
修士２年	人間環境学府	書庫以外滞在あまり滞在しない。
学部１年	工学部	図書の貸出、返却のみ
修士１年	法学府	図書室
学部１年	芸術工学部	中央図書館のリフレッシュルーム
学部２年	文学部	本棚の間

5）2）で選んだ図書館について、下記の項目について評価してください

（注）質問 2．1)で 無回答および「ほとんど利用しない」「利用したことがない」を選択した回答者を除く

評価項目が一つでも無回答の場合は、他の評価項目が回答されていたとしても、その回答者を除く

利用図書館	図書館が身近で便利な場所にある	座席が充分な数用意されている	パソコンが充分な台数用意されている	複写機/プリンタが充分な台数用意されている	グループでの学習や会話ができるエリアがある	1グループで占有して利用できる部屋の数が充分である	1人で占有して利用できる個室の数が充分である	ロッカーが充分な数用意されている	図書や雑誌が充実している	図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	職員によるサポートが充分である	開館時間が充分である	開館日数が充分である	回答者数
中央図書館	2061	2491	3288	2748	2215	2672	2728	2696	2278	2244	2342	2355	2443	2201	697
伊都図書館	4027	2774	3479	3338	3056	3467	3570	3660	3041	3070	3062	3084	3363	2959	945
医学図書館	57	57	52	66	63	67	67	74	57	53	56	63	69	52	17
芸術工学図書館	48	63	75	72	75	75	82	79	67	62	67	58	64	67	18
筑紫図書館	8	8	6	11	10	11	9	10	8	6	7	5	7	6	2
文系合同図書室	165	312	321	327	321	329	324	263	198	238	230	224	222	241	69
回答無し	28	22	30	28	24	26	25	26	19	20	21	21	26	27	7
合計	6394	5727	7251	6590	5764	6647	6805	6808	5668	5693	5785	5810	6194	5553	1755

6）図書館を利用しない理由

（注）質問 2．1)で「ほとんど利用しない」「利用したことがない」を選択した回答者のみ抽出

ホームキャンパス	どこにあるか知らない	遠い	行く必要がない	自分に必要な本や雑誌がない	その他	回答者数
箱崎	6	23	44	8	5	77
伊都	3	80	119	17	5	179
馬出	2	11	17	2	2	25
大橋	2	18	22	1	0	35
筑紫	0	0	0	1	0	1
合計	13	132	202	29	12	317

「その他」の理由

学部	所属	ホームキャンパス	
学部１年	文学部	箱崎	近所に市の総合図書館があるため
学部１年	経済学部	伊都	実家の近くにある図書館を利用している。
学部１年	理学部	伊都	本を読む気になれない
学部１年	歯学部	馬出	遠い
学部１年	薬学部	馬出	貸出期間が短い
学部１年	工学部	伊都	行く気がない
学部１年	工学部	伊都	静か過ぎて逆に集中できない。
学部２年	文学部	箱崎	めんどくさい
学部２年	教育学部	箱崎	他の図書館に行っている
学部２年	経済学部	箱崎	雰囲気があまり好きではない
学部２年	理学部	箱崎	必要な図書は自分で買うから
学部３年	工学部	伊都	時間帯が合わない

質問 3.　新中央図書館についておたずねします

1）図書館に対して期待度が高い項目

利用頻度	図書館が身近で便利な場所にある	座席が充分な数用意されている	パソコンが充分な台数用意されている	複写機/プリンタが充分な台数用意されている	グループでの学習や会話ができるエリアがある	1グループで貸切で利用できる部屋の数が充分である	1人で利用できる個室の数が充分である	ロッカーの数が充分である	図書や雑誌が充実している	図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	職員によるサポートが充分である	開館時間が充分である	開館日数が充分である	回答者数
ほぼ毎日	52	44	50	20	24	15	17	5	48	19	7	6	49	27	96
週に 3～4 回	140	133	121	57	56	26	46	17	132	50	21	24	112	57	229
週に 1～2 回	383	337	369	157	157	86	112	35	345	172	48	55	256	136	597
月に 1～2 回	418	324	346	141	185	110	139	32	369	191	53	44	227	143	644
年に数回	161	124	112	67	85	50	61	19	124	76	20	20	92	61	260
ほとんど利用しない	165	125	136	81	106	48	72	9	134	89	25	15	94	43	267
利用したことがない	29	21	24	14	17	13	15	3	15	10	2	3	14	11	50
回答無し	6	7	6	4	1	1	0	1	7	3	0	1	4	2	9
	1,354	1,115	1,164	541	631	349	462	121	1174	610	176	168	848	480	2,152

2）教室や研究室、食堂から図書館までの距離

距離	回答者数
240m（3 分）まで	770
400m（5 分）まで	952
800m（10 分）まで	209
800m以上（10 分以上）でもよい	34
80m（1 分）まで	161
無回答	26
合計	2,152

3）会話可能なスペースの割合,

割合	回答者数
1 割	182
2 割	535
3 割	787
4 割	301
5 割	174
それ以上	39
なくてもよい	115
無回答	19
合計	2,152

4）新中央図書館の設備・機能・サービスに対する期待度

（注）評価項目が一つでも無回答の場合は、他の評価項目が回答されていたとしても、その回答者を除く

表の列見出しは以下のとおり。

列見出し	項目名
広い閲覧机	ノートや資料を広げながらパソコンを利用できる広い机
仕切りつき座席	隣や前に座った人との間に仕切りのある座席
個室	一人で占有して利用できる個室
防音室	声を出してｅラーニング等を行える防音機能のある部屋
自習スペース	図書館の資料を利用しない自習スペース
読書用席	本棚のあいだの読書用の椅子・机
作業スペース	資料作成などの作業机・スペース
占有ブース	長期間にわたり継続して占有できるブース
特殊資料スペース	特殊な形態の資料（大型資料、マイクロフィルムなど）を集中して利用できる場所

屋外座席	テラスや屋上など、室外空間の座席
食事	食事をとることができる
仮眠	仮眠をとることのできる快適なソファ等
景色	景色のよさ
大型ロッカー	大型の荷物を入れることのできるロッカー
長期間用ロッカー	長期間継続して利用可能なロッカー
スタッフ	各階に図書館スタッフが配置されている
24 時間開館	24 時間開館している
365 日開館	365 日開館している

学部 1 年

所属	広い閲覧机	仕切りつき座席	個室	防音室	自習スペース	読書用席	作業スペース	占有ブース	特殊資料スペース	屋外座席	食事	仮眠	景色	大型ロッカー	長期間用ロッカー	スタッフ	24 時間開館	365日開館	回答者数
文学部	132	130	191	204	164	163	144	168	221	191	130	157	203	195	190	221	190	193	55
教育学部	99	103	141	151	129	156	115	138	176	167	100	150	164	174	173	151	171	171	43
法学部	155	177	256	259	188	281	222	216	263	244	177	239	269	252	264	253	253	263	68
経済学部	306	322	376	419	347	444	398	379	518	408	314	323	410	420	428	462	453	455	119
理学部	370	428	542	540	438	540	425	464	557	512	373	448	512	550	569	540	489	464	139
農学部	271	271	391	397	306	418	342	363	451	357	225	278	391	389	389	431	381	394	105
医学部	115	115	123	163	121	164	126	118	160	142	121	138	177	168	154	163	138	152	42
歯学部	109	114	130	128	102	115	107	115	144	128	102	115	136	151	150	136	107	110	35
薬学部	33	25	42	53	29	51	37	38	60	55	28	33	49	53	49	48	57	53	15
工学部	1064	1120	1411	1515	1227	1631	1223	1350	1556	1393	1053	1225	1429	1532	1580	1582	1384	1425	385
芸術工学部	258	280	348	384	282	335	284	315	384	338	234	280	328	383	387	394	361	349	96
	2912	3085	3951	4213	3333	4298	3423	3664	4490	3935	2857	3386	4068	4267	4333	4381	3984	4029	1102

学部２年

所属	広い閲覧机	仕切りつき座席	個室	防音室	自習スペース	読書用席	作業スペース	占有ブース	特殊資料スペース	屋外座席	食事	仮眠	景色	大型ロッカー	長期間用ロッカー	スタッフ	24時間開館	365日開館	回答者数
文学部	140	146	217	241	174	209	170	197	249	250	163	201	249	229	224	238	238	236	58
教育学部	53	58	72	93	51	79	65	75	93	82	47	60	85	88	91	65	81	77	24
法学部	316	281	421	529	357	523	425	388	559	527	311	457	533	472	467	503	369	376	123
経済学部	291	309	375	454	336	453	354	356	488	442	305	353	423	468	467	473	399	419	119
理学部	256	316	395	462	366	473	352	399	481	483	358	383	460	485	487	436	377	393	118
農学部	119	121	160	173	143	161	142	159	166	150	125	136	149	164	162	171	129	131	44
歯学部	1	2	4	7	1	7	1	1	6	3	1	1	3	7	7	7	1	1	1
工学部	427	417	551	668	513	637	507	547	620	588	445	453	552	648	650	686	515	542	168
	1603	1650	2195	2627	1941	2542	2016	2122	2662	2525	1755	2044	2454	2561	2555	2579	2109	2175	655

学部３年

所属	広い閲覧机	仕切りつき座席	個室	防音室	自習スペース	読書用席	作業スペース	占有ブース	特殊資料スペース	屋外座席	食事	仮眠	景色	大型ロッカー	長期間用ロッカー	スタッフ	24時間開館	365日開館	回答者数
教育学部	7	6	8	14	9	8	6	7	10	8	5	14	13	13	10	9	9	10	3
法学部	167	169	173	245	167	266	189	161	298	243	161	213	252	228	213	251	162	175	67
経済学部	121	134	166	182	122	172	134	135	186	173	127	162	184	173	176	186	147	163	47
工学部	98	137	161	211	138	163	138	154	165	182	148	176	155	204	210	188	161	158	46
21世紀プログラム	6	6	6	6	4	7	4	4	10	4	4	4	4	8	8	10	7	6	2
	399	452	514	658	440	616	471	461	669	610	445	569	608	626	617	644	486	512	165

学部４年

所属	広い閲覧机	仕切りつき座席	個室	防音室	自習スペース	読書用席	作業スペース	占有ブース	特殊資料スペース	屋外座席	食事	仮眠	景色	大型ロッカー	長期間用ロッカー	スタッフ	24時間開館	365日開館	回答者数
文学部	20	16	27	36	29	23	28	32	23	29	22	31	29	28	30	28	30	32	7
教育学部	4	2	6	5	2	3	3	5	5	3	3	4	2	5	5	3	4	4	1

法学部	61	60	71	78	72	96	75	74	94	93	73	87	82	87	75	96	58	69	25
経済学部	30	39	42	60	31	58	49	60	57	62	50	53	52	61	60	50	31	35	13
工学部	9	21	24	30	11	22	11	12	21	22	7	18	21	28	21	20	17	21	5
21 世紀プログラム	4	4	4	1	4	1	1	7	1	4	7	7	7	3	4	4	4	4	1
	128	142	174	210	149	203	167	190	201	213	162	200	193	212	195	201	144	165	52

修士・博士

所属	広い閲覧机	仕切りつき座席	個室	防音室	自習スペース	読書用席	作業スペース	占有ブース	特殊資料スペース	屋外座席	食事	仮眠	景色	大型ロッカー	長期間用ロッカー	スタッフ	24 時間開館	365日開館	回答者数
人文科学府	14	25	31	33	29	28	35	25	25	45	30	35	37	35	37	26	32	29	8
比較社会文化学府	37	51	55	61	71	54	49	68	61	68	44	70	56	66	64	58	60	59	19
人間環境学府	31	48	67	63	55	57	53	52	58	62	61	65	62	73	77	58	71	75	18
法学府	15	11	15	20	16	20	17	15	26	28	15	16	27	19	24	18	13	12	6
	97	135	168	177	171	159	154	160	170	203	150	186	182	193	202	160	176	175	51

不明

所属	広い閲覧机	仕切りつき座席	個室	防音室	自習スペース	読書用席	作業スペース	占有ブース	特殊資料スペース	屋外座席	食事	仮眠	景色	大型ロッカー	長期間用ロッカー	スタッフ	24 時間開館	365日開館	回答者数
法学部	6	9	8	10	8	9	9	8	8	8	7	7	10	10	7	10	7	7	4
経済学部	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	7	6	5	5	5	5	2
工学部	1	7	7	4	4	1	4	1	1	1	1	7	1	1	1	1	1	4	1
経済学府	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1
その他	6	15	6	4	7	13	8	9	8	7	4	9	7	7	8	6	4	4	3
	20	38	28	25	26	30	28	24	24	24	19	30	27	26	23	24	18	22	11

質問４．　その他、現在の図書館やこれからの図書館への要望等がありましたらご記入ください。

距離・立地等

学年	所属	キャンパス	要望など
博士３年	比較社会文化学府	伊都	図書館を平地に作ってほしい。入り口も１階にしてバリアフリーにしてほしい。入り口にたどり着くまでに坂道や階段とかあるのはめてほしい。行く気がしなくなる。
学部１年	理学部	伊都	坂の上は行きづらい
学部１年	文学部	伊都	箱崎も伊都も図書館が遠すぎて嫌になる
学部１年	文学部	箱崎	伊都図書館がセンターゾーンから遠いのはネックだと思う。
学部１年	文学部	伊都	現在の伊都図書館は１年の全学教育生には遠い
学部１年	理学部	伊都	とにかく遠い！
学部１年	理学部	伊都	伊都の図書館は、全学のセンターゾーンからだと坂がキツい。
学部１年	理学部	箱崎	場所を全学に近く。時間もできるだけ長くしてほしい
学部１年	理学部	伊都	伊都図書館は立地があまり良くなく、また開館時間も短い。特に開館時間は、せめてバスがなくなる 30 分程度前まであった方が使い易い。
学部１年	医学部	馬出	もう少し図書館の位置等を広く学生に知ってもらうべきだと思います。
学部１年	歯学部	伊都	伊都の図書館は少し遠いと思う！
学部１年	教育学部	伊都	近いことが何より望ましいことだと思います！！
学部１年	芸術工学部	大橋	坂の上につくらないであげてください。
学部１年	芸術工学部	大橋	遠いため、いかにその施設が充実していても使いにくい。
学部１年	教育学部	伊都	センターゾーンから図書館が遠すぎる。
学部１年	農学部	伊都	センターゾーンからでも快適に行ける所に図書館があるとうれしいです。
学部１年	農学部	伊都	山の上にあるのはとても不便
学部１年	農学部	伊都	できるだけ近い方がありがたいです。初めてでもいきやすい図書館がいいです。
学部２年	法学部	箱崎	講義棟からすぐ近くの「利用しやすい」図書館を何より期待します！！
学部２年	法学部	箱崎	駅から図書館までの道が夜帰るとき暗すぎて本当に危ないと思う。どうにかしてほしい。
学部１年	法学部	伊都	伊都図書館は少し遠すぎる
学部２年	文学部	伊都	伊都図書館は遠いです
学部１年	経済学部	伊都	図書館を、いつでも気軽に通える距離においてもらいたいです。
学部１年	経済学部	伊都	とにかく、近くしてほしい。坂道とか論外。
学部１年	理学部	箱崎	とにかく立地が一番重要だと思います。
学部２年	法学部	箱崎	授業している場所からなるべく近い位置につくってほしいです。
学部２年	農学部	箱崎	こういうアンケートは図書館を立てる計画がほぼ固まる前にするべきだったと思う。伊都の図書館は遠すぎる気がする。
学部２年	工学部	伊都	場所が歩いていくのにはしんどい場所にあるので、もっといい場所に作ってほしかった。

開館時間延長

学年	所属	キャンパス	要望など
学部１年	理学部	箱崎	土、日、祝日の開館時間を遅くしてほしい。
学部１年	理学部	伊都	短時間でも良いので、土日祝日に開館してほしい。
学部１年	理学部	伊都	閉館時間が早い。テスト前とかは、もっと遅くまでやってほしい。
修士２年	比較社会文化学府	伊都	24 時間会館は絶対必要だと思います。
学部１年	文学部	伊都	伊都図書館を 22 時まで開館してほしいです。
学部３年	法学部	箱崎	私の研究対象上、文系合同図書館のみにしか書物が配置されてないことが多い。そのため、かの図書館の休館日の多さには非常に頭を悩ませている。効率的な研究のためにも、ぜひ開館日を増やして頂きたい。
学部１年	理学部	箱崎	休日 6 時までが短すぎる。部活のあいまにもいきたいので 10 時まであ

			けてほしい
学部 1 年	経済学部	伊都	土日の開館時間を朝 9 時にしてほしい。
学部 1 年	工学部	伊都	伊都図書館の開館時間を遅くまでに延長してほしい
学部 1 年	芸術工学部	大橋	大橋キャンパスの利用可能時間が少なくて困る。
学部 1 年	教育学部	箱崎	伊都図書館しまるのはやい。
学部 1 年	農学部	伊都	開館時間をもっと長くしてほしいです
学部 1 年	農学部	伊都	開館時間 8:00～23:00 を希望
学部 1 年	農学部	伊都	開館時間の延長をお願いします。
学部 2 年	法学部	箱崎	土日も 22 時まで開館してほしいです。（欲を言えば 24 時間開けてほしい。）
学部 2 年	法学部	箱崎	土日祝日も 21 時まで開館しているようになれば十分満足です。
学部 2 年	法学部	箱崎	現在の図書館←開館時間を長く、特に土日
学部 2 年	法学部	箱崎	土日の開館時間を増やしてほしい（例えば、閉館時間を 18 時→21 時）
学部 4 年	法学部	箱崎	開館時間を長くしてほしい。
学部 1 年	法学部	箱崎	伊都図書館が平日は 9 時に閉まり、休日は 6 時に閉まるのは本当に不便です。夜 10 時までおくように強く希望します
学部 1 年	法学部	伊都	夜、21 時に閉館するのは早過ぎる！
学部 2 年	法学部	箱崎	開館時間を長く！！！！！！
学部 1 年	経済学部	箱崎	開館時間をもっと長くして欲しい（開館は夜 12 時がよい）
学部 2 年	法学部	箱崎	休日の開閉館時間が短いことが少々不便に感じています。
学部 1 年	芸術工学部	伊都	本当に夜 11 時くらいまで、朝は 7 時くらいから開館していてほしい。勉強できるスペースが大学全体で少なすぎる。
学部 2 年	文学部	箱崎	図書館は土日祝日も遅くまで開けてほしいです
学部 2 年	経済学部	箱崎	24 時間利用や 365 日開館までとは言わないが、もう少し利用できる日時が増えるのは利用しやすくなると思う。
学部 2 年	理学部	箱崎	中央館の開館時間　平日 7：30　休日は 8:30 から開けてほしいです
学部 2 年	工学部	箱崎	開館時間を伸ばして欲しい
学部 3 年	工学部	伊都	閉まるのが早すぎる
学部 2 年	工学部	伊都	休日も含めて開館時間を長くしてほしい。
学部 2 年	工学部	箱崎	伊都図書館も 8:00～22:00 で開けてほしい。
学部 2 年	工学部	伊都	休日の開館時間をもう少しのばしてほしい。2 階にも貸借カウンターがほしい。
学部 2 年	工学部	伊都	土日の閉館時間（18:00）が早すぎ
学部 2 年	工学部	伊都	土日も 21 時まで開けて欲しい。
学部 4 年	法学部	箱崎	土日の開館時間が短い
学部 3 年	法学部	箱崎	閉館時間がはやいです
学部 2 年	工学部	伊都	日祝日の開館時間をもう少し長くしてほしいです。
学部 3 年	経済学部	箱崎	土日 18 時閉館はどうにかならないものか
学部 2 年	理学部	箱崎	開館時間、日数を増やしてほしい
学部 3 年	経済学部	箱崎	土日の開館時間（箱崎）を平日と同じくらい長くしてほしい。

24 時間開館

学年	所属	キャンパス	要望など
学部 1 年	文学部	伊都	24 時間開いているスペースの確保
学部 1 年	工学部	伊都	24 時間お願いします、宿泊施設を作ってほしいです
学部 1 年	工学部	伊都	深夜等は一部機能が停止してもいいから開いていてほしい
学部 2 年	法学部	箱崎	移転する前でも、現在の図書館を 24 時間あけていてほしいです。
学部 1 年	理学部	伊都	中央図書館を 24 時間開館してほしい
学部 4 年	法学部	箱崎	24 時間利用したい
学部 1 年	芸術工学部	伊都	土、日を 24 時間営業にしてほしい。（課題、テスト勉強の為）
学部 2 年	経済学部	箱崎	24 時間の運営
学部 2 年	工学部	伊都	伊都図書館を 24 時間使えるようにしてほしい

学部 3 年	経済学部	箱崎	中央図書館も 24 時間開けてほしい。
学部 4 年	経済学部	箱崎	24 時間の開館を希望する。

空調

学年	所属	キャンパス	要望など
学部 1 年	文学部	箱崎	夏は暑いので、空調を充実させてほしい
学部 1 年	工学部	伊都	空調設備の設置
学部 1 年	農学部	伊都	伊都図書館は夏はとても暑い。快適な図書館にしてください。
学部 2 年	経済学部	箱崎	伊都図書館も中央図書館も空気が悪い(夏は暑い)のと暗いです。
学部 2 年	経済学部	箱崎	空調があまり効いていないときがあると思うので(特に夏)改善して欲しいです。
学部 2 年	経済学部	箱崎	冷暖房をきちんとしてほしい。図書館は快適な自習スペースというイメージがあるのに夏季の伊都図書館は蒸し風呂状態。
学部 2 年	工学部	伊都	夏場の冷房の効きが悪く学習に集中できないため改善してほしい（伊都）
学部 2 年	工学部	伊都	自習スペースの確保と空調システムの調整
学部 2 年	工学部	伊都	夏の暑さの工夫

施設・設備

学年	所属	キャンパス	要望など
学部 1 年	理学部	伊都	数人のグループが簡単に利用することのできる個室のスペースが欲しい。
学部 1 年	工学部	伊都	売店がほしい
学部 1 年	工学部	伊都	どういった設備があるのか，パンフレットを読まなくても受け付けの近くにでも大きな説明書とかがあったら，もっと色々使いやすくないと思う。
学部 1 年	工学部	伊都	ボイストレーニングのできる部屋がほしいです。
学部 1 年	薬学部	伊都	休憩できる屋上カフェや地下食堂など開館時間をあわせてしてほしい。
学部 1 年	工学部	伊都	仮眠ソファが欲しい
学部 1 年	医学部	馬出	教授も加われるようなカフェみたいな創造の場がほしい。
学部 1 年	工学部	伊都	大きいロッカーがもうちょっとあればいいと思う
学部 1 年	工学部	伊都	現在伊都図書館は全学教育を受ける学生と工学部生、一部の理学部生が主に利用していますが、キャンパスの移転にともなって利用者は増えると思います。そうなるともう少しだけ席を増やしてほしいと思います。あとグループにより部屋の利用、予約状況がわかるようになれば、もっと個室が利用しやすくなると思います。
学部 1 年	工学部	伊都	図書館の前に駐輪場
学部 1 年	農学部	伊都	図書館内に売店があるとよい。
学部 1 年	経済学部	伊都	試験前には一人での自習スペースを増やすなどの臨機応変な対応をしてほしい
学部 1 年	農学部	伊都	横になれる場所がほしい
学部 1 年	法学部	伊都	大型の荷物を入れることのできるロッカーを準備してほしいです。
学部 1 年	法学部	伊都	グループ学習室で 20 人程度まで対応できる部屋が欲しい。（伊都のオープンセミナー室くらい）
学部 2 年	法学部	箱崎	自分のノート PC を持ってきたとき、有線 LAN があれば良いなと思うときがあります。
学部 1 年	工学部	伊都	もう少し明るくしてほしい。
学部 2 年	理学部	箱崎	声を出して e ラーニングできる場所は大切と思います。
学部 2 年	理学部	箱崎	コピー機（PC のプリントアウト）が白黒が 1 台だと不便。カラープリンタでも白黒を可にするなどすべき。
学部 2 年	理学部	箱崎	カフェのようなものがあるとよい
学部 2 年	経済学部	箱崎	自習席にできるだけ電源をつけてほしい
学部 2 年	経済学部	箱崎	喫煙所の確保

学部２年	経済学部	箱崎	PC 用電源のある座席を増やしてほしい。
博士２年	人文科学府	箱崎	・中央図書館の問題点　研究個室の航空機騒音がひどい。2 重窓にするべき。なお、隣室との壁を天井までつなげて欲しい。（隣室の音が気になる。）　演習室に暖房がない。（エアコンはあるが、点けようにもリモコンが見当たらない）　演習室の壁が薄く、隣室の話し声がうるさくて、学習への集中を妨げられる。　語学の予習（発声）や、学会口頭発表のリハーサルができる部屋が必要。　OPAC 端末の数が不足、または位置が不適切。　昨冬の室温は高すぎた。それを節減して夏の冷房の充実にあてたいところだ。　会話 OK のエリアが広すぎ、静寂な閲覧
学部２年	文学部	箱崎	文系学部が不便でないつくりにして欲しいです。
学部２年	工学部	伊都	ウォータークーラー（給水器）の設置
学部２年	工学部	伊都	喫煙所がほしい
学部３年	法学部	箱崎	文系合同図書室のコピー機の増設、開館時間の延長、座席の増設
学部３年	法学部	箱崎	長期間継続して利用できるロッカーを設置してほしいです
学部２年	工学部	伊都	ヘッドホンをパソコン付近に常備しておいてほしい。
学部３年	経済学部	箱崎	コンセントがもっとほしい
修士１年	人文科学府	箱崎	閲覧室とできれば本棚間の照明の確保をよろしくお願いします。伊都の書棚スペースの照明は暗いと思います。

座席

学年	所属	キャンパス	要望など
学部２年	文学部	箱崎	座席の場所取りは禁止してほしい。
学部２年	法学部	箱崎	一人で何席も占有できないように一席一席を切り離したり、仕切りを入れる等の対策を講じてほしい。パソコンで明らかにずっと遊んでいる人もいるのでどうにかしてほしい。伊都は歩き疲れるので名称の通り、なるべく中央に配置してあげてほしい。
学部２年	経済学部	箱崎	座席増席希望

会話スペース

学年	所属	キャンパス	要望など
学部３年	法学部	箱崎	すべての静かなスペースに、会話 OK スペースの会話がとどかないようにしてほしい
学部１年	文学部	伊都	現在おうめい天空広場に行くと、会話がうるさいので、新図書館には会話スペースを設けないでほしい。音漏れがありそうです。
学部１年	理学部	伊都	さわげる空間と集中できる空間の調和
学部２年	法学部	箱崎	図書館は本来静かに勉強できる場所であるべきです。会話可の場所と無音で自習する場所を正確に分けてください。（場所的に）

パソコン

学年	所属	キャンパス	要望など
学部１年	教育学部	伊都	中央図書館のパソコン台数を増やしてほしいです
学部１年	工学部	伊都	PC を増やしてほしい
学部２年	文学部	箱崎	パソコンの台数を増やしてほしい
学部２年	農学部	箱崎	PC 増やして欲しい
学部２年	経済学部	箱崎	PC の台数をもう少し増やしてほしい。
学部２年	経済学部	箱崎	パソコンの台数を増やしてほしいと思う。
学部２年	工学部	伊都	伊都の情報サロンの PC が古く処理速度が遅いので、新しくしてほしいです
学部１年	文学部	箱崎	PC の占有時間が 1 人あたり長くて使えない。PC の台数を増加させてほしい。
学部２年	文学部	箱崎	パソコンの台数を増やしてほしいです。
学部４年	法学部	箱崎	中央図書館は PC 席の利用者が多く、必要なときに利用できない。台数を増やすか、利用時間の制限を行なってほしい。
学部３年	法学部	箱崎	設置したパソコンを学習以外に使う人を取り締まってほしい

学部４年	経済学部	箱崎	PC 利用席の充実を（つまり増加）
学部３年	経済学部	箱崎	PC 増やして
学部３年	経済学部	箱崎	ノートパソコンの席を別にしてほしい
学部４年	経済学部	箱崎	座席数と PC 席の数を増やしてほしい

スタッフ

学年	所属	キャンパス	要望など
学部１年	法学部	伊都	人員をもっと増やしてほしい。
学部１年	法学部	伊都	学習にやくたつ学校の図書館のパソコンの利用のためのサポーターが必要です。サポーターや職員なのに、利用の仕方がよくわからず、教えてくれないので、もさくするのに、苦労しました。

配架

学年	所属	キャンパス	要望など
学部１年	工学部	伊都	どこに本があるのかとにかく探しにくい
学部４年	文学部	箱崎	文系合同図書室についてですが、本の場所がかなり繁雑になってきたように感じます。自分も本を利用しているため、返却時の責任があるとは思いますが、もう少し頻繁に整理をしていただけると幸いです。それと、中央館の本の配置がとても判りづらいと感じています。
学部１年	理学部	伊都	図書をもっとわかりやすく配置してほしいと思う。
学部１年	経済学部	伊都	館内の地図がほしい。
学部１年	農学部	伊都	どこに何の本があるかがすごく分かりにくいです。
学部１年	農学部	伊都	本を検索しやすくしてほしい
学部１年	工学部	伊都	本を分かりやすく分類してほしい
学部２年	農学部	箱崎	図書をパソコンで検索したとき場所が分かりにくい。
修士１年	比較社会文化学府	伊都	図書の配置がわかりにくいです。特に各大学、学会の雑誌関係。
学部３年	法学部	箱崎	本の配置をもっとわかりやすくしてほしい
学部２年	工学部	伊都	どこにどの本があるか分かりにくい。本を戻すときにどこに戻せばいいか分かりにくい。

蔵書

学年	所属	キャンパス	要望など
学部１年	理学部	伊都	スラムダンクを読みたい
学部１年	工学部	伊都	描画ソフトか動画編集をするソフトの技術書や、普通の小説があったら図書館を利用したい。ブラインドが風で揺れて、音をたてるのをどうにかしてほしい。エアコンを強く入れるところとゆるく入れるところがあるとよいと思う。
学部１年	文学部	伊都	もっと本の種類を増やしてほしい
学部１年	工学部	伊都	個人的には、娯楽小説等がもう少し多いと嬉しいです
学部１年	理学部	箱崎	GR でも何でもいいから洋書を入れてほしい
学部１年	理学部	伊都	文庫本も置いてほしい
学部１年	経済学部	伊都	あまり行かないのですが、たまに行って、必要な本がないという場合もよくあるのが困ります。
学部１年	理学部	伊都	新作の小説等もすぐ入るようにしてほしい。
学部４年	文学部	箱崎	研究に必要な本がほとんど他キャンパスからの取り寄せになる。同じ分野の本を手に取って選べる環境であってほしい。
学部１年	歯学部	馬出	外国語で書かれた本がほしいです。
学部１年	工学部	伊都	新しい参考書などをふやしてほしい
学部１年	工学部	伊都	専門書だけでなく、小説などの本もふやしてほしい
学部１年	工学部	伊都	洋書を増やして
学部１年	工学部	伊都	学術書以外の小説なども充実させてほしい。
学部１年	農学部	箱崎	文庫本が少ないのでもっと入荷してほしい。

学部１年	農学部	箱崎	小説をもっと増やしてほしい。グループで使える自習スペースがほしい。（新、現在ともに）
学部１年	工学部	伊都	BURRN 誌、WeRock 誌、Young Guitar 誌あたりを置いてほしい
学部１年	工学部	伊都	研究室などに貸し出し中の本が多く、見たい本がないことが多々ある。
学部１年	法学部	箱崎	専門系の資料以外に小説なども充実させてほしい
学部１年	法学部	伊都	新書を増やしてほしい
学部１年	法学部	伊都	小説とかを置いてほしい。
学部２年	教育学部	箱崎	本の種類を増やしてほしい
学部２年	教育学部	箱崎	フライデーや週刊大衆もおいてほしい
学部３年	法学部	箱崎	仕方がないことかもしれないが、探している図書が箱崎(中央)になく、伊都に（のみ）あることが多くて不満だ。
学部１年	経済学部	伊都	小説入荷希望
学部１年	経済学部	箱崎	「中央」図書館らしい文献や書籍を数多く用意してほしい…。「伊都」よりも！
学部２年	法学部	箱崎	文系合同図書室、ロースクールしか判例などの資料は充実していない上、ロースクールは 24 時間開けているのにロースクール生以外は 17 時までしか利用できないのでより長くつかえるようにしてほしい。
学部２年	法学部	箱崎	人気のある本、指定教科書・参考書等は数冊置いといてほしい。更にそのうち 1～2 冊は禁帯出にしてほしい。
学部１年	芸術工学部	大橋	映像系もそろえてほしい。
学部２年	農学部	箱崎	一般図書が多くほしい
学部２年	農学部	箱崎	もう少し新しい文学の本をふやしてほしい
学部２年	経済学部	箱崎	新刊で出る小説や新書の方も充実させてほしい。学術的なものも新しいものを充実させてほしい。
学部２年	経済学部	箱崎	小説を入れてください。
学部２年	経済学部	箱崎	学術的な文献ばかりなので、小説や自己啓発本なども充実させてほしい。また、伊都の図書館は就活関連本もいれた方がいいと思う。
学部２年	工学部	伊都	より近くで、より多くの本を揃えて欲しい。
学部２年	工学部	伊都	一般図書を充実させてほしい。
学部２年	工学部	伊都	専門書ばかりでなく、小説等の本が借りやすい伊都図書館は違う雰囲気の図書館を作ってほしい。
学部２年	文学部	箱崎	図書館をよく利用しているのですが、本の木？とか、アンケートとかオススメの本ランキングなど、活気があって、それらをすごく楽しみにしています。中央図書館に、もう少しライトノベルを置いてほしいです。
学部２年	工学部	伊都	雑誌の種類をもっとふやしてほしい。
学部２年	文学部	箱崎	中央図書館には小説などの読み物はおいてないのですか？読み物が少なくて困ります。
学部２年	工学部	伊都	雑誌がもっとあったら、と思うこともある。
学部４年	法学部	箱崎	とにかく蔵書数をふやしてほしい
学部２年	工学部	伊都	マンガ
学部２年	工学部	伊都	まんがを増やしてほしい
学部３年	法学部	箱崎	学生が必要とする蔵書の充実

サービス

学年	所属	キャンパス	要望など
博士３年	比較社会文化学府	伊都	どうか、ぜひ他館の雑誌も取り寄せれられるようにしてください。製本されたものならいいのではないでしょうか。図書館にできるだけ近く駐車場を広げてください。重い本の運搬にたすかります。本が雨にぬれることも少なくなります。本の大きさによっては、閉館後のブックポストの口に入らない場合があります。ポストの口を大型本にあわせて広げていただくとうれしいです。
学部１年	薬学部	馬出	貸出期間を長くしてほしい

学部４年	法学部	箱崎	24 時間とまでは言いませんが、18 時や 22 時閉館は短すぎるように思えます。あと、研究室貸出で読みもしないのに占有し続ける研究室に対する返還請求をパソコンからもできるようにしてほしいです。それと研究室貸出自体、期間を一定程度限定する必要があるように思われます。
学部１年	工学部	伊都	カバーがボロイ本借りるときにその本用のカバーを貸してくれるとうれしい。返すときにボロすぎて自分がやってしまったのか？と思ってしまうから
学部１年	芸術工学部	伊都	今まで借りた本を日付とどのくらい借りたのかも一緒に確認できるようにしたい。（もうすでにあればいいのですが…）
学部２年	農学部	箱崎	研究室（？）が長期間文献を借りているのは止めてほしい
学部２年	経済学部	箱崎	卒業生にも使えるようにして下さい
学部２年	工学部	伊都	ジュンク堂のように図書の検索結果を印刷できると嬉しい
修士２年	人間環境学府	箱崎	文献複写のサービスを図書館内のものについてもしてもらえると大変助かると思います。

検索

学年	所属	キャンパス	要望など
博士１年	比較社会文化学府	伊都	戦前の現代詩の研究をしています。伊都キャンパスでも雑誌記事索引集成データベースにログインできるよう、お願い申し上げます。戦前の資料を収集するためには、必須のデータベースです。全集が出ていない文学者の調査にも、大変助かります。ぜひご検討のほどよろしくお願いいたします。
学部１年	医学部	馬出	どこに図書があるのかを PC で調べたときにきちんとポインターで表示してほしい。ただ地図を出すだけでなく。
学部１年	法学部	箱崎	パソコンで本を探すときにもっとみつけやすいような工夫をしていただきたい。
学部１年	法学部	箱崎	パソコン検索で本のある位置の地図が出ると分かりやすいです。
学部２年	工学部	伊都	検索システムでキーワードを変えるたびに伊都図書館にあるかどうかにチェックをつけるのが大変。
学部４年	工学部	箱崎	芸工にはデザインや設計系の本が充実しているので取り寄せたいのだけれど、やはりそういう本はタイトルを調べて検索するよりも、本棚に並んでいる本の中から表紙や中身をみて選ぶ方が使いやすいので、今のままだと使い難い。かといって実際に大橋に行くのは遠いので、本の検索システムを実際に図書館を歩いているような気分で本が探せるものにしてもらいたいです。

その他要望等

学年	所属	キャンパス	要望など
修士２年	比較社会文化学府	伊都	少なくとも、今現在中央図書館と文系図書室で近距離でありながら分離しているものは統一していただきたい。また、研究室貸し出し用の図書と学生貸し出し用の本は分離してほしい。
修士１年	その他	伊都	文系図書室の資料は統一してほしい。学校の本であるためもっと開かれたものであるべき。文系にばかり囲まれて利用しにくい。
博士３年	比較社会文化学府	伊都	現在の中央図書館では、飲食可能なスペースと、飲食不可のスペースが曖昧に理解されているような気がします。細かい性格なのかもしれませんが、図書（特に貴重書）を汚す可能性がある場所では、飲食をきちんと禁止していただけませんでしょうか。リフレッシュルームで飲食 OK になった時期から、他のスペースでも飲食が目立つようになりました。リフレッシュルームで OK なのは私もありがたいと思いますが、他のスペースではいかがでしょうか。机の上に、ペットボトルや紙パックのジュースを出された方を見ると、九大生はマナーが少し悪いなと感じて
学部４年	文学部	箱崎	静謐空間で会話したり、長時間不在なのに荷物を置いておいたりといったマナー違反を職員見回って注意すること
学部１年	理学部	伊都	雰囲気が重く入りづらいので入りやすい環境にしてほしい。

学部４年	文学部	箱崎	〈これからの図書館への要望〉・授業の合間に研究室で休憩しながら本・雑誌を読むことができるように、図書館だけでなく研究室にも本を配置しておいて欲しい。・開架閲覧室等で背表紙を見ながらどのような本・雑誌があるかを確認し、それが後々役に立つということがあるので、図書を分類して背表紙が見えるように配置して欲しい。
学部１年	工学部	伊都	本の汚れがたまに気になります。
学部１年	工学部	伊都	会話できるスペースでもないのにお喋りをしている人を減らしてほしい。
学部１年	工学部	伊都	無線 LAN は現在同様完備してほしい。外国の図書館のように、派手ではなくても、ロマンあふれる内装にしてほしい。宿泊できるようにしてほしい。
学部１年	理学部	箱崎	駅の近くに欲しい。
学部１年	理学部	箱崎	電子化、学外からのインターネットによる閲覧
学部１年	理学部	箱崎	伊都図書館の図書や資料が箱崎に比べて少ないので充実させてほしい。伊都に新しく作られても、家から遠いため利用が困難。現在の箱崎地区のあたりに図書館という施設は残しておいてほしい。
学部１年	工学部	伊都	ウエストゾーンがメインなので、伊都図書館でできないことをしにわざわざ新中央図書館まで行くのは多少辛いものがあります。
学部１年	工学部	伊都	5 つ選ぶ項目は、回答の枠も 5 つつくるべき
学部１年	医学部	伊都	娯楽施設になってしまわないようにして欲しい
学部１年	農学部	箱崎	新中央図書館の必要性を感じない。嚶鳴のような勉強スペースを新しくできる。文系、理学部、農学部の施設に設ければ十分だと思う。
学部１年	工学部	伊都	時々利用している図書館でかなりしゃべる人がいるので、何とかして欲しい。
学部２年	文学部	箱崎	盗難が多くて、友達も遭いました。まずこれをなんとかするべきだと思います。
学部２年	法学部	箱崎	・中央図書館は PC、座席、言語に関する本が少ない。しゃべって良いスペースはあんなに必要か？・土日も平日と同じ開館時間でも需要はある。できれば 24 時間あけてほしい。勉強したいんです。・新中央図書館って何ですか？中央図書館を改築するんですか？伊都にできるんですか？・新聞読むスペースと、ソファがお気に入りです（中央図）
学部２年	理学部	伊都	近隣住民も部分的に使えるようなオープンなものであるといいと思います。
学部２年	理学部	箱崎	DVD レンタル、マッサージチェア、足湯、カップ麺の自販機
学部２年	農学部	箱崎	パソコンのマウスで調子の悪いものをかえてほしい。
学部２年	経済学部	箱崎	仮眠用のソファのことですが、治安や利用状況はよくないと思います。衛生的にも、必ずしも良いとは考えられません。
学部２年	経済学部	箱崎	新しい図書館ができる頃には私はもうここにはいないと思いますが、図書館は私の好きな場所のひとつなので、良い図書館ができることを期待しています。
学部２年	経済学部	箱崎	伊都にあるのは正直不便
学部２年	経済学部	箱崎	会話可能スペース以外で話したり、音楽が漏れ聞こえているクソバカをなんとかしてほしい
修士２年	人間環境学府	箱崎	外がよく見える広い部屋が欲しい
修士２年	人文科学府	箱崎	現在，文学部の本は各層に分かれ配架されており，またその配架方法も研究室によって異なる。研究室に所属している人間以外は非常に利用しにくい仕組みになっている。図書室と研究室をたらい回しにされるケースもあるくらいだ。そこにどの本があるか分からない図書館など図書館ではない。新図書館になる際は，いつどこの人が利用してもどこにどの本があるか分かるシステムにすべきである。
学部２年	文学部	箱崎	非建設的な意見で申し訳ございませんが、伊都に移転するのは反対です。
学部２年	経済学部	箱崎	中央図書館の図書は古すぎて数も少なくもはや“図書館”というより“自習館”

学部２年	文学部	箱崎	伊都キャンパスにいる間、おうめいはせまい、自由に使えるパソコンが少ない、図書館は地味に遠いし上り坂だし、で大変不便な思いをしました。
学部３年	法学部	箱崎	皆が平等に使える図書館をつくってください。
修士１年	法学府	箱崎	各図書館の資料の貸出更新手続き（web 上での更新手続きの制限を超えた時）をどの図書館でもできるようにして欲しい。法科大学院の図書館にしかない資料が多数あるが、現在閲覧しかできず、不便を被っているため、法科大学院の図書の貸し出しを行って欲しい。
学部４年	法学部	箱崎	書庫や閲覧スペースで携帯電話が圏外にならないようにしてほしい
学部３年	法学部	箱崎	学習スペースで会話をする不届き学生をなんとかしていただけると再々です。また PC を youtube なで不当な目的で利用させるべきではないと考えます。
学部３年	法学部	箱崎	（自習室で）携帯で会話をしはじめる人をなんとかしてほしい
博士１年	比較社会文化学府	伊都	九州大学の他の図書館から雑誌を取り寄せできるようにしてほしい。今は、わざわざ、出向くか、複写依頼をしなくてはならないから。他大学との貸借が、もっと気軽にできるようにしてほしい。今は、送料を支払わなくてはならない。福岡市図書館なら、無料で取り寄せてくれるので、そちらの方がずっと利用しやすい。図書館のレファレンスの職員の質を向上させてほしい。福岡市総合図書館のレファレンスは、専門的なことでも幅広く対応し、取り寄せ図書はもちろん、参考となる図書をアドバイスしてくれたり、漠然とした要望にもいろいろな情報を提供して
学部３年	経済学部	箱崎	荷物だけ置いて PC を長時間放置するのをやめさせてほしい。
学部４年	経済学部	箱崎	返却を延滞する人にもっと厳しくいってほしい。受付に再三お願いしたのに結局返却されず必要な期日に間に合わずかなり迷惑した
学部３年	経済学部	箱崎	様々な学習法に対応できるようになってほしい。
学部２年	理学部	箱崎	グループで利用するスペースで会話ができるのはよいのですが、ただの雑談をして騒いでいる人たちもいます。そういう方々は追い出してほしいです。

その他コメント

学年	所属	キャンパス	要望など
学部１年	工学部	伊都	がんばってください。ありがとうございます。
学部１年	理学部	伊都	キレイなお姉さん
学部１年	工学部	伊都	早くつくってください
学部１年	理学部	箱崎	ベストを尽くして下さい
学部１年	理学部	伊都	新しいのできるのいいと思う
学部１年	歯学部	馬出	特になし
学部１年	歯学部	馬出	なし
学部１年	教育学部	伊都	新しい図書館とても楽しみにしています。また伊都図書館は全学から遠いので行きにくかったですが、中央にはいっぱい行きたいです。
学部１年	工学部	伊都	とくになし
学部１年	経済学部	伊都	卒業後にできる図書館のようなので、利用できないとわかっているためどう答えてよいかよくわかりません
修士１年	比較社会文化学府	伊都	もう十分だと思います
学部１年	法学部	伊都	特にありません
学部２年	法学部	箱崎	いつもありがとうございます！
学部１年	工学部	伊都	特に無いです
学部１年	教育学部	伊都	とくにありません。
学部１年	芸術工学部	伊都	特になし
学部２年	農学部	箱崎	箱崎キャンパスに造ってほしい。
学部２年	工学部	伊都	中央図書館なんていらへん
学部２年	工学部	伊都	とくにないです。
学部２年	工学部	伊都	特になし

学部 2 年	工学部	伊都	good!
修士 2 年	法学府	箱崎	本当によくお世話になっています。
学部 3 年	工学部	箱崎	ない
学部 3 年	工学部	箱崎	特にない
学部 3 年	工学部	箱崎	特になし

【別添資料 2】

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート
調査結果
（教員、大学院生対象）

平成 24 年 3 月

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

アンケート調査の概要

1.　調査目的

新中央図書館の主な利用者層となる部局の教員を対象に、学内に所蔵されている資料の現在の利用状況、新中央図書館における望ましい資料の収蔵方法や図書館のあり方等についてのニーズ調査を行い、調査結果を今後の新中央図書館基本計画策定の参考とすることを目的とする。

なお，該当する部局の大学院生についても，教員を通じて同一のアンケート回答について協力を依頼した。

2.　実施期間

平成 23 年 11 月 9 日～平成 23 年 12 月 26 日

3.　実施方法

実施部局

箱崎地区：人文科学研究院、人間環境学研究院、法学研究院、経済学研究院、留学生センター

伊都地区：比較社会文化研究院、言語文化研究院

調査方法

各部局教授会でＷＧメンバーよりアンケートの主旨について説明

回答は web アンケートフォームへの入力により行った。

1.　所属部局と職名についてあてはまるものを選んで回答してください。

回答状況

部局別回答者数

部局	回答者数（人）
人文	25
比文	37
人環（文学部系）	7
人環（教育学部系）	4
人環（工学部系）	11
法	33
経済	9
言文	12
留学生センター	8
	146

※人間環境学研究院，同学府については，便宜上「文学部系」「教育学部系」「工学部系」とし別個に集計した

職名別回答者数

職名	回答者数（人）
教授	45
准教授	50
講師	6
助教	5
その他	5
大学院生（修士）	18
大学院生（博士）	17
	146

※「その他」の内訳は，非常勤講師３名，研究員２名である

回答状況詳細

教員回答数（部局別/職名別）

部局	職名	回答者数(人)
人文	教授	8
	准教授	9
	講師	1
	その他(非常勤講師)	3
比文	教授	12
	准教授	5
	講師	5
人環(文学部系)	教授	1
	准教授	3
人環(教育学部系)	教授	1
人環(工学部系)	准教授	3
	助教	1
法	教授	12
	准教授	15
	助教	1
経済	教授	6
	准教授	2
	助教	1
言文	教授	4
	准教授	8
留学生センター	教授	1
	准教授	5
	助教	2
	合計	109

部局別回答率（教員）

部局	所属教員数	回答者数	回答率
人文科学研究院	53	21	0.396
比較社会文化研究院	45	22	0.489
人間環境学研究院	65	9	0.138
法学研究院	80	28	0.350
経済学研究院	62	8	0.129
言語文化研究院	38	12	0.316
留学生センター	15	8	0.533
合計	358	108	0.302

※所属教員数は九州大学概要（2011 年度）による

大学院生（部局別/職名別）

部局	職名	回答者数(人)
人文	修士	3
	博士	1
比文	修士	4
	博士	10
	その他(研究員)	1
人環(文学部系)	修士	2
	博士	1
人環(教育学部系)	修士	2
	博士	1
人環(工学部系)	修士	5
	博士	2
法	修士	2
	博士	2
	その他(研究員)	1
	合計	37

2. 学内資料の利用状況について

(1) ご自身の研究や教育を行うために、下記の資料を現在どれくらいの割合で利用していますか？

選択肢 1)～7)全体で 100%となるように回答をお願いします。(必須)

※文系地区の資料について、詳細がわからない場合は 2)に含めてください。

※図書館で管理していない資料についてはすべて 7)に含めてください。

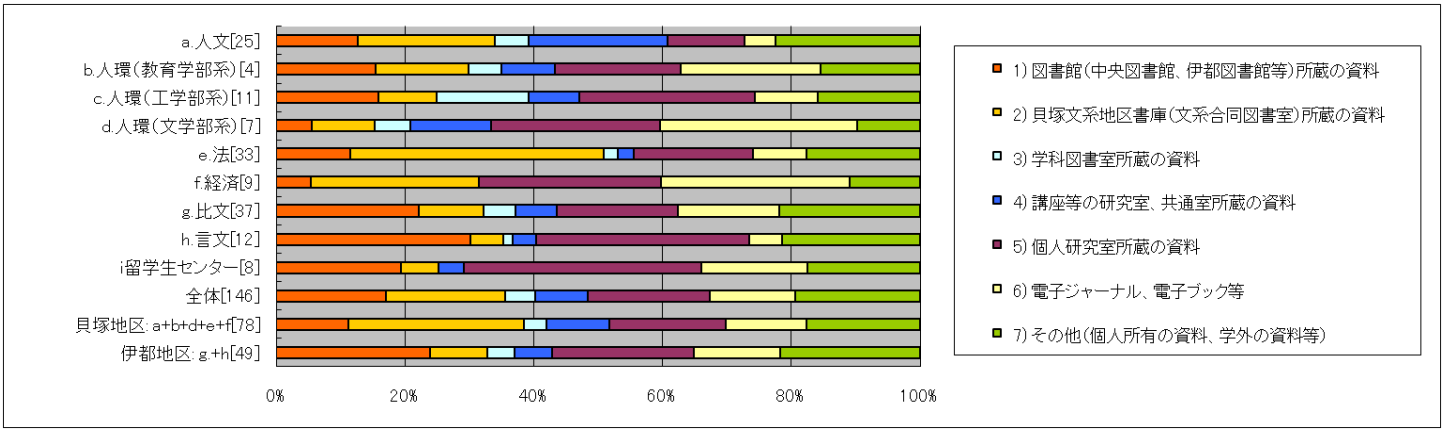
■所属別に集計し項目毎の回答について平均値を算出

所属[回答数]	1) 図書館(中央図書館、伊都図書館等)所蔵の資料	2) 貝塚文系地区書庫(文系合同図書室)所蔵の資料	3) 学科図書室所蔵の資料	4) 講座等の研究室、共通室所蔵の資料	5) 個人研究室所蔵の資料	6) 電子ジャーナル、電子ブック等	7) その他(個人所有の資料、学外の資料等)
a.人文[25]	14.8%	24.8%	6.0%	25.2%	14.0%	5.6%	26.0%
b.人環(教育学部系)[4]	37.5%	35.0%	12.5%	20.0%	47.5%	52.5%	37.5%
c.人環(工学部系)[11]	25.5%	14.5%	22.7%	12.7%	43.6%	15.5%	25.5%
d.人環(文学部系)[7]	5.7%	10.0%	5.7%	12.9%	27.1%	31.4%	10.0%
e.法[33]	12.4%	42.7%	2.4%	2.7%	20.0%	9.1%	19.1%
f.経済[9]	5.6%	26.7%	0.0%	0.0%	28.9%	30.0%	11.1%
g.比文[37]	28.9%	13.0%	6.5%	8.4%	24.4%	20.5%	28.4%
h.言文[12]	34.2%	5.8%	1.7%	4.2%	37.5%	5.8%	24.2%
i留学生センター[8]	25.0%	7.5%	0.0%	5.0%	47.5%	21.3%	22.5%
全体[146]	20.4%	22.3%	5.7%	9.8%	22.9%	15.8%	23.3%
全体(院生回答を除く)[111]	16.2%	19.5%	3.0%	9.0%	28.2%	13.0%	23.8%
貝塚地区: a+b+d+e+f[78]	13.1%	31.8%	4.1%	11.4%	21.2%	14.6%	20.5%
貝塚地区(院生回答を除く): a+b+d+e+f[64]	11.1%	30.2%	3.1%	10.8%	20.2%	10.5%	20.2%
伊都地区: g.+h[49]	30.2%	11.2%	5.3%	7.3%	27.7%	16.9%	27.3%
伊都地区(院生回答を除く): g.+h[35]	24.6%	4.9%	2.0%	6.0%	35.3%	16.6%	29.7%

文系合同図書室を主に利用する部局の利用形態を把握するため、箱崎地区の部局のうち、人環（工学部系）と留学生センターを除く部局をとくに「貝塚地区」として集計した。

全体、および地区ごとの集計については、大学院生の回答をのぞいた集計も行なった。

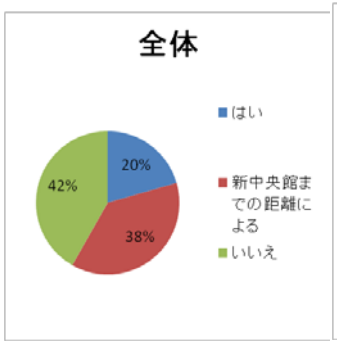
■項目毎の値を 100%になるように積み上げてグラフ化

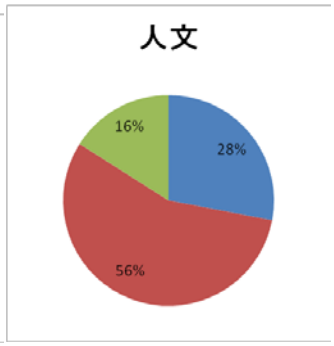


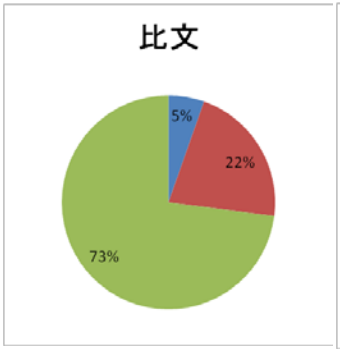
2(2) 上記の（2)「貝塚文系地区書庫（文系合同図書室）所蔵の資料」が、移転後に新中央館に収蔵された場合、あなたの研究や教育に支障が生じますか？

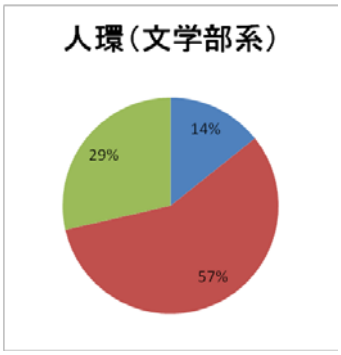
・はい
・新中央館までの距離による
・いいえ

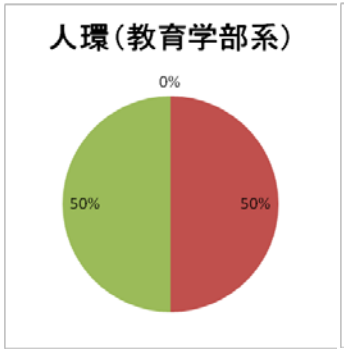
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
はい	30	7	2	1	0	4	13	2	1	0
新中央館までの距離による	55	14	8	4	2	1	19	3	2	2
いいえ	61	4	27	2	2	6	1	4	9	6

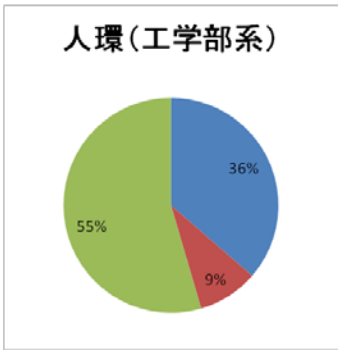


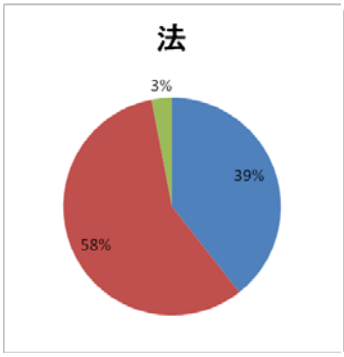


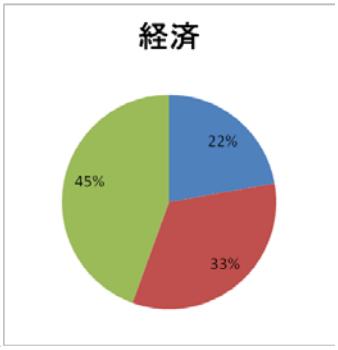


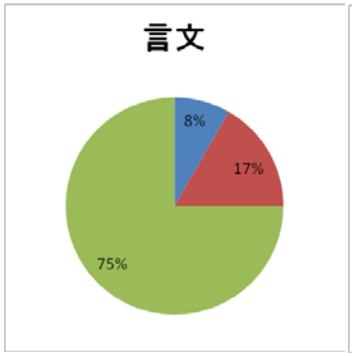


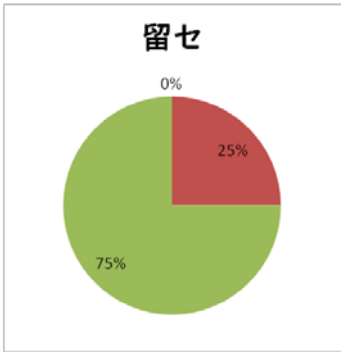










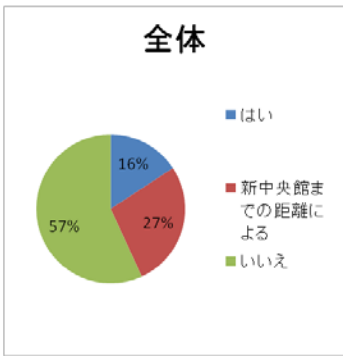


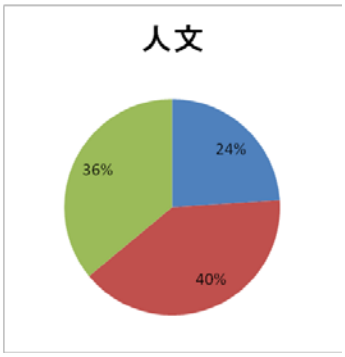
※2（2）以降の設問は、教員と大学院生の回答結果に大きな差がないため、別個に分析は行っていない。

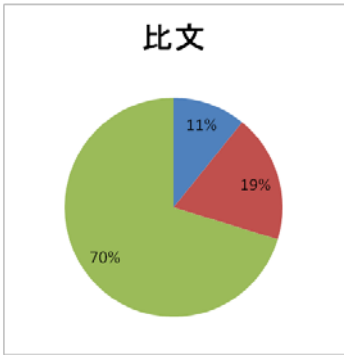
2(3)上記の（3）「学科図書室所蔵の資料」が、移転後に新中央館に収蔵された場合、あなたの研究や教育に支障が生じますか？

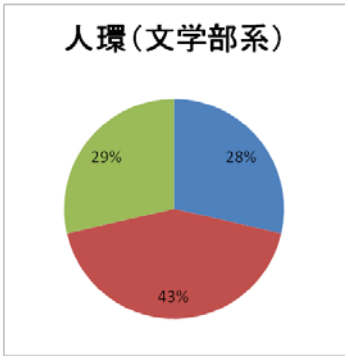
・はい
・新中央館までの距離による
・いいえ

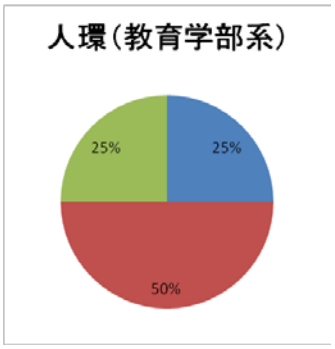
	全体	人文	比文	人環（文学部系）	人環（教育学部系）	人環（工学部系）	法	経済	言文	留セ
はい	23	6	4	2	1	6	2	1	1	0
新中央館までの距離による	40	10	7	3	2	4	11	1	2	0
いいえ	83	9	26	2	1	1	20	7	9	8

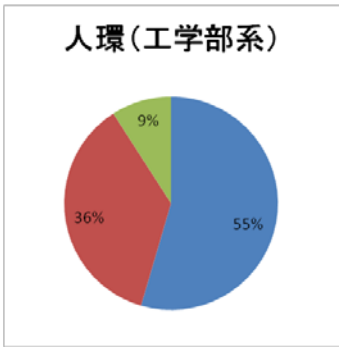


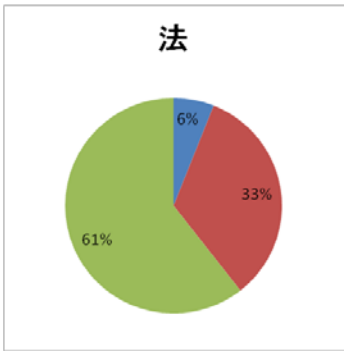


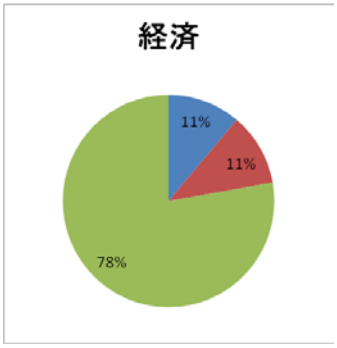


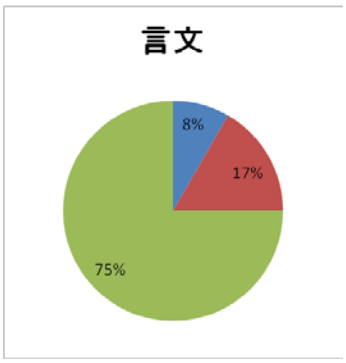








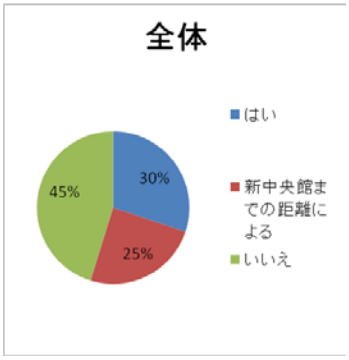


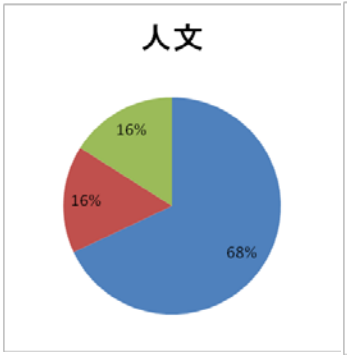


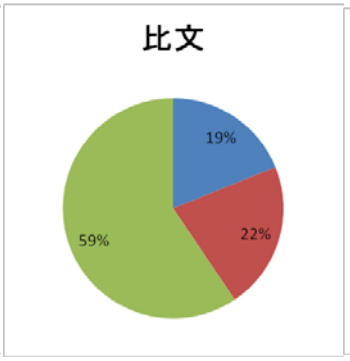
2(4)上記の（4)「講座等の研究室、共通室所蔵の資料」が、移転後に新中央館に収蔵された場合、あなたの研究や教育に支障が生じますか？

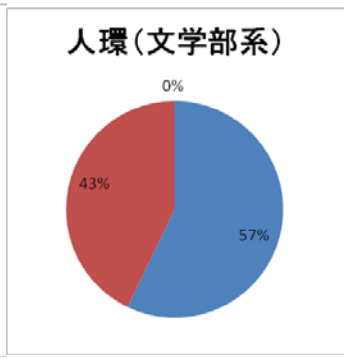
・はい
・新中央館までの距離による
・いいえ

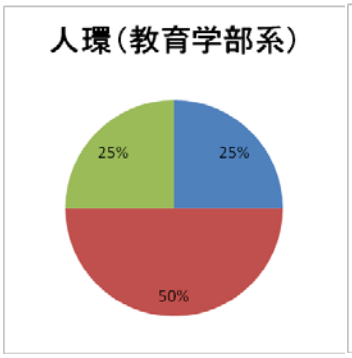
	全体	人文	比文	人環（文学部系）	人環（教育学部系）	人環（工学部系）	法	経済	言文	留セ
はい	44	17	7	4	1	6	5	1	2	1
新中央館までの距離による	36	4	8	3	2	3	10	1	3	2
いいえ	66	4	22	0	1	2	18	7	7	5

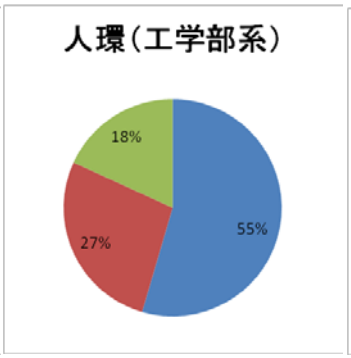


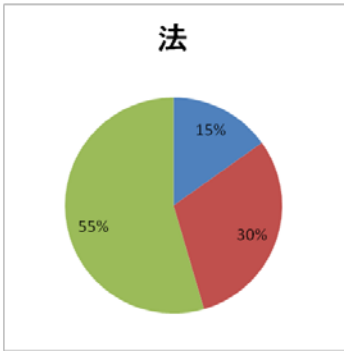


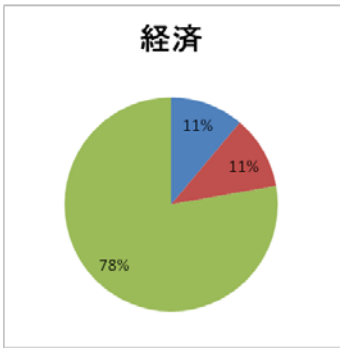


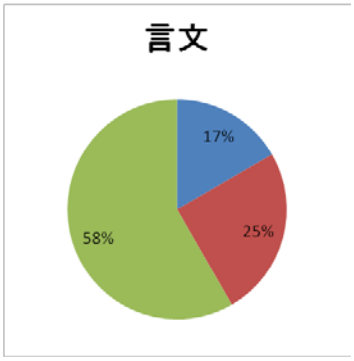


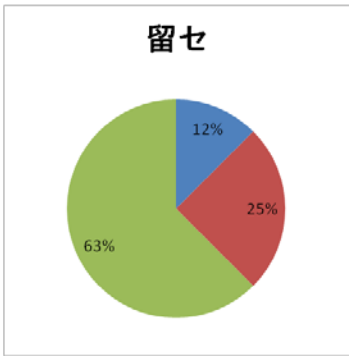








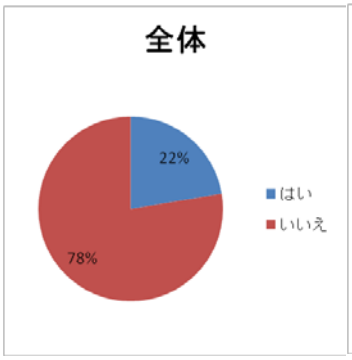


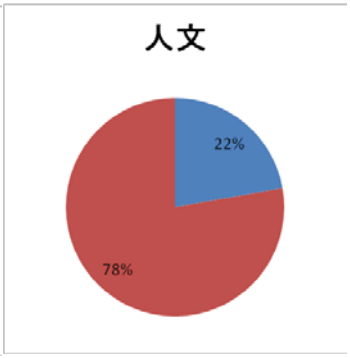


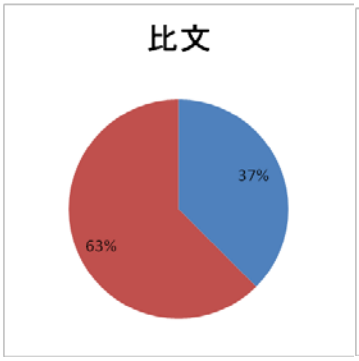
2(5)直前の 3 つの質問で「はい」と回答された方へ　　新中央館が 24 時間開館していれば研究や教育に支障は生じませんか？

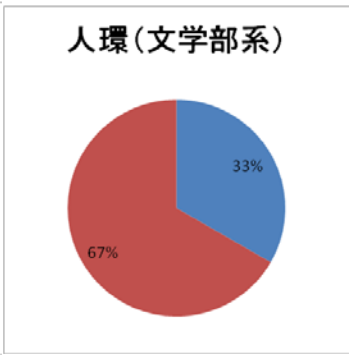
・はい
・いいえ

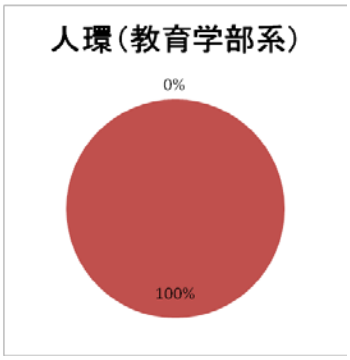
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
はい	17	4	6	2	0	1	2	0	1	1
いいえ	59	14	10	4	1	6	16	3	2	3

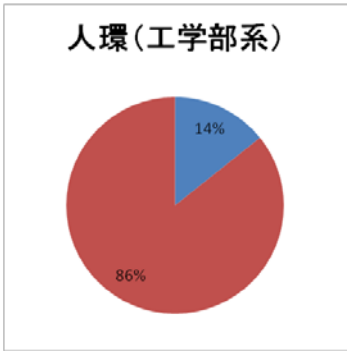


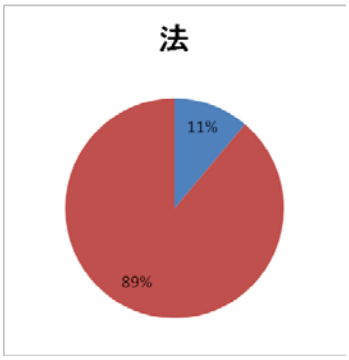


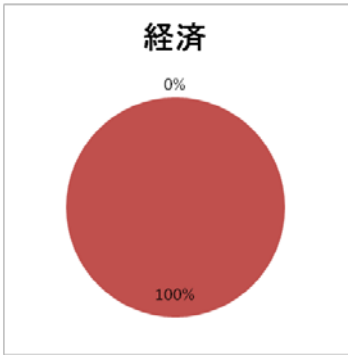


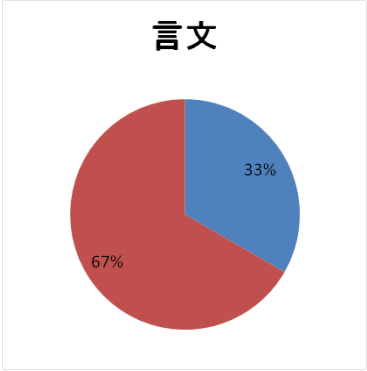


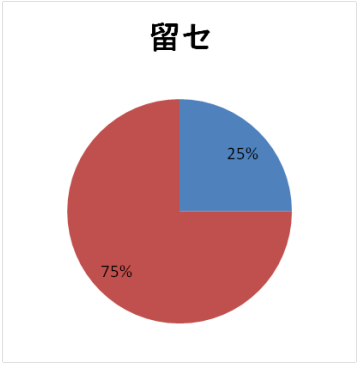








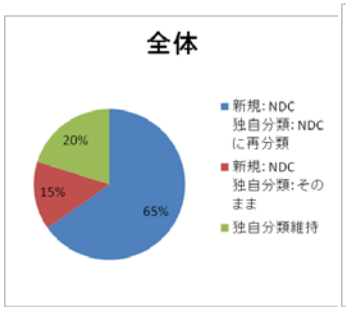


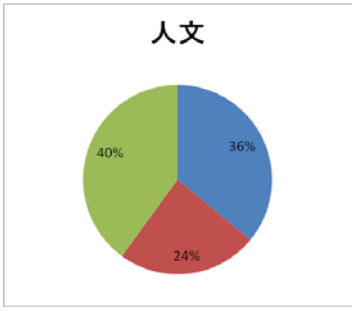


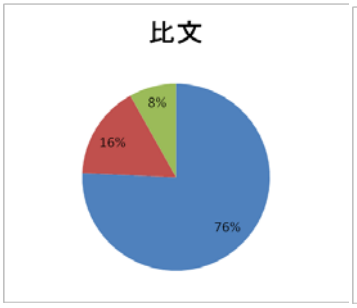
3(1)図書の分類法と新中央館での資料の配架について、下記のどれが望ましいですか？選択肢よりひとつお選びください。（必須）

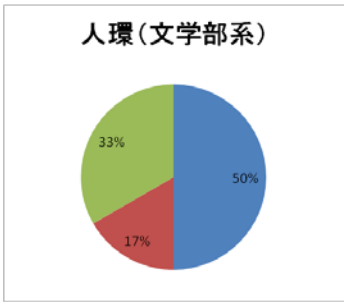
・移転後に新規に受入する資料は原則として NDC で分類する。現在独自の分類をされているものについては、今後段階的に NDC に再分類して再配架をしていくべき。
・移転後に新規に受入する資料は原則として NDC で分類する。現在独自の分類をされているものについては、移転後も分類はそのままとし、移転終了後の新規受入資料とはエリアを分けて配架する。
・各部局独自の分類体系は移転後も維持することが望ましい。

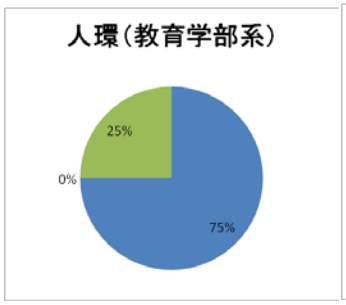
	全体	人文	比文	人環（文学部系）	人環（教育学部系）	人環（工学部系）	法	経済	言文	留セ
新規：NDC 独自分類：NDCに再分類	94	9	28	3	3	6	20	8	10	7
新規：NDC 独自分類：そのまま	21	6	6	1	0	1	5	1	0	1
独自分類維持	29	10	3	2	1	4	7	0	2	0

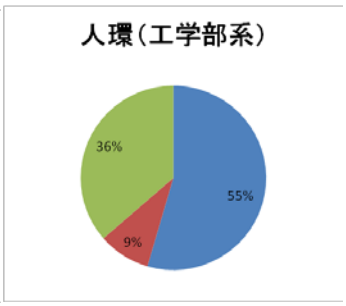


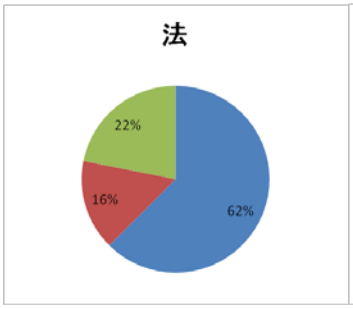


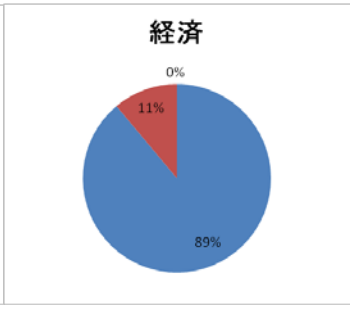


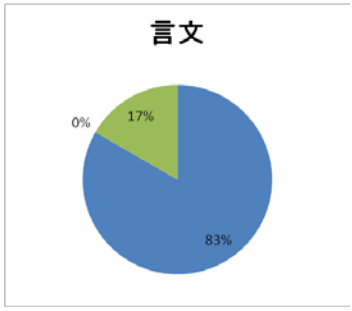


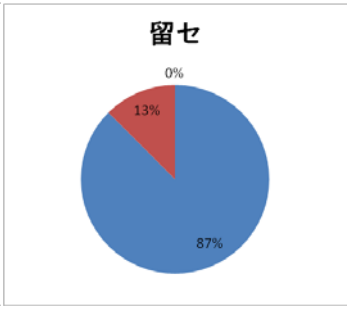








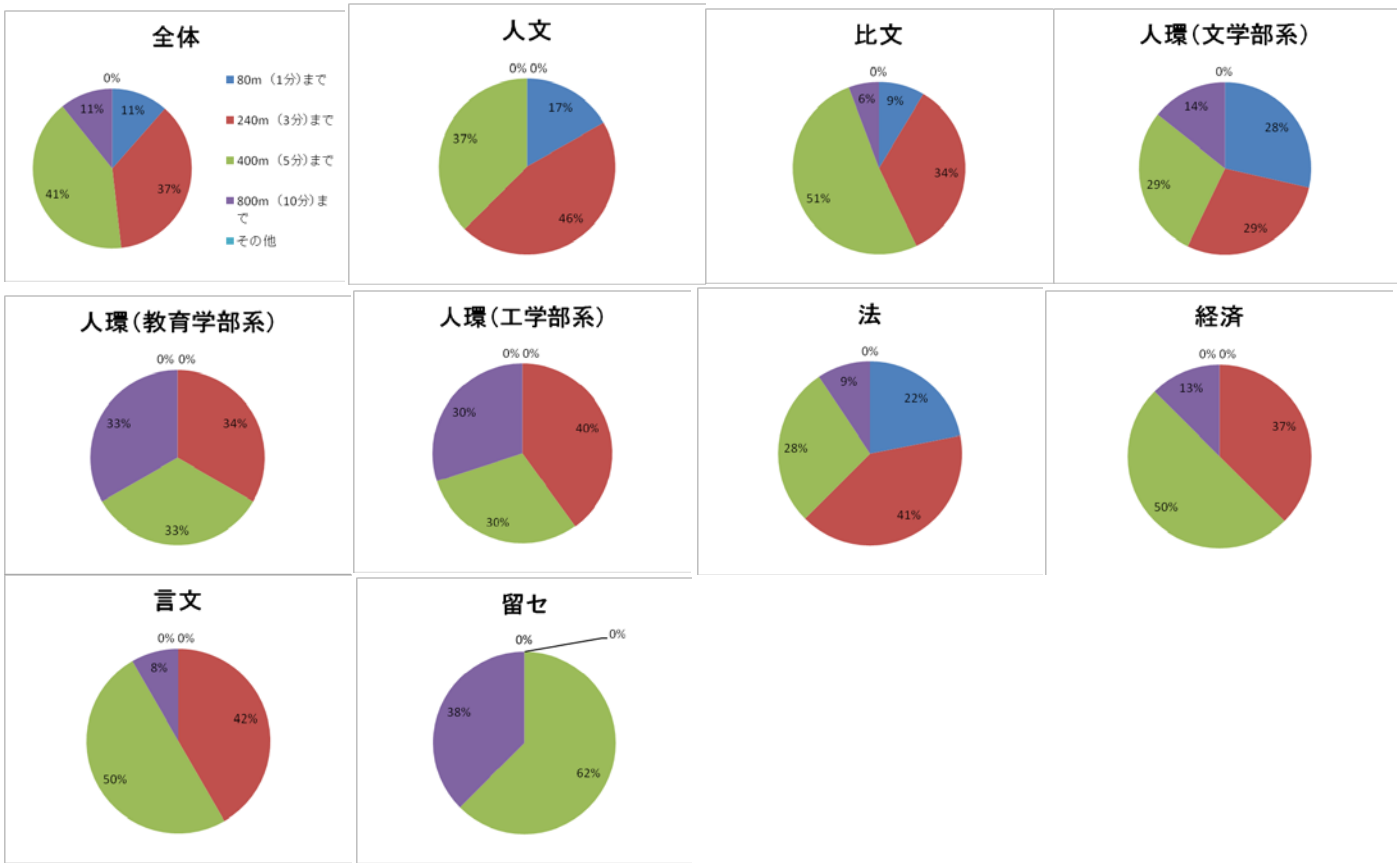




4. 新中央館へのアクセスについて　研究室から新中央館までの距離（時間）は、どれくらいまでであれば許容できますか？　※キャンパス内の高低差については、エレベーターやエスカレーター等の移動手段が確保されているとします。

・80m（1 分）まで
・240m（3 分）まで
・400m（5 分）まで
・800m（10 分）まで
・その他

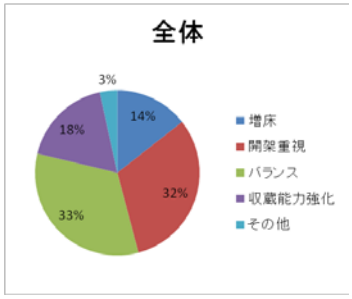
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
80m(1分)まで	16	4	3	2	0	0	7	0	0	0
240m(3分)まで	51	11	12	2	1	4	13	3	5	0
400m(5分)まで	57	9	18	2	1	3	9	4	6	5
800m(10分)まで	15	0	2	1	1	3	3	1	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

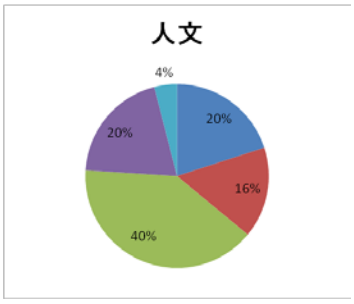


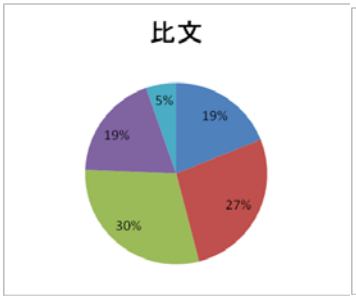
5. 新中央館における資料の収蔵方法について　新中央館の面積によっては、移転完了後に収蔵予定の資料を、すべて開架方式で配架することが困難となる場合があります。また、開架方式の資料を増やした場合、相対的に全体の収蔵可能冊数は低下します。上記のような場合、どのような対応が望ましいとお考えか下記からお選びください。

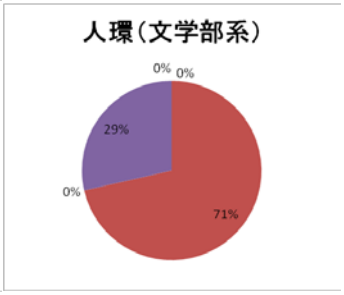
・各部局の面積を拠出して図書館の整備面積を増床して開架方式の資料を増やすべきである
・整備面積の範囲内で、できるだけ開架方式の資料を増やすべきである
・整備面積の範囲内で、開架方式と閉架方式の最適のバランスをとるべきである
・開架図書を増やすよりも、図書館としての収蔵能力の強化を優先すべきである
・その他

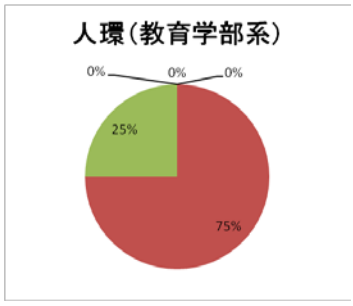
	全体	人文	比文	人環（文学部系）	人環（教育学部系）	人環（工学部系）	法	経済	言文	留セ
増床	21	5	7	0	0	2	3	1	2	1
開架重視	46	4	10	5	3	1	11	4	5	3
バランス	48	10	11	0	1	7	7	4	5	3
収蔵能力強化	26	5	7	2	0	1	10	0	0	1
その他	5	1	2	0	0	0	2	0	0	0

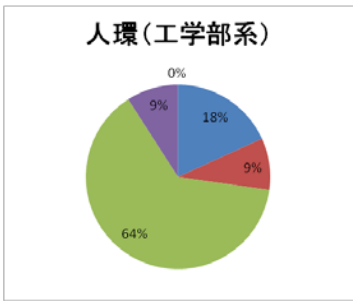


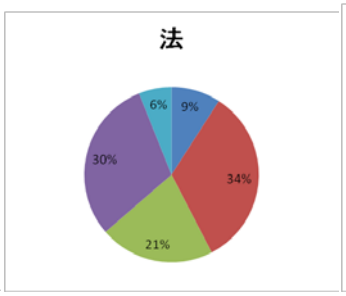


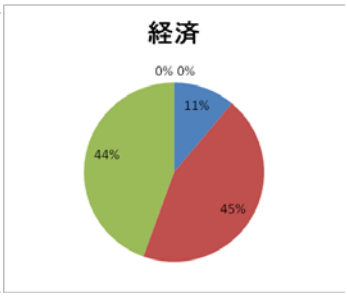


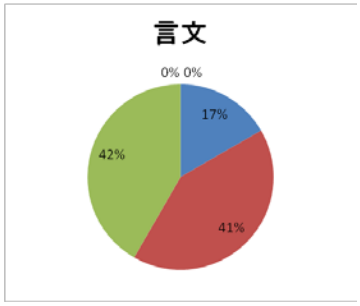


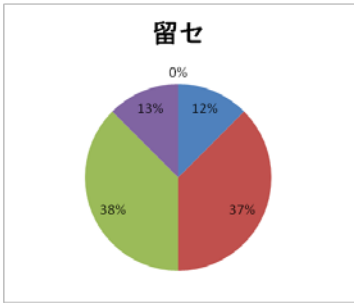








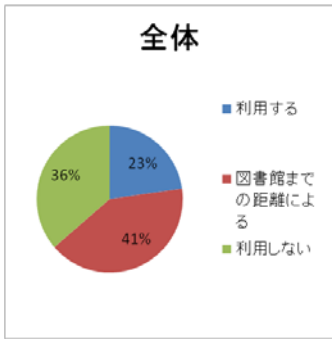


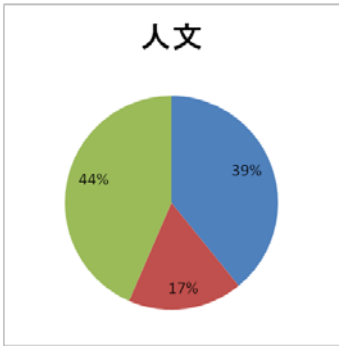


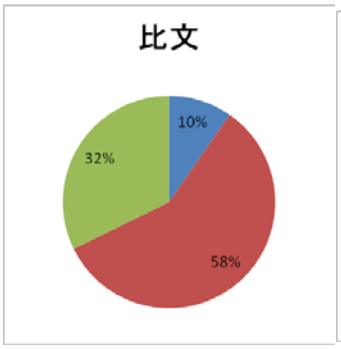
6. 図書館の教育目的での利用について　（教員の方のみご回答ください）　(1)図書館内に講義室、ゼミ室を設けた場合に、利用しますか？

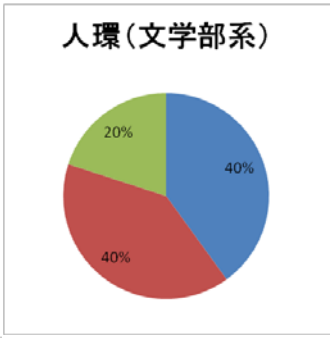
・利用する
・図書館までの距離による
・利用しない

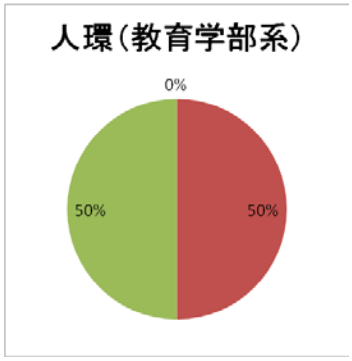
	全体	人文	比文	人環（文学部系）	人環（教育学部系）	人環（工学部系）	法	経済	言文	留セ
利用する	30	9	3	2	0	0	9	2	2	3
図書館までの距離による	54	4	18	2	2	5	10	2	8	3
利用しない	48	10	10	1	2	5	11	5	2	2

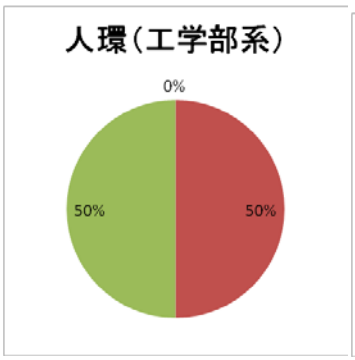


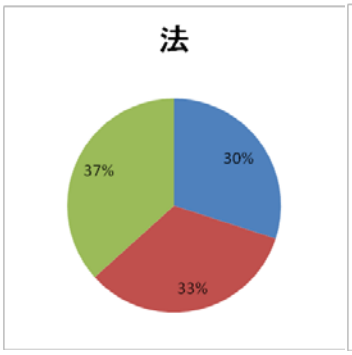


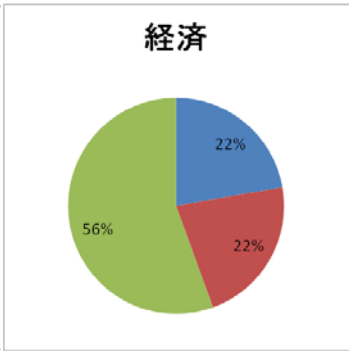


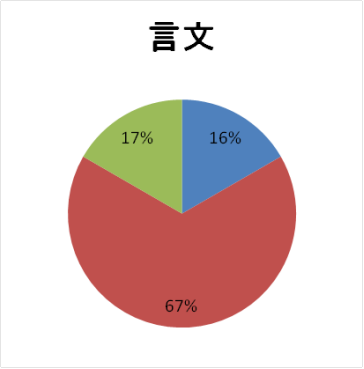


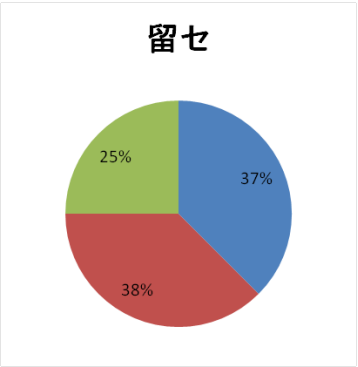












8. マスタープラン2001において、伊都キャンパスでの施設配置の方針として、理系図書館と新中央館の2館を整備することが示されています。新中央館 WG ではマスタープランの方針のもと、下記の選択肢のうち図書館集中型を念頭において基本計画を策定しています。新中央館と部局とのあり方については、図書館集中型のほか、以下にあげた形態が考えられますが、皆様はどのあり方が望ましいと考えておられますか？下記からお選びください。

・【図書館集中型】現在部局の研究棟（文系合同図書室等）にある資料は新中央館に配架し、図書に関する各種のサービスも新中央館で行う。（面積効率は最も高い）：必要面積は、おおよそ20,000平方メートル以上。

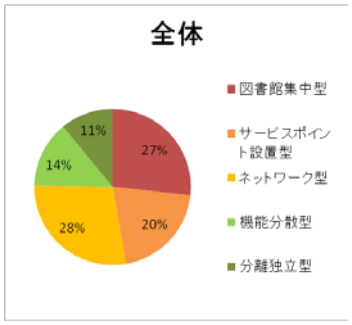
・【サービスポイント設置型】現在部局の研究棟（貝塚文系地区書庫等）にある資料は新中央館に配架し、一部のサービス（図書の受け渡し等）を行うポイントのみ部局の研究棟に配置する：必要面積は図書館集中型よりやや少ない。

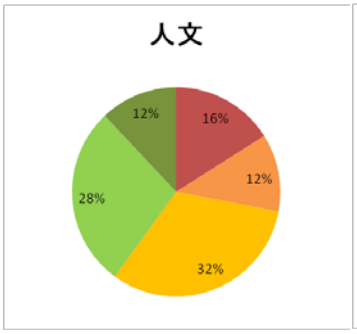
・【ネットワーク型】新中央館のほか、部局の研究棟にも一部書庫や資料室、閲覧スペース等を設置し、新中央館は各図書室と連携する。：必要面積は機能の分担程度によって大きく変わる。15,000～18,000平方メートル程度。

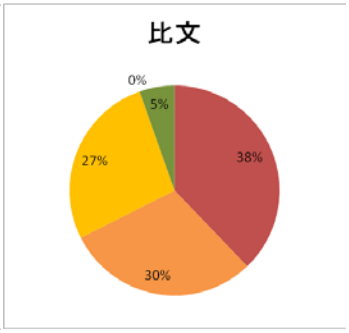
・【機能分散型】研究に必要な資料は、新中央館ではなく主に部局の研究棟に所蔵する。新中央館は基本的な資料の提供や学習の場の提供等の機能を主に受け持つ。：必要面積は、おおよそ12,000平方メートル程度。

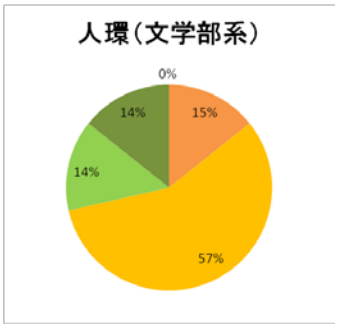
・【分離独立型】研究に必要な資料は、新中央館ではなくすべて部局の研究棟に所蔵する。各部局ごとに図書の運用と管理を独自に行う研究所型図書室を持ち、新中央館は基本的な資料の提供や学習の場の提供等の機能のみを受け持つ（面積の効率はもっとも低い）：必要面積は12,000平方メートル以下となる。

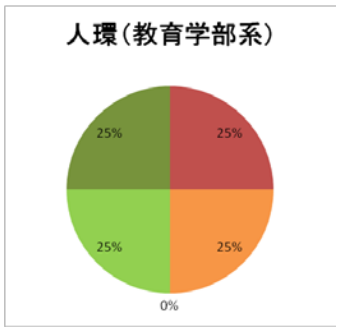
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
図書館集中型	39	4	14	0	1	1	7	4	4	4
サービスポイント設置型	30	3	11	1	1	1	4	3	4	2
ネットワーク型	41	8	10	4	0	6	8	2	2	1
機能分散型	20	7	0	1	1	2	8	0	1	0
分離独立型	16	3	2	1	1	1	6	0	1	1

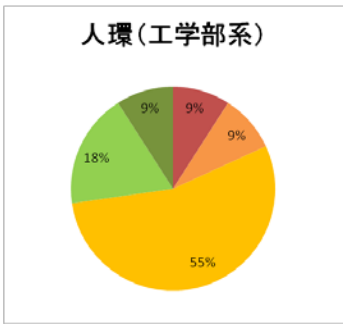

全体
図書館集中型
サービスポイント設置型
ネットワーク型
機能分散型
分離独立型
27%
20%
28%
14%
11%

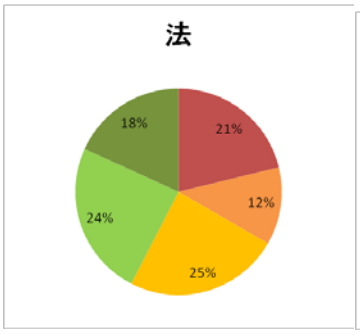

人文
16%
12%
32%
28%
12%

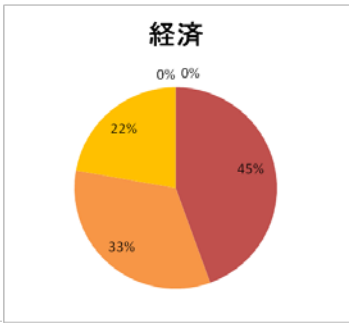

比文
38%
30%
27%
0%
5%

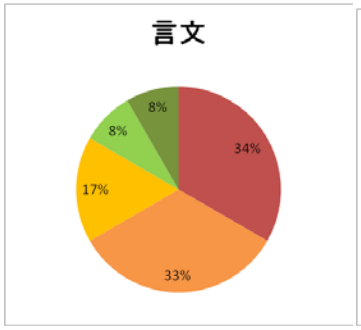

人環（文学部系）
15%
57%
14%
14%
0%

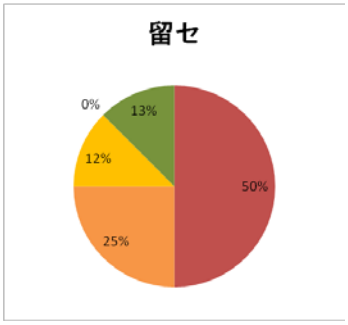

人環（教育学部系）
25%
25%
25%
25%
0%


人環（工学部系）
9%
9%
9%
55%
18%


法
21%
12%
25%
24%
18%


経済
0%
0%
45%
33%
22%


言文
34%
33%
17%
8%
8%


留セ
50%
25%
12%
0%
13%

自由記述回答

3. 資料の分類法について

2）独自分類を維持すべき資料について、また分類法全般についてご意見がありましたらご記入ください。

設問3　2）独自分類を維持すべき資料，分類法全般についてのご意見		
No	所属	コメント
1	人文	伝統的分類法(漢籍四部分類等)を有する資料については、収蔵方法場所等を含めて特別な扱いをすべきである。
2	人文	原則としてNDC分類による分類に賛成する。ただ、周知のように、図書は過去−現在－未来に渉って際限なく生み出されるのであり、固定したNDC分類が、将来に渉ってそれらの流動情況に有効に対応できるとは考えにくい。具体的には、中国古典関係書籍はやはり伝統的な四部分類法が最も有効で現実的であり、これをNDC分類によって920外国文学等に分類するのは学問研究上望ましくない。また、近年電子書籍等の新規書籍の分類の問題も生じている。これらの情況を踏まえて総合的に判断すると、図書分類については大原則としてNDC分類を容認するが、決してそれに固執することなく、図書の過去−現在−未来の変化を見据えて、ダイナミックかつ臨機応変に対応することが望ましい。
3	人文	古籍や戦前刊行資料については独自分類が望ましい。
4	人文	文系のいわゆる古典資料については独自分類が必要かつ有用
5	経済	「〇〇文庫」等、独自の分類がふさわしいものは、これを維持していただきたい。
6	人文	国文や国史の書物は、西洋的な（？）十進法の分類では整理しきれないものが多い。分類体系は学問体系とも連動しており、単純に同一化できない。
7	人文	非常によく利用する資料集、教科書、参考文献等は、分類に関わらず、利用に適した配架を考える必要がある。
8	人文	新文系図書館ではこれまでの文系図書、特に文学部図書のつかいにくさを改善する必要があります。他の人に返却を頼めない、今の文学部の図書のあり方を根底的に方法を変える必要があります。新文系図書館では、新購入の本はすべて新分類にするのは、もはや議論の余地がないほど当たり前のことです。問題は、これまでの旧分類の蔵書をどうするかです。素人が捜し出せない今の文系図書のあり方をどうするか、です。一度旧分類で分類したものを日本十進分類法に移行させるのはあまりに莫大な時間と費用と労力がかかりますので、全部でも一部でも、分類ラベルの付け直しによる移行の可能性を考えるのはやめた方がよいです。旧分類の本は旧分類のままで置いておくしかないでしょう。新文系図書館では、旧分類の本はもう増えませんから、それを利用して、永遠に位置を固定して、すべての旧分類蔵書に新たに7桁の通し番号を付けてしまうべきです。旧分類の本は書庫に並んでいる通りに、すべての本に対して、左から右へと、1冊に1番ずつ番号をつけ、全体の通し番号を1番から150万番まで、つけてゆきます。その通し番号を全部の本の背表紙に貼り付けて、素人でもその通し番号の数字だけを追いかけてゆけば、必ず本が見つかるようにするのです。そうすれば、素人（アルバイトの人）でも旧分類の本を簡単に短時間に見つけたり、返したりすることが可能になります。新文系図書館で、旧分類の本を今のままにしては、「文献へのアクセス時間と返却時間を短くする」ということが不可能です。大切なのは、位置を固定して動かさず、新たにすべての本に投資番号をつけて、それで探せるようにすることです。つまり旧分類の本には現在の分類ラベルと同時に、通し番号のラベルも併用することになります。
9	人文	専門分野がセットになって配架されていないということでは、総記・雑誌・研究書・資料がバラバラになっているということになり、使用ごとに、つまり毎日これらを揃えて確保しつづけなければならず、はなはだ不便であるばかりでなく、他の利用者にも著しい迷惑をかけ、指導にも困難が生じるので独自分類にしてほしい。
10	人文	独自の分類については、それぞれに研究に必要な理由のもとに分類されているものであるので、画一的にNDC分類すべきではない。また、コンピュータ検索が一般化された今日においては、NDC分類そのものに存在意味が無くなってきている。
11	法	Book for all″の理念に基づき、学部・学科・講座等の個別利害を越えて、幅広い利用者の便を考慮すべきと考えます。″
12	比文	特定分野をカバーし集中配架している図書群を敢えてバラシテ配架し利便性を低下させる必要もない。
13	比文	分類方法は統一されているほうが望ましいとは思うが、各部局の事情もあると思うので、配慮するに値すると判断されれば、独自の分類体系を維持してよいと考える。
14	留セ	分類法について、新しい領域、新しく学習必須となる領域が出てくると思いますので、柔軟に対応するために、定期的に分類の在り方を見直す必要があるのではないかと思われます。
15	比文	文系合同図書館の書誌が利用しやすくなるよう整理の仕方を希望いたします。

※回答者個人の特定が特定される可能性のある記述は一部表現をかえて掲載した。

6. 図書館の教育目的での活用について

2）講義室、ゼミ室にもとめる機能について、ご意見をお願いします。

設問6 2） 講義室、ゼミ室にもとめる設備について		
No	所属	コメント
1	人文	図書館の二大機能は、勉強する場であることと、本が置かれていること。100年間耐えうる図書館にするには、基本機能をしっかりさせる。いろいろの教育的な追加的な機能を考えても、10年20年経てば、不要になったりして消えてゆくものだ。100年経った時に変わっていないものは、基本機能だけだ。基本機能以外は、時代とともにどんどん変わってゆく。そのことを考えた自由度の高い設計にすべきだ。
2	比文	教育目的の利用として、私はレポート課題に図書館の配架箇所を提示して、そこから本を探し出して読むように指導している。ゼミ室をなぜ図書館に設けるのか、よく理解できない。もしも設置するならば、全学教育や学部教育の教室の設計部門と相談をしたうえで、役割を明確にした部屋としてほしい。図書館の側から、ある種の教育プログラムを提示し（Eジャーナル検索・利用方法に関するものなど）、それを実施するためのゼミだというのならば、ある程度理解できる。教員個人の授業は、本来の教室の方で実施すべきだろう。
3	比文	スクリーン、プロジェクタ、会議用パソコン、ポインター
4	人文	：10名収容の講義室5室　希望する設備：スクリーン、プロジェクタ
5	法	10~20名くらいのゼミ室で、スクリーンとプロジェクター完備
6	留セ	10～20名収容のゼミ室数室、希望する設備：スクリーン、プロジェクタ、PC
7		10名収容の講義室　希望する設備：スクリーン、プロジェクタ
8	言文	10名程度収容のゼミ室を3つほど。20名程度収容のゼミ室を2つほど。スクリーン、プロジェクタは必須。
9	言文	10名程度収容の小講義室と20～25名程度収容の中講義室の両方があることが望ましい。部屋数は講義室に利用できる面積によるが、それぞれ複数あればなおよい。希望する設備：椅子やテーブルは固定式や長机ではなく可動式（テーブルとして使える折り畳み式のボード付の椅子）がよい。プロジェクタ、スクリーン、有線LAN。
10	留セ	15名ほど収容の講義・セミナルーム　5-8室希望する設備：スクリーン、プロジェクタ、ワイトボード
11	比文	200名規模の講義室5部屋：スクリーン、プロジェクタ
12	留セ	20名収容の講義室5室、希望する設備：スクリーン、プロジェクタ、ホワイトボード
13	人文	20名収用のゼミ室、スクリーン、プロジェクタ、
14	人環(文)	30人程度が収容でき、机等のレイアウトが自由なゼミ室があると大変便利とは思いますが、これを設けることによって、収蔵可能な冊数が減少するのであれば、不要です。
15	人文	30人程度利用可能なゼミ室。パソコン・スクリーン・プロジェクタの設置。
16	人環(文)	30名収容のゼミ室1室
17	人文	30名程度まで収容できるゼミ室スクリーン、プロジェクター、大型デジタルディスプレイ、DVD/ブルーレイ再生機、
18	比文	4名程度の部屋は複数（15部屋程度）ほしい。あと、15名ほど入れる部屋が1，2あるとなおよい。
19	言文	8名収容の講義室
20	比文	AV機器、スクリーンなど。ゼミ室の収容人数は、20名ほど。
21	比文	スクリーン、プロジェクタ
22	法	スクリーン、プロジェクタ
23	言文	スクリーン、プロジェクター、CD－ROM再生用などのオーディオ・ヴィジュアル機器
24	比文	スクリーン、プロジェクタの設備
25	留セ	ゼミ室の規模：10名～20名程度だったらよく利用すると思う。
26		プロジェクタ
27	法	プロジェクター設備を備えた20名規模のゼミ室が数室あれば、学生の図書館利用も増えると思います。現在、箱崎キャンパスでは自主ゼミやサブゼミ（ゼミの準備作業）を生協などで行っていることも多くあるように思います。
28	法	ワークショップ形式ができる移動式の机、ホワイトボード
29	経済	演習テーマに関係した文献の配置
30	人文	演習や場合によっては講義にも利用したい。
31	比文	希望する設備：スクリーン、プロジェクタ
32	経済	希望する設備：スクリーン、プロジェクタ、十分な大きさのホワイトボード
33	人環（文）	希望する設備：スクリーン、プロジェクタ、無線ラン
34	法	机が動かせる部屋が好ましい。
35	人文	現在の貝塚キャンパスの使用実態から見ても、伊都キャンパスの一般講義棟・演習棟は使用が集中し、たちまち手狭になることが予想される。新中央（文系）図書館内にも、可能な限り講義室・ゼミ室等の設置を望む。30名6室・50名4室・100名2室・200名1室、いずれもスクリーン・プロジェクタ設置。また教室の半数は可動椅子机が望ましい。

設問6　2）　講義室、ゼミ室にもとめる設備について		
36	言文	現在の大学院のゼミ室が確保される場合はそこで行うこともできるが，もしそのような余裕がなくなった場合は，博士論文の審査や，論文指導，さらに院生および外部の先生と行う研究会に利用できるような部屋が必須である.
37	人文	参考図書等の充実が絶対不可欠。これらがないと、OA機器があってもゼミ室としてはまったく無意味である。
38	人文	大きなものは一つでよいと思うが、５～１０人で利用できる演習室室は現行の倍くらい（１０部屋くらい）あると助かる。現行では予約が多くて利用できない場合がある。
39	人環（工）	大規模で設備の質の高い部屋
40	比文	文系全体での希望数にもより当然増減があると思いますが、とりあえず30～50名収容の講義室3室。20名収容のゼミ室3室。全学教育で備えている設備は標準的に備えてほしいです。

7. 図書館の基本的な施設/設備以外に、新中央図書館に必要とお考えの施設/設備がありましたらお聞かせください。

設問7　基本的なもの以外に、新中央館に必要とお考えの施設、設備等についてご意見		
No	所属	コメント
1	比文	基本的機能を完全に満たすことを最優先にし、他の施設で賄うことができるものは極力、図書館内に取り込むことを避けるべきである。
2	経済	そもそも図書館内にゼミ室などを設ける必要があるのだろうか。
3	比文	機能を寄せ集めするのではなく、図書館の基本的なコンセプトを確立し、それにそった施設整備を行って欲しい。私が訪れた20ほどのヨーロッパの大学図書館には、誰も見ない掲示板、特定の利用者しかつかえないようなロッカーなどは（ほとんど）ありませんでした。大学図書館で、学生や教員がどのように行動するのか、その行動を分析すれば、おのずと施設設備の方針は定まるのではないでしょうか。利用者におもねるのではなく、「九大の図書館は、このように利用して欲しい」、「このように利用すれば、世界のどの図書館にもまけない情報の利用が可能である」、というメッセージを出して欲しい。
4	人環（文）	館内閲覧室（貴重図書などを閲覧できる受付・ロック付のスペース）
5	比文	大学院生用の学習スペース。博士論文執筆中の院生（＝おもに、文系）用に、個人用の研究机があるといいのはないだろうか。図書館から大量の書籍を移動せずにすむので。
6	比文	視聴覚室、教員専用閲覧室、校費専用コピー機
7	比文	中央図書館にある研究個室をよく利用します。同じ様な個人用個室が新中央館にも設置されることを希望します。
8	人文	語学の予習などで発声しても隣室の邪魔にならないような研究個室が必要。
9	比文	映像資料を上映できる視聴覚室
10	言文	ネットワークのソケットを多数用意したサロン
11	言文	プロジェクタ
12	人環（教）	学生同士のための連絡掲示板があれば情報提供しやすい。
13	人文	分かりやすい地図（資料、洋書、雑誌などはどこにある）
14	人文	10×10?b程度の資料なら十分に展開できるようなスペース
15	法	24時間オープンは良い。
16	留セ	調べもので疲れた時に少し休息の取れる部屋（休憩室）
17	比文	ともかく目に優しく、明るく作ってください。各机に、なるべくスタンドを設置してください。現在、伊都の図書館は節電のためなのか、閲覧室が一部、暗いです。眼に悪いです。箱崎の図書館も、暗いところがあります。 新しい中央図書館も、明るさなどの基本的設備をきちんと作ってください。デザインなどはどうでもいいです。
18	人環（工）	展示空間、プレゼンテーション空間、カフェなどのコミュニケーション空間
19	比文	コミュニティカフェのようなものがあるといい。学生、教員の枠を取っ払った語らいの場がほしい。今はエレベーターか階段のみが上り下りの手段である。エスカレーターもつけてほしい。出入り口のゲートは今以上に多くしてほしい。
20	言文	ゼミ室に加え，アメリカの大学などにあるように，学生数名が集まって議論し，課題について考えることができるような部屋が10室以上はほしい．防音設備をつけておけば，外には聞こえず，学生同士が交流する場にもなり，そうすることで研究・活動が活発になる．また，調査のために，アンケートおよびインタビューを行い，録音・録画をすることのできる設備として利用させてもらいたい．
21	人文	海外から図書館だけを利用する研究者が24時間研究できるような図書館にする。また図書館で毎日勉強するという生活スタイルを学生がもつことを支援する。図書館に5時間から10時間いるようなヘビー・ユーザーのための設備をそなえる。食事室、頭をリフレッシュさせるための30分ほどの仮眠が取れる仮眠室。24時間体制。長期貸出ロッカー。簡単なシャワー室。文系にとっては、図書館は学問の現場そのものであり、図書館の滞在時間が違う。長い滞在を快適にする様々な工夫がされねば、文系図書館とはいえない。ノーベル賞級の論文が、図書館に通いながら書けるようにする。情報サロンとかAVコーナーとかは1990年頃の発想なので、今後はタブレット型の情報端末を配るだけで十分。
22	人文	現在の中央図書館視聴覚ホールや留学生センター国際ホールを合併したような国際会議開催が可能な大ホールの設置を望む（これは図書館内でなくてもキャンパス内に設置が保証されれば良い）。貴重図書の管理保全を図るための貴重図書室や消毒室等が必要である。
23	比文	地域住民へ開放する講座やシンポなどを含め、地域との交流イベントを実施できる多目的ホール（できれば大ホールと小ホール）はぜひ必要だと思います。小ホールのほうは、ゼミ室と兼用で使用できる仕様になっていれば、兼用でも良いと思います。
24	人環（工）	飲食・通話可能なスペース。
25	法	飲食のスペースと雑誌・新聞スペースの充実
26	人文	貴重本の閲覧室喫茶室
27	留セ	喫茶室／軽食堂、十分な閲覧スペース（机＋椅子）
28	比文	ラウンジ

設問7　基本的なもの以外に、新中央館に必要とお考えの施設、設備等についてご意見		
29	言文	リフレッシュルーム（これは基本的？；おいしいコーヒーの飲める）、展示スペース、講演会会場、プリペードの公費コピー機（これはぜひ！）、製本機、観葉植物。
30	人文	少なくとも、大きな会議場、展示会場、レストラン、貴賓室は不可欠である。博物館と文書館も合体すべきである。
31	留セ	談話室、飲食できる部屋、軽食がとれる喫茶店
32	法	雨天でも濡れずにアクセスできること。
33	人文	文系研究棟と講義棟、そして図書館とは地下道、もしくは1階フロアーを完全につなぎ合わせて一体化してほしい。図書資料の保全のために、雨の日も傘をささずに各棟を行き来できるようにすべきである。特に伊都キャンパスの場所は晴れの日も強風が襲う。図書資料をいちいち「屋外」に持ち出すことは好ましくなりません。

9. その他、新中央館や現在の図書館についてご意見がありましたらお聞かせください。

設問9　その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見		
No	所属	コメント
1	人文	現在の図書館や新中央館の使いづらさを徹底的に分析することで、新文系図書館は、使いやすいものになると思います。提言されたさまざまな機能に対して、どのような優先順位をつけて作ってゆくかが物作りにおいては大事です。きちんと優先順位をつけて、図書館として本当に大事な機能をどこまで大事に出来るか、基本性能の向上にどこまでこだわれるかが、よい図書館と悪い図書館を左右する決め手になると思います。基本案というものは、並列的で総花的なプランになってしまいがちなものです。しかし本当に立派な仕事というものは、単に八方美人であることからは生まれません。コアの基本性能にこだわることから生まれるのです。どうかがんばってください。
2	人文	新中央館は、単なる図書館ではなく、大学全体の研究、教育、社会貢献、広報等の基本的インフラであるべきであり、図書館や文系のみならず、大学全体で構想すべきである。
3	法	部局ごとの図書館管理の場合、他部局の学生・院生の利用が非常に不便です。ですので、形式的にも各部局から独立した図書館部局が管理できるようにしてほしいです。
4	人環（工）	研究に使用する本の多くは専門書で使用頻度が高いため、中央図書館に所蔵されても意味がなく、手元においていつでも直ぐに見れる状況でないと研究になりません。一方で年に数回は他分野の学会誌や一般的な数学書を見るために中央図書館を利用しています。そのため、・専門図書が充実した部局の図書館・各分野の論文集や共通で使用できる数学書等を幅広く集めた中央図書館という役割分担を希望します。
5	法	文系図書館は維持すべきだと思う。本当は、文系全体が、伊都に行かず、箱崎のままのこるほうがよい。
6	言文	所在確認と取り寄せ機能が充実していれば機能分散型や分離独立型でも実質的に困ることはないとおもいます。また災害時には分散型のほうが被害が少ないような気もします。ただ、管理面でむずかしくなるでしょう。そこにいけばたいていのものはある、というほうが、やはりありがたいように思います。
7	言文	九大に着任して、中央図書館の施設と蔵書の貧弱さに愕然としました。文系図書室が分類を放棄して、研究室ごとに本を雑然と並べ、しかも飽和状態であることにも絶望しました。他大学では旧制高等学校から新制大学に移行した頃、あるいは1970年代頃までに、図書館が統合され、分類体系も統一されたのに、九大ではいまだにバラバラであるのは本当に残念なことです。今回の新中央館建設を機に、恥ずかしくない図書館を作ってほしいと思います。そのためには各部局のエゴを排する決断が欠かせません。本来、図書館にあるべき蔵書が、部局図書室や研究室に散在していることによって、教員や院生の研究の視野が自分の専門分野に閉じこもり、他分野へ視野が広がらないのは九大の研究者の弱点になっているように思いますが、その原因として現在の図書館のあり方が関係しているように思います。 もう一つの要望として、図書館は電子化を進めるよりも、まず「もの」としての本を物理的に手にとって見られる場所であることを最優先としていただきたく思います。電子化は九大図書館でなくても、海外や他機関・民間のサービスを、居ながらにして利用できます。九大経由で電子情報を得る必然性は高くありません。とりわけ、自分の専門分野以外の本については、図書館で実物を見ることによってしか、関心を持つきっかけがありません。知らない分野のことを「検索」することはないからです。そのためには、やはり図書館にたくさんの本がそろっていることは、今後も変わらず重要だと考えます。
8	人文	研究・教育における図書館所蔵資料の重要性は部局により違いがあると思いますが，少なくとも人文学では決定的です。本学の人文学の水準は全国トップクラスにあると思いますが，それも図書資料が「手元にある」良好な環境であるからこそであり，多くの他大学の教員・学生がうらやむところです。これを捨て，図書を中央図書館に集中し，閉架方式を中心とする運営が行われると，その悪影響は必至です。教員は不便を耐え忍んでも通うでしょうが，学生は確実に図書から遠ざかるでしょう。日々の研究室生活のすぐ脇に図書があり，日常的に触れるなかで，素養や学問のセンスがみがけるのですが（偶然目にとめた図書が大きな転機になることもあります），その機会を奪うことは学生の質に直ちに影響してくるでしょう。学問外の制約がいろいろあるとは思いますが，以上の点をよろしく御勘案のうえ善処ねがいます。
9	言文	現在，文系の各講座に配架されている図書は利用しにくい．全て中央図書館に配架するのは問題だと考えるが，兎に角九大内の教員・学生が利用しやすいようにしてもらいたい．現在，文系の図書の利用が難しいゆえに，自分の部屋にない本や雑誌が必要な場合には近隣の大学を利用している．自分の大学よりも他大学の方が本の借り出しがしやすいというのはかなり問題だと思う．上記のネットワーク型がよいと考えるが，その場合必ず他部局からの本や雑誌の借り出しで随時できるような仕組みにしてもらいたい．講座が本を囲い込むようなことは絶対にやめてもらいたい．そうなるくらいなら，「サービスポイント設置型」の方がよい．

設問9　その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見		
10	法	現在、研究室貸出になっている資料はアクセスが悪いので、集中管理してほしい。雑誌はバックナンバーが抜けていることが多いので、教員の研究費ではなく、購入のポリシーを決めて、大学として定期購読をして欲しい。図書の分類や配架があまりにばらばらなので、統一してほしい。
11	言文	現在他部局の書庫にある資料は利用がとてもしにくい状況であり、部局や資料によっては入手に時間がかかりすぎたり閲覧さえ困難（場合によっては不可能）だったりする場合がある。また、同じ資料（特に学術雑誌や専門書）が複数の部局に所蔵されていることがあり、関係部局が伊都地区（イーストゾーン）に移転後もこのままでは経費が無駄に使われることになる。 したがって、部局ごとの資料は、辞典事典等のレファレンス的なもの以外は、原則としてすべて新中央館で所蔵し管理すべきである。
12	留セ	教員の多くは、図書館に籠って1日過ごすということができなくなり、短時間（1時間あればよいほう）で書籍を見て回らなければならない状況です。一言でいえば、図書館を利用する時間がほとんど持てないという状態ではないかと思われます。この点を考慮して、文系と理系の図書館は別が良いし、それぞれのゾーンの中央に位置するのがベストと思います。また、図書館内は、やや古い様式（西洋建築風）の内装にした部屋があるのがよい。その周辺は、木々で囲まれ、窓外に目をやると、季節が感じられる景色が見えると、目の疲れも癒されます。
13	比文	図書館までの距離は、使用頻度に大きく影響すると考えられる。距離が長い場合は、学内配送サービスの充実などにより、図書館に出向く手間を省く努力を切望する。
14	法	新図書館の設計につき、様々なご検討をしていただき、大変有難く存じております。 小生は、これまでの間、複数の大学図書館（海外を含む）を利用して研究を行ってきました。その経験から、研究を遂行するうえで最も重要なのは、研究室と図書館との距離の近さであるとの実感を有しております。 欧米でも、多くの大学において、研究に必要な資料は研究室から1分ないし3分以内の場所に配架されている恵まれた状況が提供されております。 新キャンパスでの図書館設計におきましても、九州大学が世界の研究の拠点としての自負を保ち続けることができますよう、かわらぬご配慮を賜ることができれば幸いです。
15	人文	・休憩室や喫茶室を大幅に本格的に整備して欲しい。新中央館の最上階を喫茶レストランとして設計してはどうか。・現中央図書館のビデオ室は余りにも貧弱。新図書館では視聴覚設備を本格的に導入して欲しい。・新中央館と文系部局の建物が別棟になる場合は、連絡通路に雨よけの屋根設備が必要である。・伊都キャンパス全体もそうであるが、新中央館も地域コミュニティの拠点となることが期待される。一般市民も利用しやすい環境作りにも配慮することが望ましい。近くに設置されると聞く大学博物館とも連携して、貴重図書や文物を常時或いは定期的に展示できるスペースを確保してはどうか。現在の中央図書館2階閲覧室横の僅かな展示コーナーを大幅に拡張した形でである。
16	人文	できれば、バス停の近くなど、交通の便がよいところがいいと思います。
17	人文	伊都キャンパスは晴天の日も強風が問題である。文系教員の研究室および学生の研究室と新中央図書館とは、「屋根付き・壁つき」の通行路を建設してほしい。
18	法	研究棟と新中央図書館は、できるだけ近接して配置し、少なくとも雨に濡れないで移動できる構造としてほしい。もしこうした条件が満たされないのであれば、現状程度の文系合同図書室を維持すべきである。理系と異なり、図書館の使い勝手が研究・教育において死活的な重要性を持つことを重々認識していただきたい。
19	法	文系キャンパスから新中央館までの物理的な距離よりも、図書の研究室貸出の方法の方が、これまでの法学部に関係する運用に慣れた者にとっては重要であるように思います。現在の中央図書館の蔵書を借りる場合と同様に、長期の研究室貸出ができないのであれば、研究遂行上、とても不便です。この点、蔵書管理方法として工夫をして頂きたいと思います。 他方で、記念論文集など学生も使用頻度が高い基礎資料は、研究室持ち出しもできない禁帯出としてもらうなどの措置も必要かと思います。
20	人文	・理学系が移転しても、現中央図書館の体制を縮小しないでほしい。・最新の学術雑誌は現状通り各研究室に届けてほしいが、新しい図書は研究室に届けるのではなく、図書館で集中管理していただいた方が好都合である。・特別貸し出し（3か月）は存続してほしい。・文系合同図書室をできれば365日開館してほしい。（日曜は午後からでも構いません）・現中央図書館の航空機騒音対策は不十分。二重窓化を推進してほしい。（夏に省エネのため窓を開けていたら二重窓の意味はない）・現中央図書館の会話可エリアは広すぎて、静寂な環境を圧迫している。・文学部は自前の図書館を棟内に設置し24時間利用できた方が望ましい。・年末年始の休館日が長すぎる。
21	留セ	伊都分館では、授業や研究などの目的で教員対象に書籍の「長期貸し出し」を実施していますが、このサービスを中央図書館においても提供してほしいです。極力希望します。
22	法	特別貸出など現在の貸出態様を維持してほしい。
23	比文	各教員の研究室にある資料は、その研究室に所属する学生にとってはとても利用しやすいものです。優遇されてしかるべきだと感じます。しかし、他研究室のものを利用したいときに、手続きが面倒だという印象をもちます。一長一短で難しいかとは思いますが、少しでも改善策が練られればと思います。

設問9　その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見		
24	法	可動式書庫でもよいので、開架書庫をできるだけ確保すべき。閉架が増えるならば、自動化も検討すべき。図書館集中型のためには、部局・講座単位に拘る部局にはペナルティを、拘らず中央図書館集中に協力した部局にはメリットをそれぞれ与えることで、インセンティブを促す方法もあろう。
25	法	本を実際に手に取れるように、開架書庫の充実が望ましい。教員、学生ともに、専門外の図書へのアクセスを容易にするため、部局ごとに図書を分散させるのは望ましくない。
26	比文	「知りたいこと」を明らかにするために図書館に行くので、利用者側も勿論ですが、図書館の方も信頼を受けて職業的対応をしてほしいと思います。利用者に感情的な苦言を呈されると、利用しづらくなります。留学生もたくさんいる大学です。利用者側も努力は欠かせませんが、職員とのコミュニケーションが原因で図書館のサービスを利用出来ず、学業がスムーズにいかないのは悲しいことだと思います。図書館のことを利用者が知らないのは当然のことだと思うので、分からないことを尋ねた際には、教えてください。
27	比文	レファレンスの質の向上。他大学の図書館との連携の強化。文献複写の申し込み等の窓口は、昼休み（12時～1時）は閉まっているが、その間も業務を遂行してほしい。雑誌（最新刊は除く）の貸し出しは、現在1週間で延長が認められていないが、一回は延長できるようにしてほしい。
28	人文	非常勤講師の場合、わざわざ図書館利用カードを作成してもらってから初めて利用が可能だが、それも毎年更新の必要があり、毎年連続して勤務している者には不都合を感じます。また、資料の郵送を行わないということでは研究に支障が生じるので是非とも改善をお願いしたい。できれば、非常勤に任命された時点で利用カードを自動的に発給していただきたい。
29	比文	図書館のサービスには大変満足し、感謝している。しかし、ハードの部分では残念に思うことが少なくない。人の視線が集中力を妨げることのないような配慮ある閲覧スペース、ロッカーや傘立てなどゆとりある荷物の収容力の整備、書棚のすぐそばの椅子の配置など、利用者本位（基本は個人）の設備を充実してもらえると、個人的にもっと図書館に足を運びたくなるし、学生にも利用を促しやすくなる。ところが現在の図書館は、滞在時間をできるだけ短くしたい場所でしかない。伊都図書館は、持ち込み資料で勉強させるか、インターネット閲覧をさせるためには便利だが、内部の図書資料を見て、気に入ったものを読んでいくという使用には不便である。また、文系図書館は、資料を館内でコピーさえできず（数年前の事です。今は状況が変わったかもしれませんが、あまりに不便なのでこの数年ほど利用していません）、中央図書館でも、多くの資料が配架されている2階にコピー機は設置されていないので、不便を感じることが多い。そのため、わざわざ箱崎キャンパスに行って利用しようという気にはなれない。（種々の業務で箱崎に足を運ぶので、利用しやすい環境が整っていると大変助かるのだが。）もちろん、これらの事態にはそれなりの考えがあってのことだと推察する。コピー機を分散配置するとメンテなどで面倒であるだろうし、また予算的な問題もあるのかもしれない。しかし、コピー機の設置や、コピー方法の掲示などは、最低限の基盤整備の部類に入ることではないだろうか。現在の伊都図書館は、全学教育の学生も利用するということを考えるならば、入学したばかりの学生にどのような情報を提供すべきか、Q-Commonsと連動した形で修学指導を兼ねた図書情報の配置ができないか、さまざまな工夫の余地があるように思う。ところが現実は、伊都図書館入り口左にあるようなお薦め図書スペースや、右側の雑誌棚が、九州大学の大学図書館としての品位を落としてしまっている。図書館にいけば必ず新しい発見がある、という仕掛けを作って欲しい。このことは、特にすべてが電子空間で事が足りると思っている人が多い現在、図書館に課せられた大きな使命だと思う。そしてそれは、それほど難しいことではないと思う。例えば、新聞、雑誌などを今のように奥まったところに置くのではなく、入り口の近いところに集中配置し、ゆっくり読めるようにソファを置く。それだけでも違う。また、利用規程や利用マナーに関する掲示は入り口前、必ず人の眼に触れる場所に集約し、図書館内には学術的な情報と館内案内だけを掲示する。新書や文庫を単行本などから離れたところに置くのではなく、同じ空間に置く。（壁や通路を新書棚、文庫棚にできないだろうか。）図書館内を歩いているだけで、いろいろな情報が入ってきて、知的な刺激を与える、そんな空間的な工夫をしてほしい。図書館の本来の機能を果たすために、なすべきことはもっとあるのではないだろうか。
30	法	伊都はバスを利用しなければならず、自転車の利用も極めて不便だから、学生にとっては遅くなれば朝まで居残って学習できる環境が必要。中央図書館を24時間利用可能にできないか。
31	比文	貸出率の高い図書は開架に貸出率が低い図書や低下した図書は閉架へ収納するようにしてほしい。屋台ではないが、（リモート）貸し出し返却ブースを設けてほしい。中央図書館等の資料も長期貸し出しを可能にしてほしい。
32	人文	箱ものばかりに目がいきがちであるが、現存資料の保存の観点から、この機会に是非ともお願いしたい。それは保存書庫にある松涛文庫の数千点におよぶ和装本の保存である。現在は本を保護する帙がなく、資料劣化が非常に進みやすい状態にある。他の本と同じように、帙を作るべきである。また、近年寄贈された雅俗文庫の本についても同様の配慮を願う。段ボールに入れたままというのは、図書館学・アーカイブズ学の専攻を有する大学としては恥ずかしい話である。

設問9　その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見		
33	比文	研究室の図書はそのまま、新研究室で閲覧可能なスペースを確保してください。
34	比文	今の伊都キャンパスによるあるような変なカタカナ名称は断固として付けないようにしてください。（例、ビックオレンジ、ビックサンド、ビックドラ、おうめい天空広場など）。 長期的に考えて、こういう変な名前は飽きられます。普通の名称を付けてください。（いまのこういう変な名称は、付けた人々の世代（現在の中高年層）を感じさせ、いまでも失笑ものです）。
35	人環（文）	ドイツでは館内の暖気を得るのにPCを集中して熱気を室内に取り込み、外からの冷気を取り込む際には暖気のパイプと交差することで、冷気を温暖化してとりこみ、暖気を冷化して外部に排出するパッシブハウスの理念が浸透しており、フライブルクのヴォータン地区ではこれ以外の建築は無駄なエネルギーを使うものとして避けられている。新中央図書館も、面積や開架問題ばかりでなく、こうしたエネルギー不要の仕組みを作って欲しいものである。それは日本の他大学に誇れる施設ともなるであろう。

まとめ

この報告書では，以下の 2 つの観点について回答全体の傾向について述べ，今後の新中央図書館基本計画の検討のなかでさらに分析や対応を行うこととする。

--学内資料の利用状況/図書館へのアクセス--

本学ではとくに箱崎地区の文系部局にとって中央図書館の機能が弱く，その結果多くの資料が研究者の身近にある文系合同図書室や学科図書室あるいは講座・研究室に所蔵されてきた。そしてこの恵まれた研究環境が箱崎地区の文系研究室の特質となっている。

今回のアンケートへの回答でも，とくに人文科学研究院では回答者のうち 3 分の 2 以上の教員・院生が「講座等の研究室，共通室所蔵の資料が，新中央館に収蔵されれば，研究・教育に支障が生じる」と答えている。また法学研究院では「新中央館までの距離による」という回答まで含めると，全体の 97%が「貝塚文系地区書庫（文系合同図書室）所蔵の資料が，移転後に新中央館に収蔵されれば，研究・教育に支障が生じる」と答えている。そのほか人間環境学研究院の工学部系（建築学系）では学科図書室の資料への依存度が高く，部局ごとの資料の利用状況の特徴を見出すことができる。回答者はこのことによって生じる支障について，新中央図書館の 24 時間開館でもほとんど解消されないと考えていることから，問題が「サービス時間」でなく「図書館への距離・所要時間」による問題であることがわかる。

また，人文学研究院，法学研究院では，新中央図書館への許容できるアクセス時間を 3 分以内とした教員・院生が回答者のうちの半数を超えており，伊都キャンパスにおける配置計画において新中央図書館へのアクセスが充分考慮されなければならない。

--図書館における教育施設・設備--

図書館における教育施設については，半数を超える回答者が「利用する」としている。ただし詳細については大規模なホールや講義室への要望と，10 名程度の小規模な演習・ゼミ室への要望に大きく分かれた。このことから判断すると，学科や学部単位で行う通常の講義形式による中規模（50 から 100 名程度）の講義室は部局での整備が前提となり，学会や講演会または資料を活用しながらのディスカッション対話型教育である演習・ゼミへの対応が図書館に求められていると判断できる。中にはゼミ室は不要との意見もあり，部局での教育環境の充分な整備を前提とすれば，教育に関して図書館はあくまでも補完的役割を担うとらえるべきである。